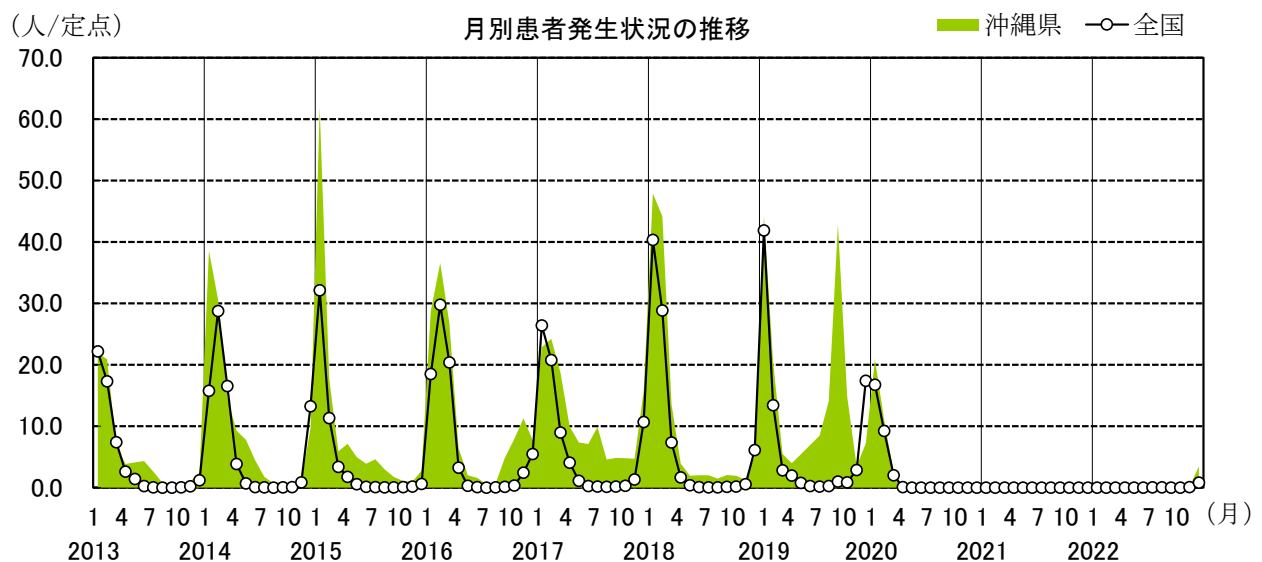
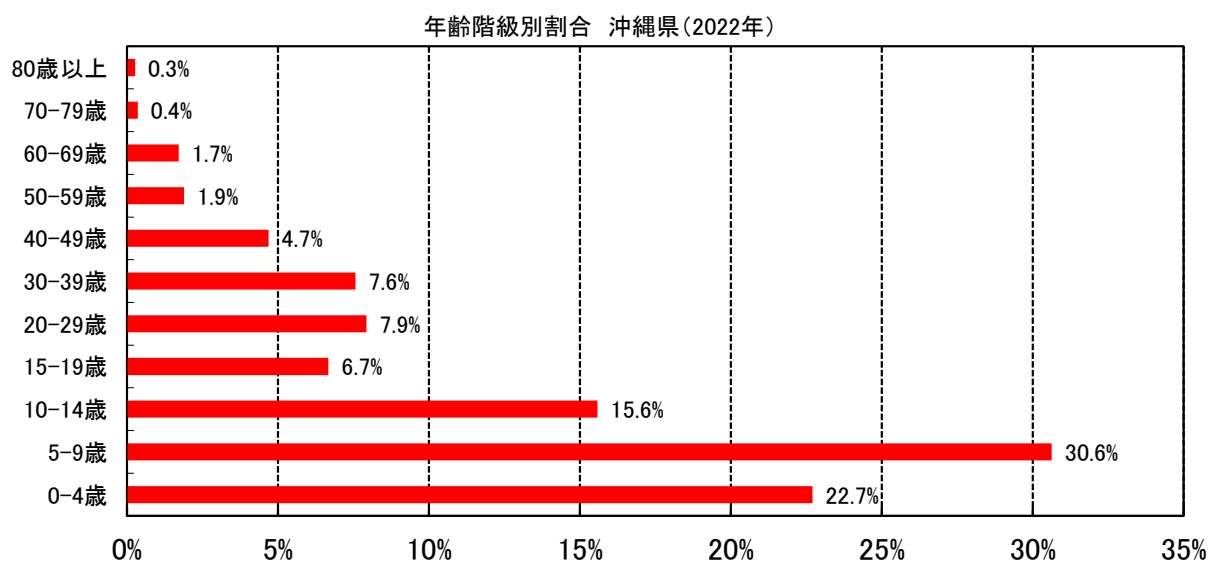
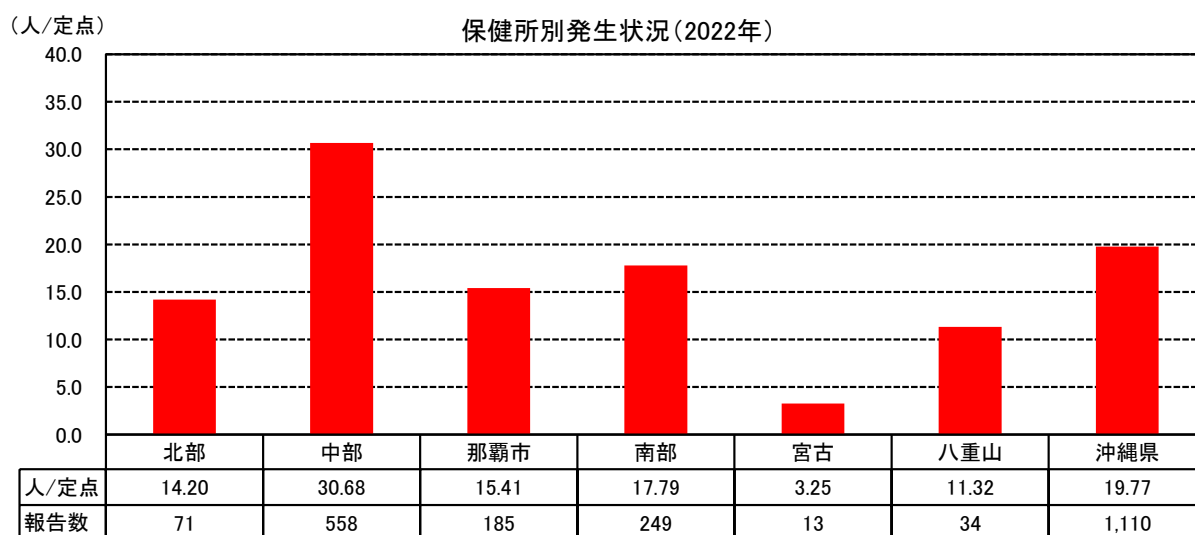
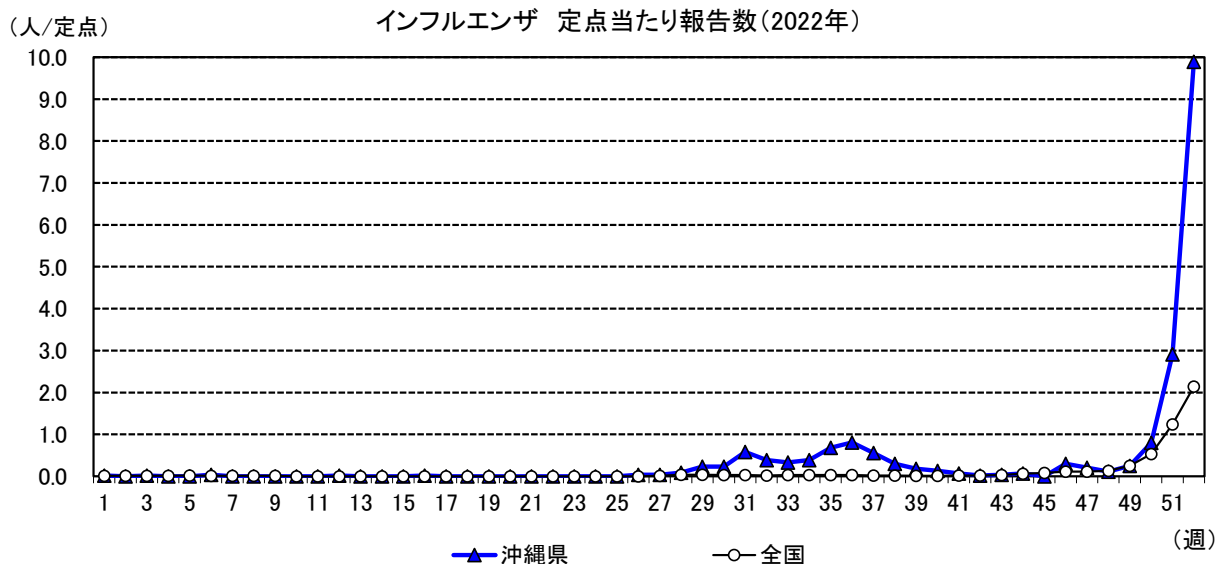
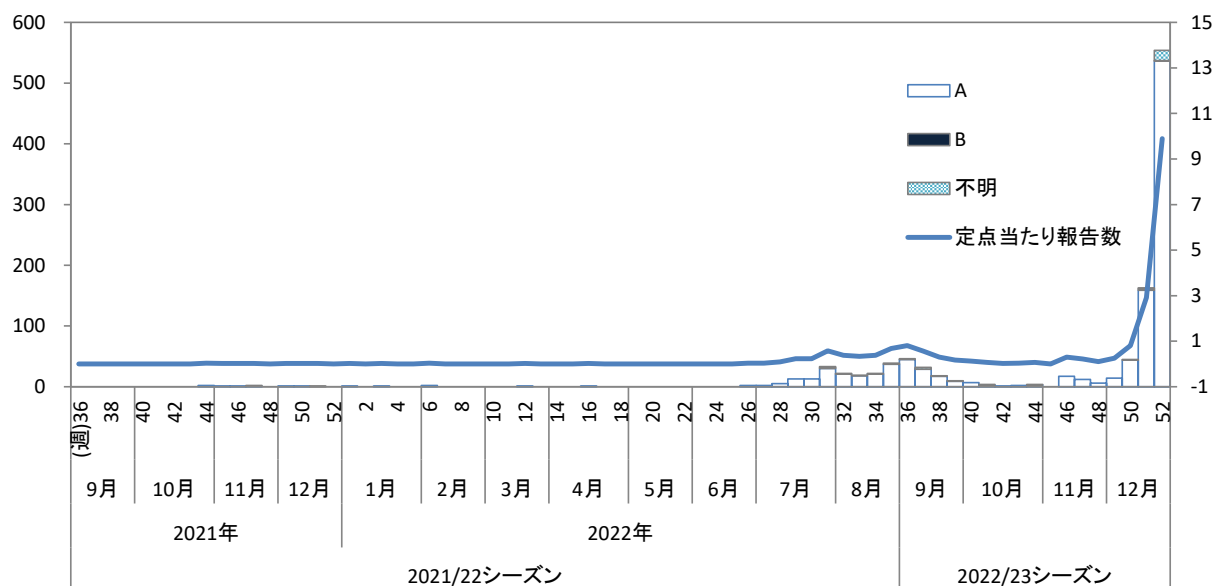


Ⅲ 定点把握対象 五類感染症(週報・月報)発生状況

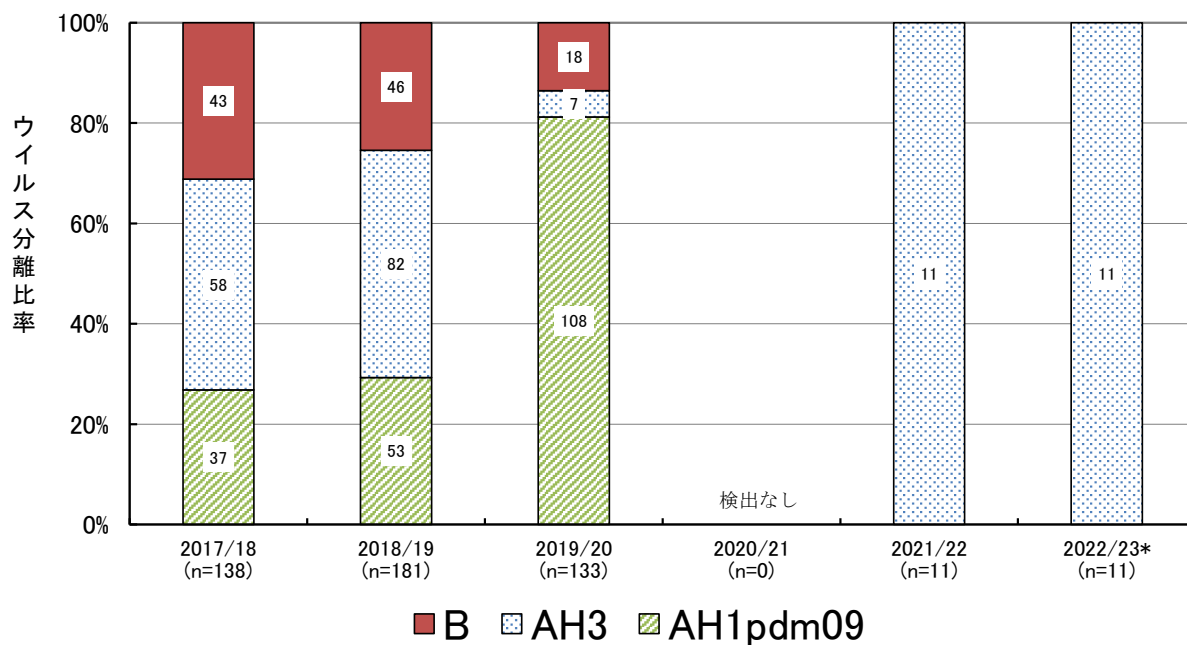




インフルエンザウイルス型別報告**
 (検出数:件) 定点医療機関(2021年第36週～2022年第52週) (定点当たり:人/定点)



シーズン別インフルエンザウイルス検出状況(衛生環境研究所検査分)**



シーズン(9月～翌年8月)別の報告数合計:インフルエンザ

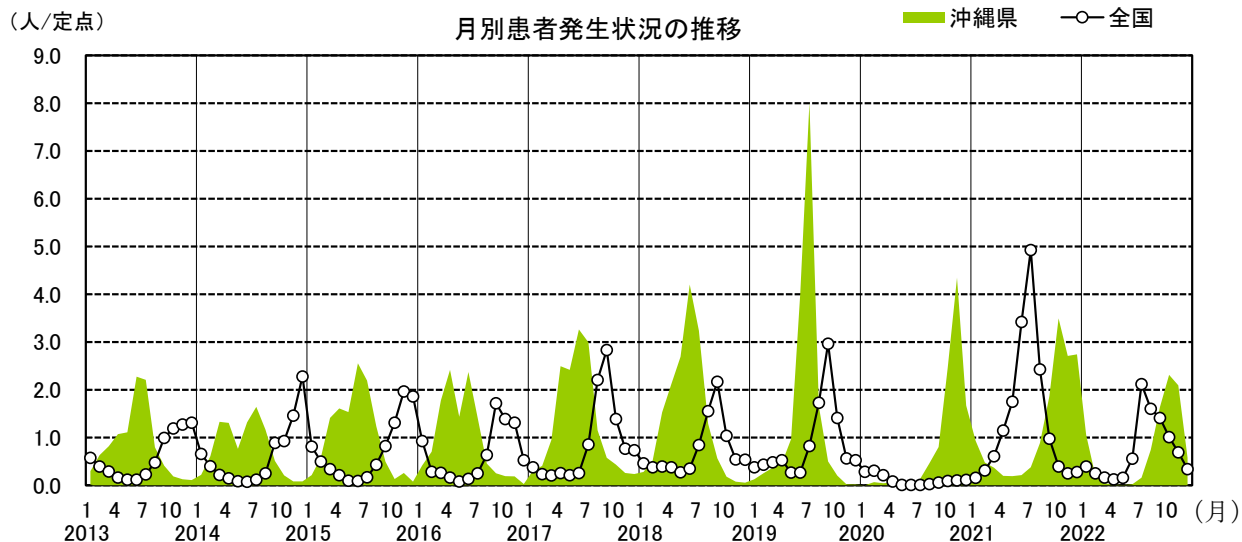
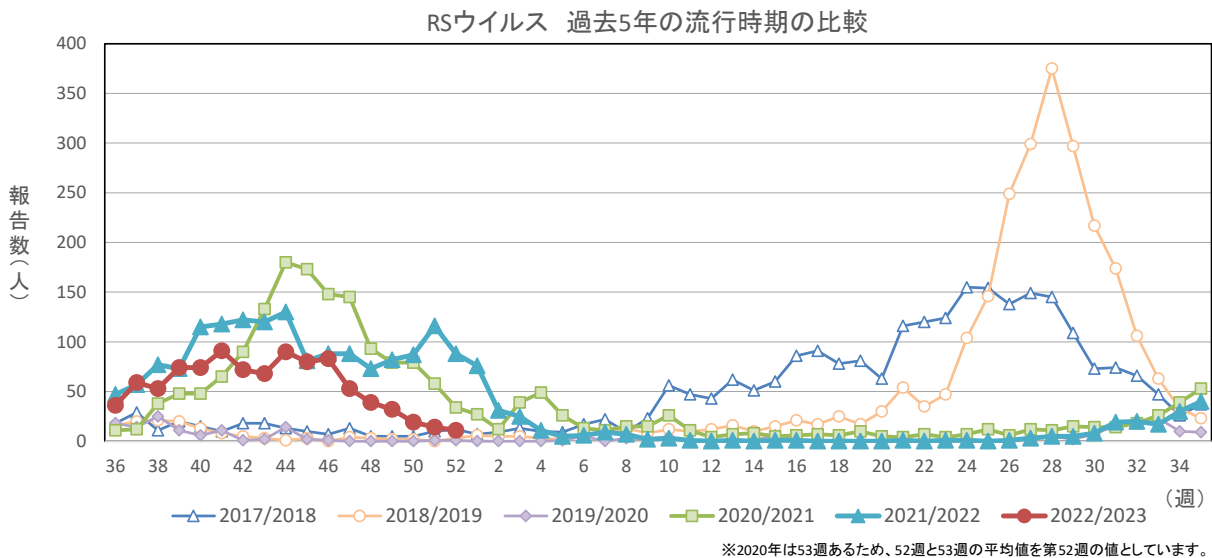
平均報告数 (2022/23)を除く	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23*
18,636	36,915	31,137	24,902	44	184	934

* : 2022年第36週～第52週の集計。

** : AとBの重複感染例を含む。

●RSウイルス感染症

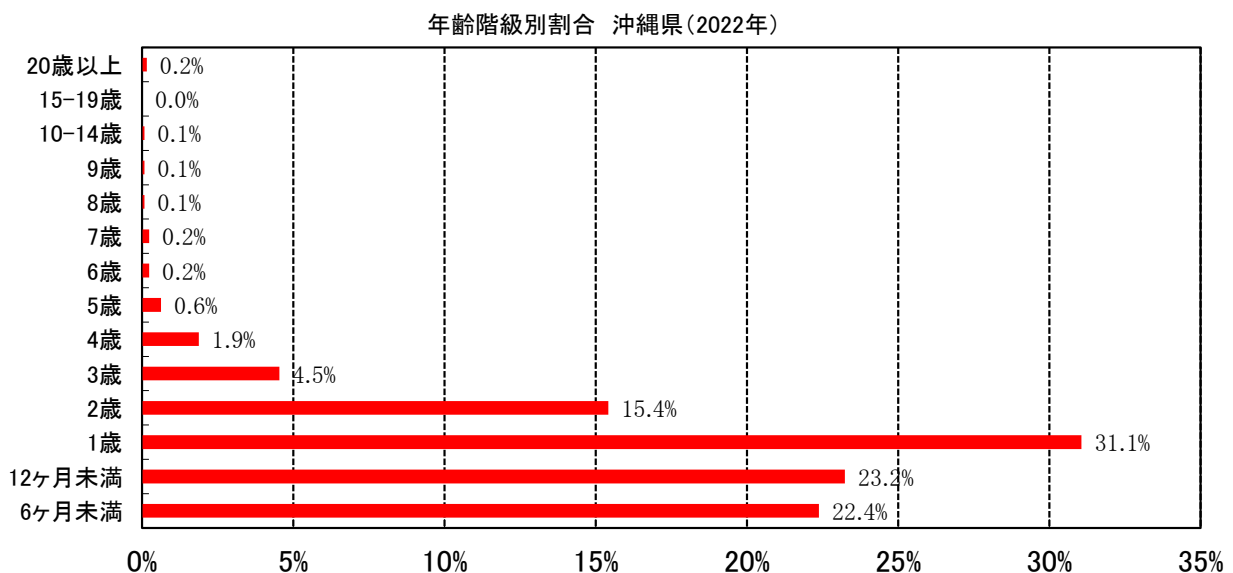
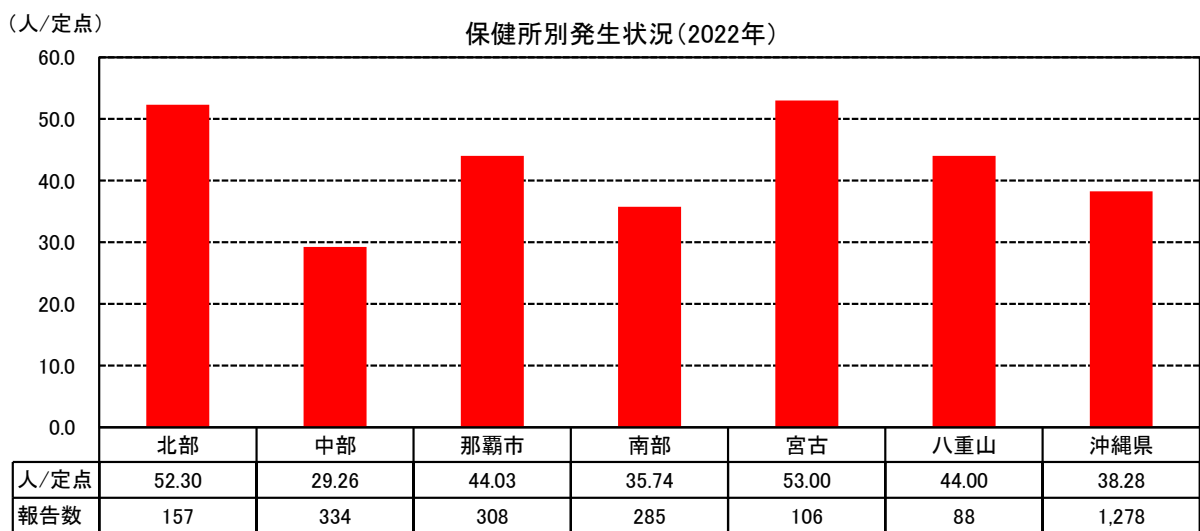
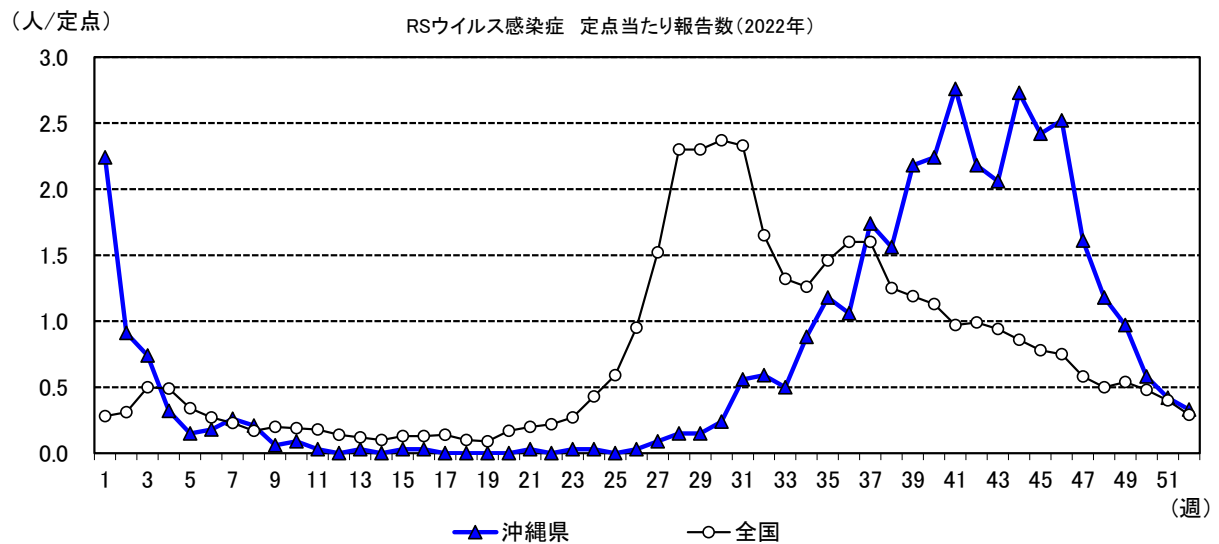
2022年、沖縄県内の報告数は1,278人、定点当たり報告数は38.28人であった。2021/22シーズン（2021年第36週～2022年第35週）の報告数は1,892人、2022/23シーズン（2022年第36週～2023年第35週）の報告数は2022年第52週までで948人であった。沖縄県の2021/22シーズンの定点当たり報告数の中央値は0.29人で、2021年第36週から2022年第4週、2022年第31週から35週に中央値を超える報告があった。2022/23シーズン（2022年第52週まで）の定点当たり報告数の中央値は1.74人で、2022年第39週から第46週で中央値を超える報告があった。2022年の年齢階級別（沖縄県）では2歳未満が全体に占める割合は76.7%で、過去5年（2021年:68.3%、2020年:72.8%、2019年:81.8%、2018年:85.1%）で三番目に高かった。



シーズン（9月～翌年8月）別の報告数合計：RSウイルス感染症

平均報告数 (2022/23を除く)	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23*
1, 861	2, 589	2, 586	227	2, 012	1, 892	948

* : 2022年第36週～第52週の集計。



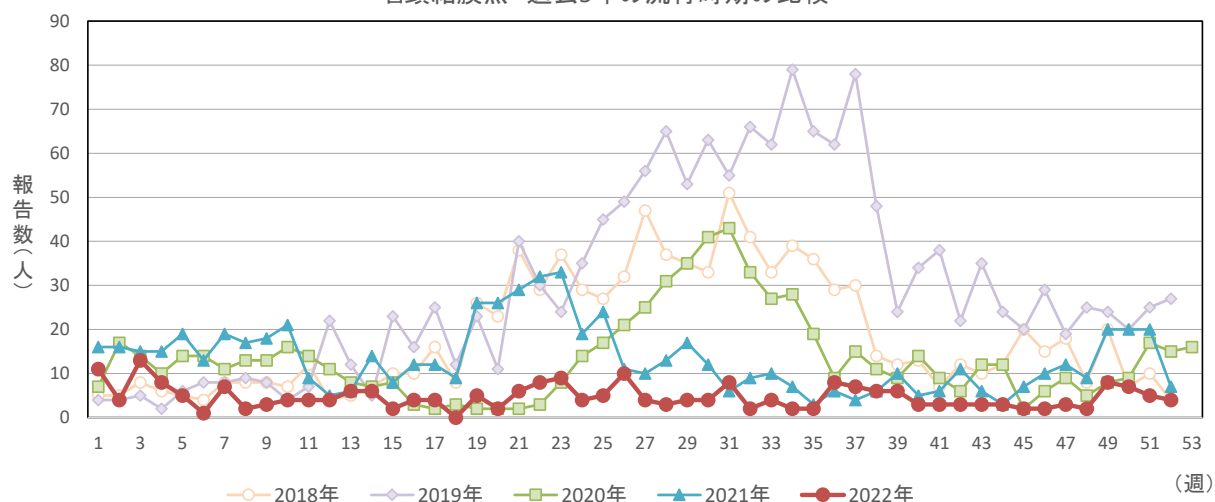
●咽頭結膜熱

2022年、沖縄県内の報告数は245人、定点当たり報告数は7.31人であり、過去5年で最も少ない報告数であった。

沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数3人）以上の週はなく、沖縄県では第3週の定点当たり報告数0.38人が、全国では第25週と第26週の定点当たり報告数0.43人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が最も多く、全体の53.1%を占めていた。

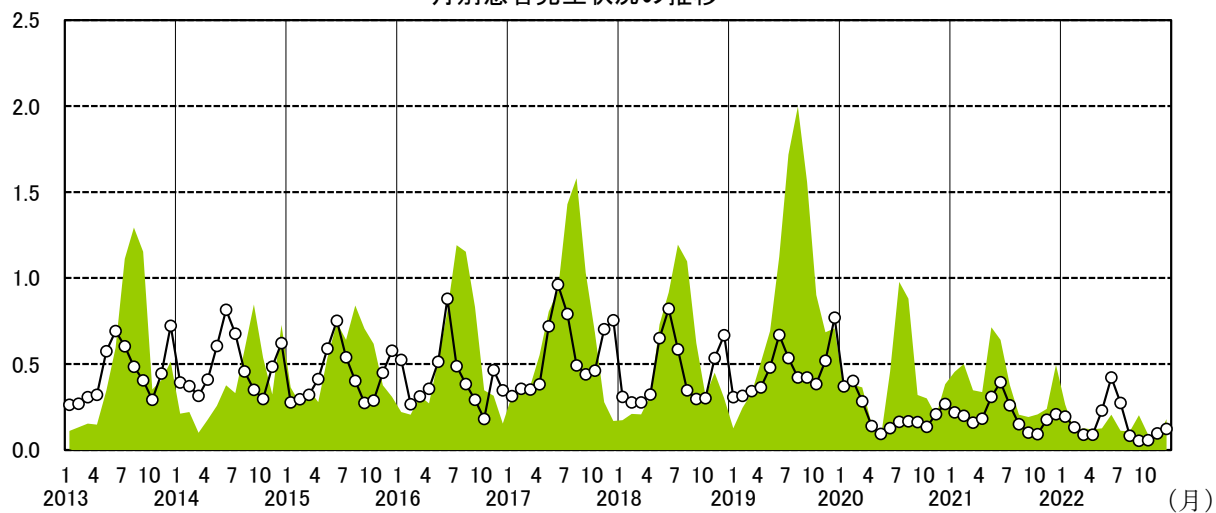
咽頭結膜熱 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

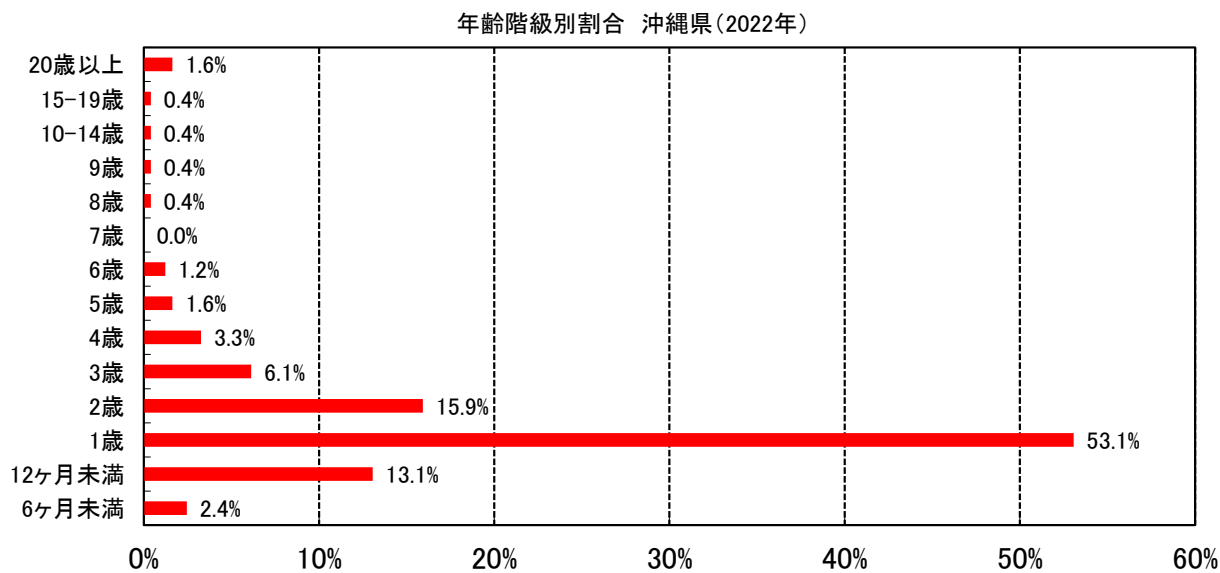
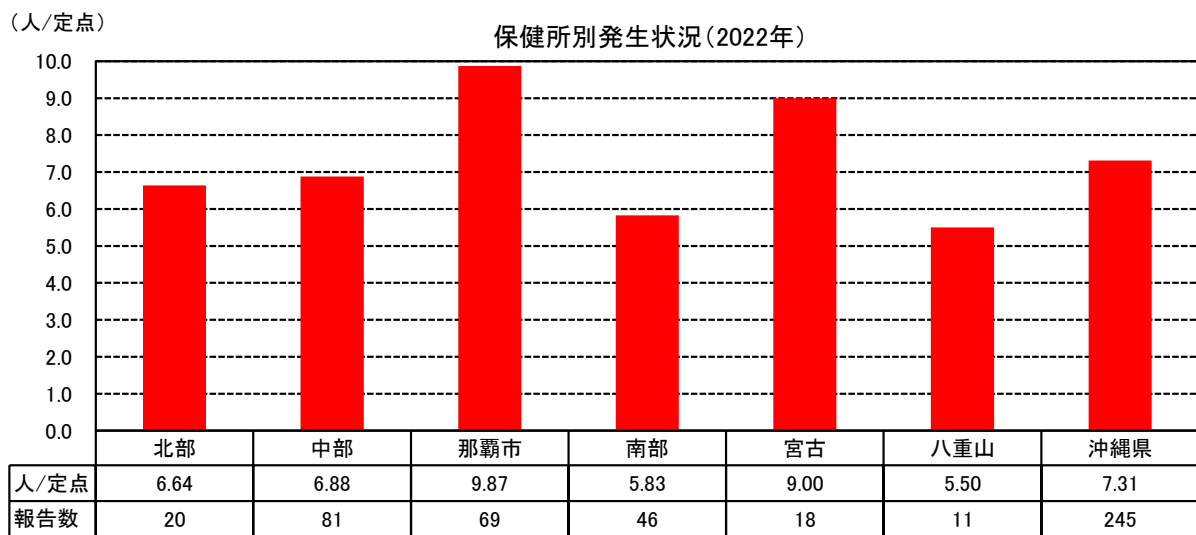
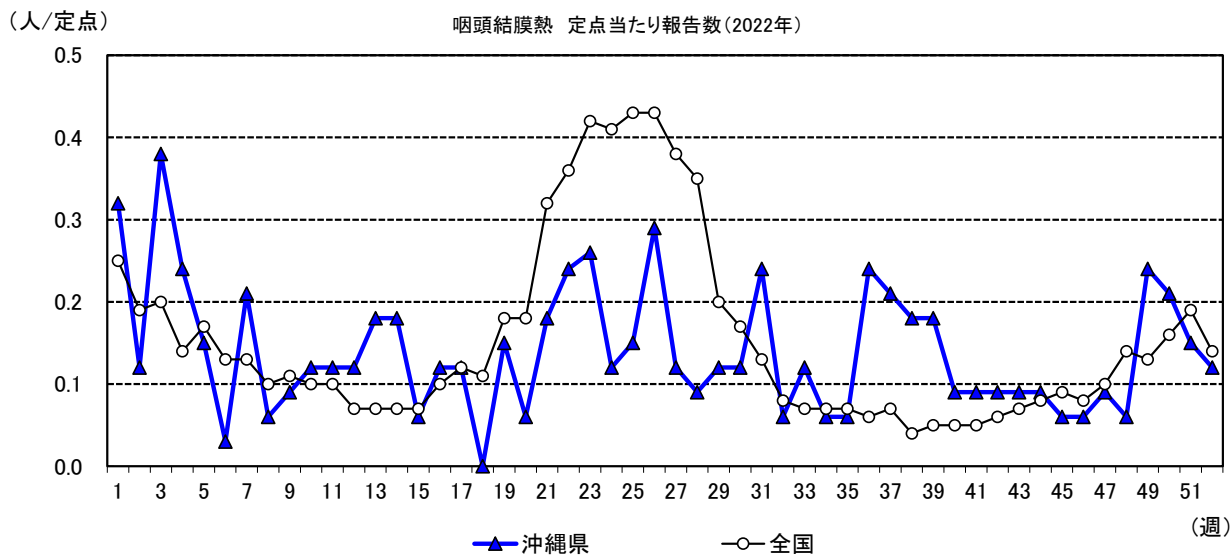
月別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 一〇 全国



年別の報告数合計：咽頭結膜熱

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
837	970	1,555	720	693	245

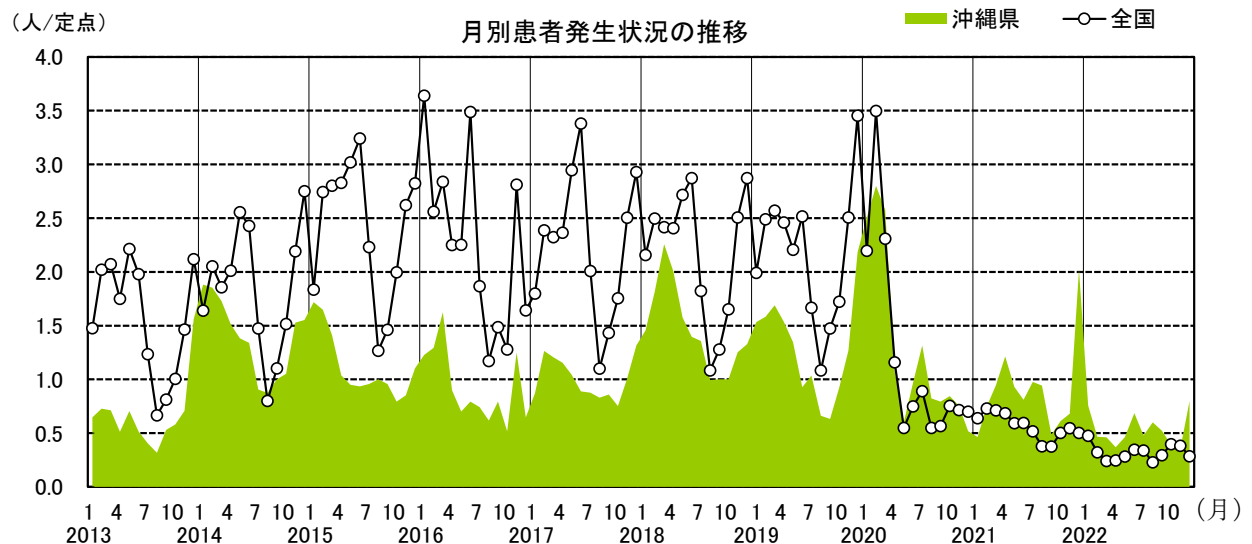
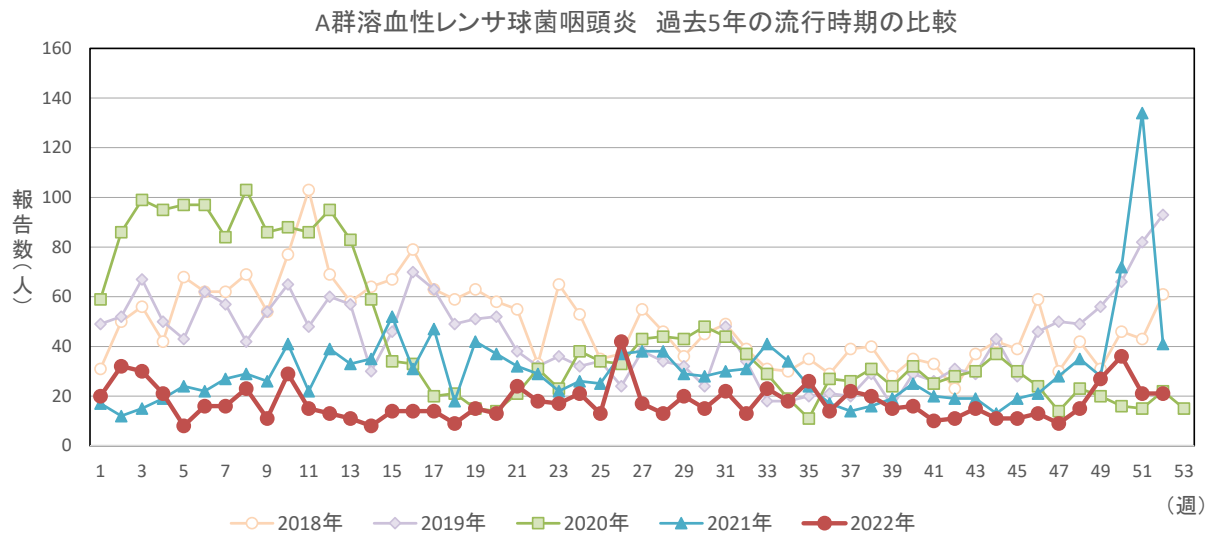


●A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2022年、沖縄県内の報告数は921人、定点当たり27.25人であり、過去5年で最も少ない報告数であった。

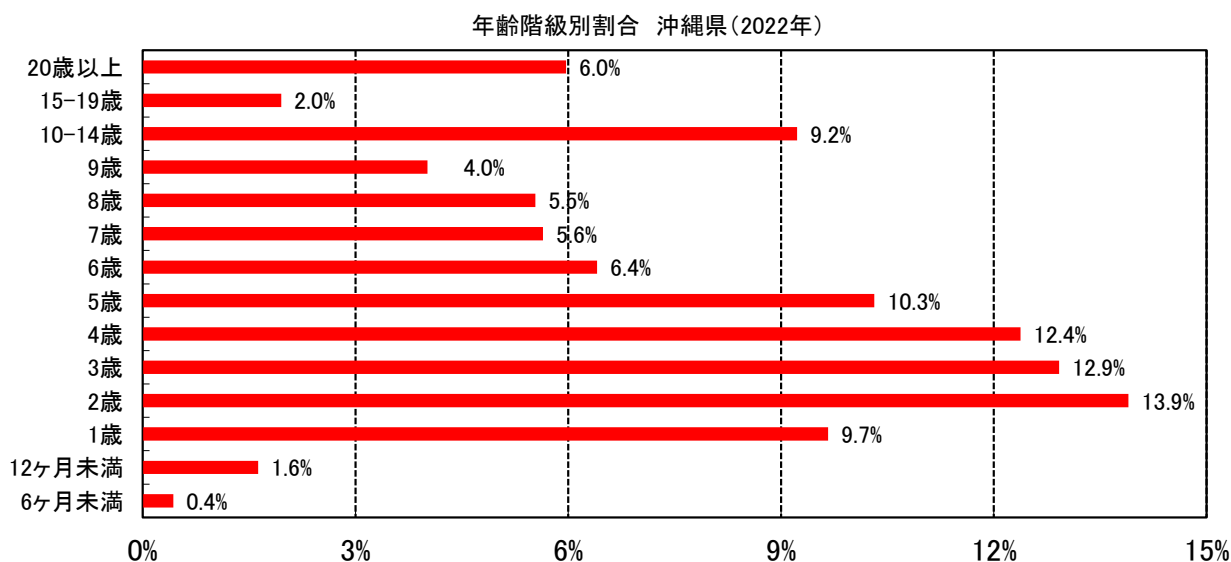
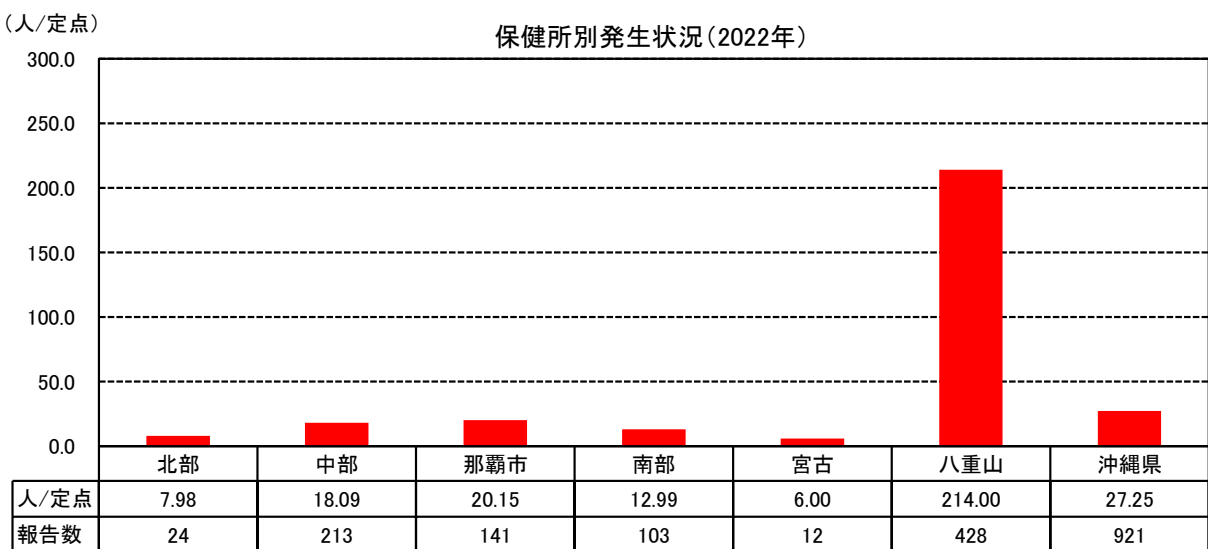
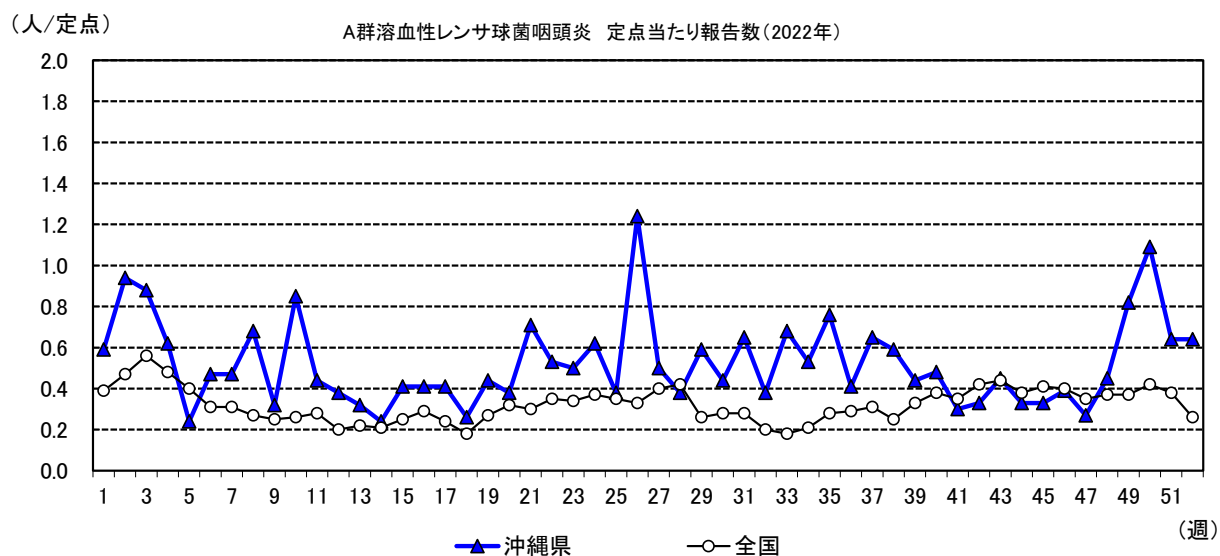
沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数8人）以上の週はなく、沖縄県では第26週の定点当たり報告数1.24人が、全国では第3週の定点当たり報告数0.56人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、2歳が全体の13.9%と最も多く、3歳が12.9%、4歳が12.4%と続いた。



年別の報告数合計：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

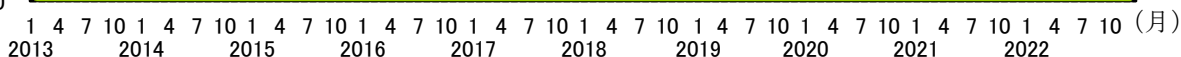
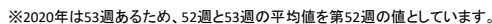
平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,920	2,555	2,243	2,291	1,592	921



2022年、沖縄県内の報告数は3,048人、定点当たり報告数は90.25人で2021年よりも増加した。

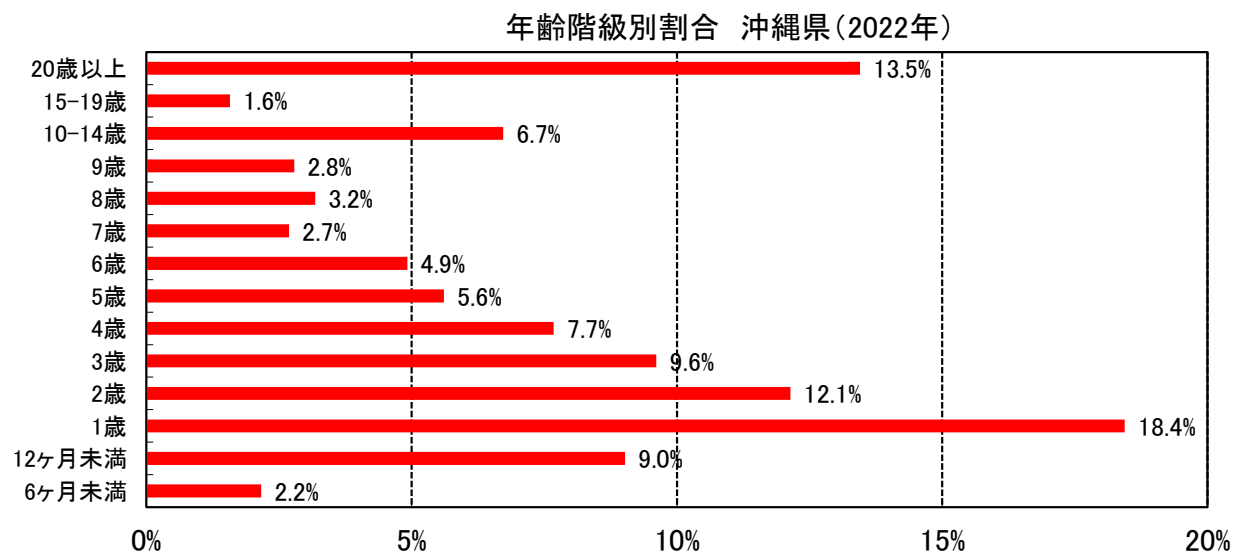
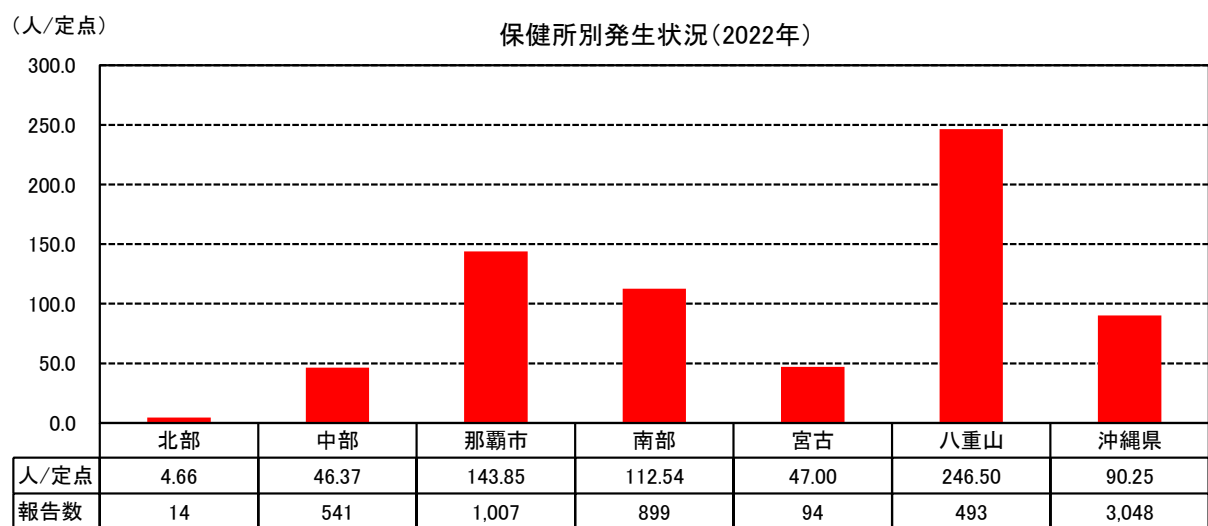
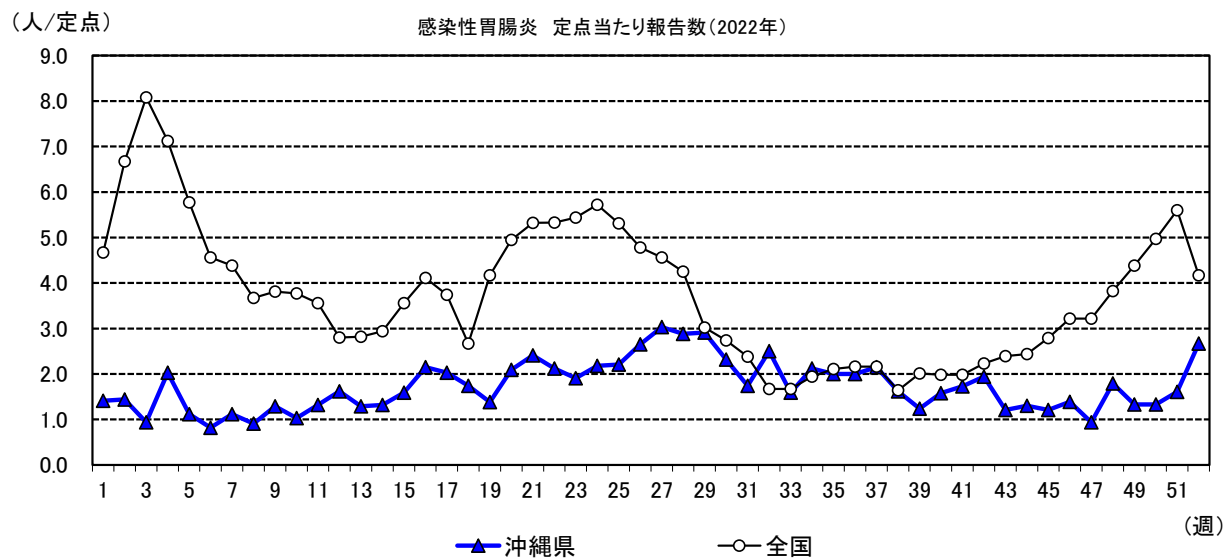
2022年は沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数20人）以上の週はなく、沖縄県では第27週の定点当たり報告数3.03人が、全国では第3週の定点当たり報告数8.08人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の18.4%と最も多く、20歳以上が13.5%、2歳が12.1%と続いた。



平均報告数 (2022/23を除く)	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23*
4,074	5,926	6,280	3,022	2,334	2,810	899

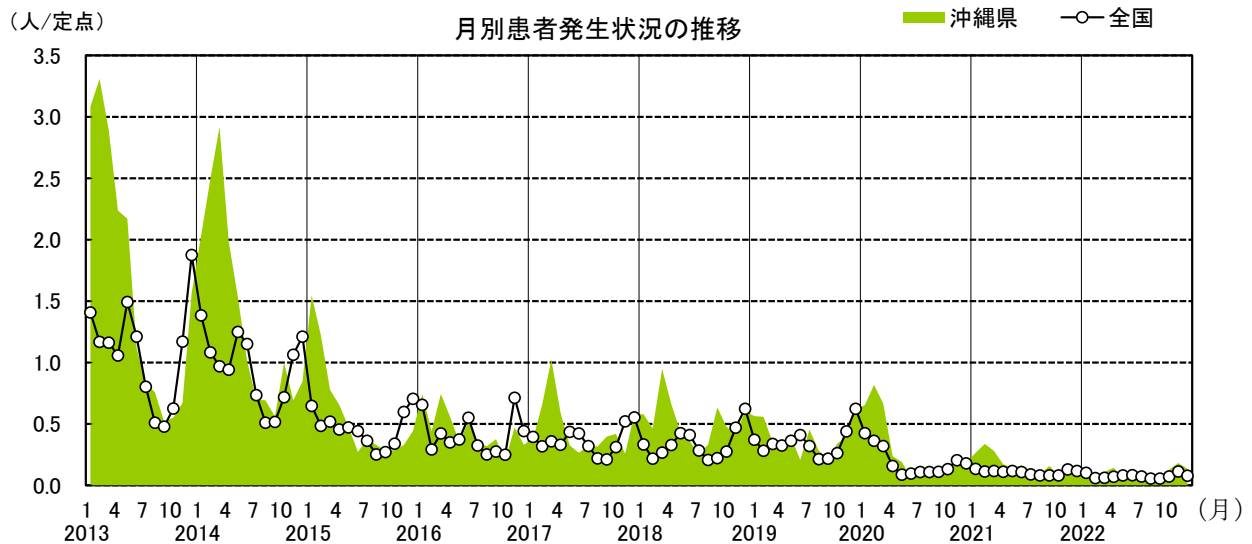
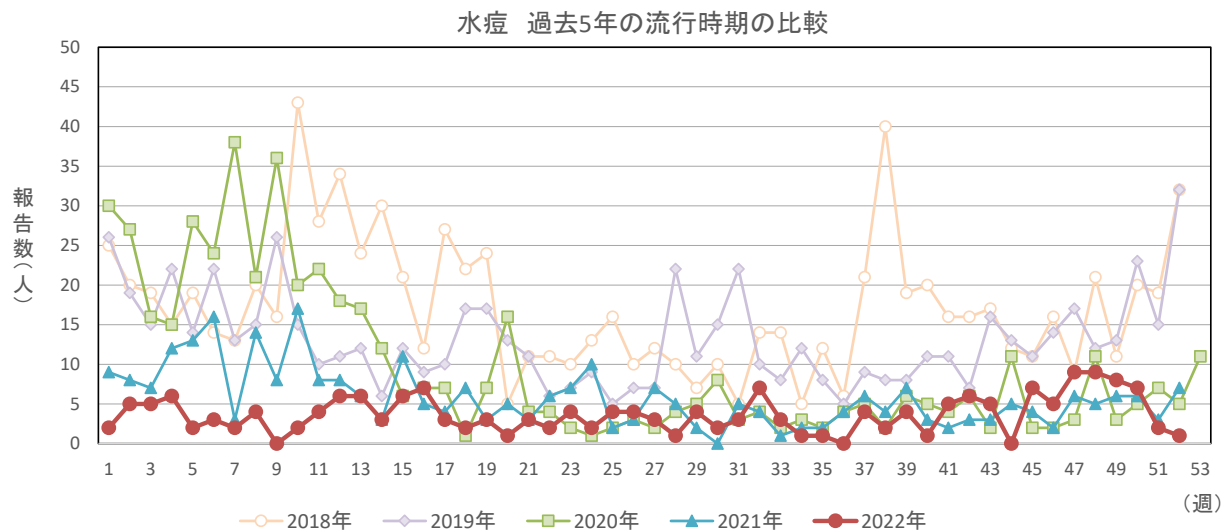
* : 2022年第36週～第52週の集計。



2022年、沖縄県内の報告数は191人、定点当たり報告数は5.73人で、過去5年で最も少ない報告数だった。

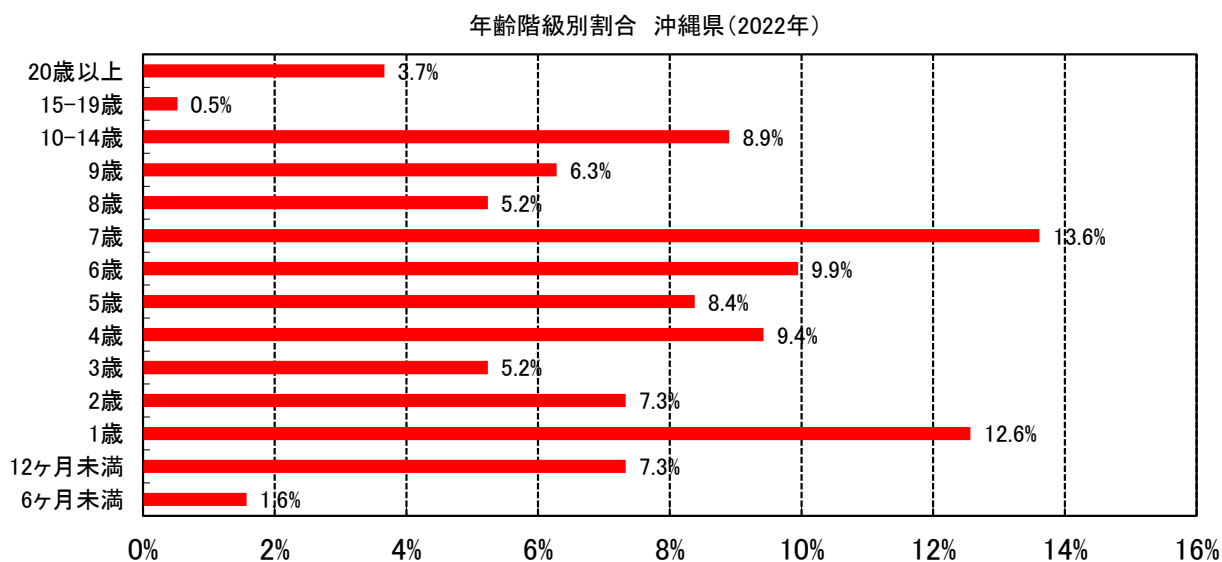
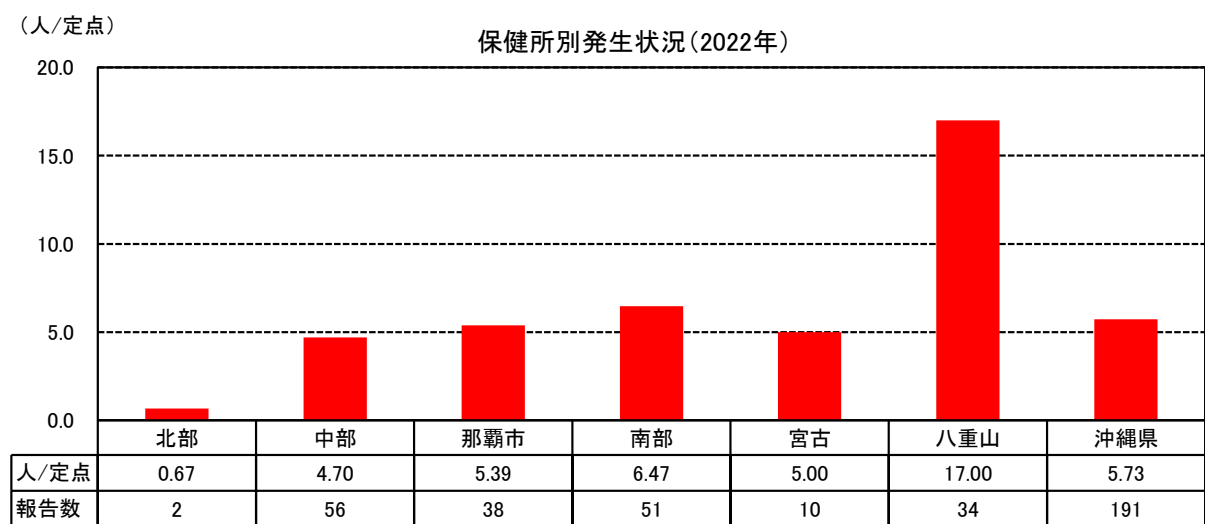
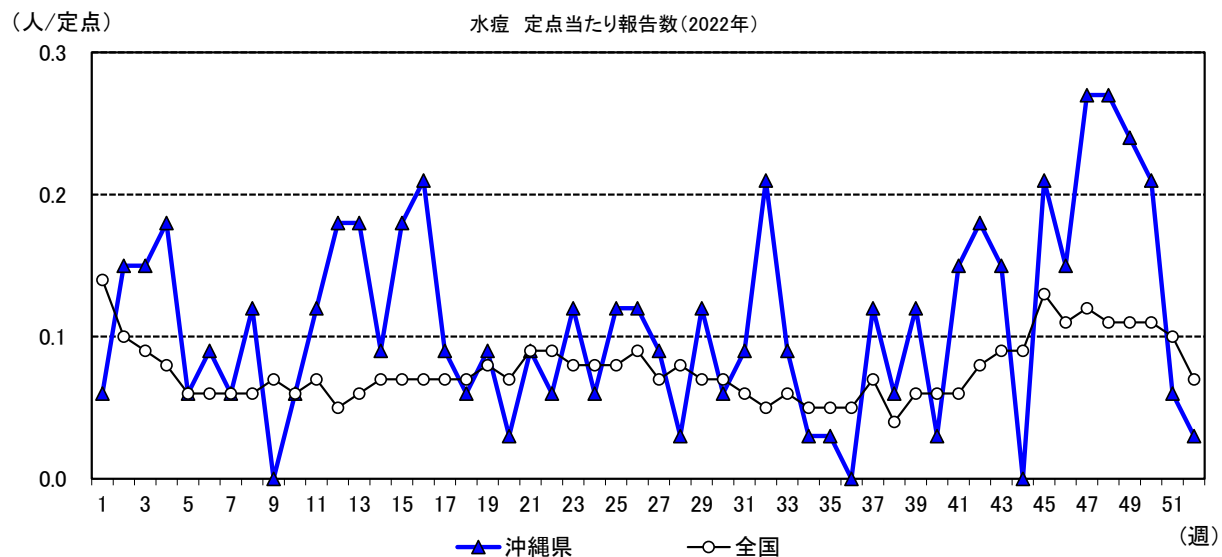
沖縄県、全国ともに注意報レベルの基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では第47週と第48週の定点当たり報告数0.27人が、全国では第1週の定点当たり報告数0.14人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、7歳が全体の13.6%と最も多く、1歳が12.6%、6歳が9.9%と続いた。



年別の報告数合計：水痘

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
518	897	689	511	302	191

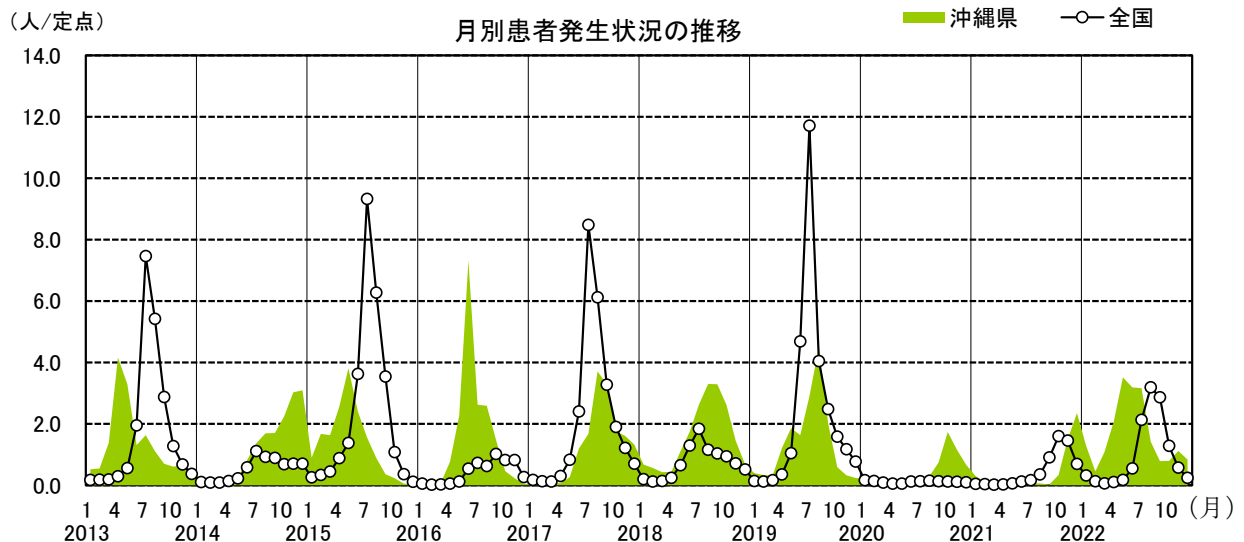
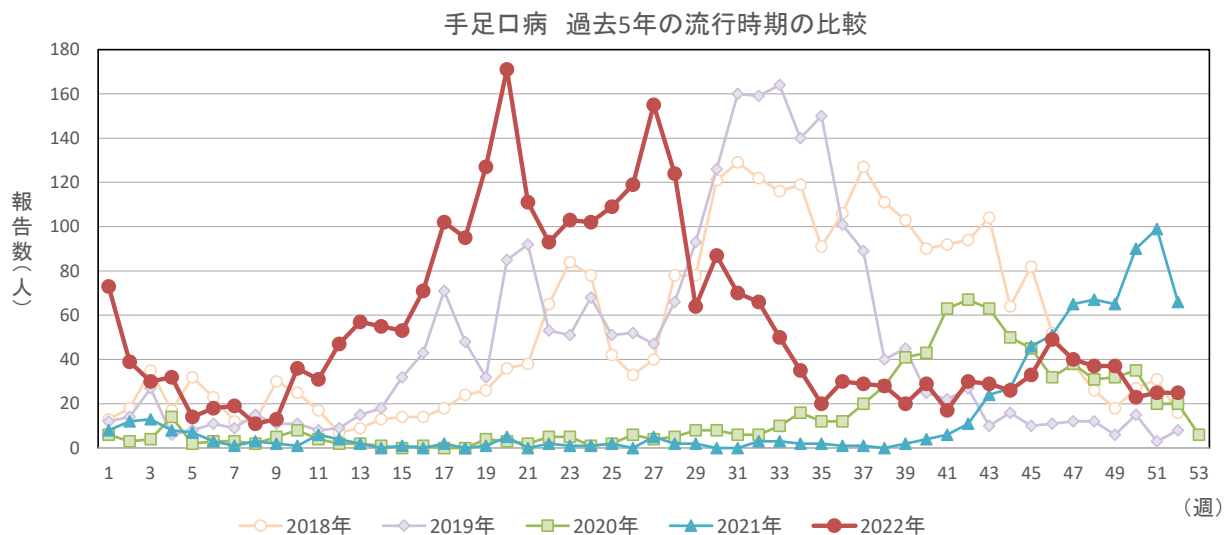


●手足口病

2022年、沖縄県内の報告数は2,909人、定点当たり報告数は85.93人で、過去5年で最も多い報告数だった。

沖縄県では第20週に定点当たり報告数が5.03人と警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数5人）以上となり、警報が発令された。その後、第28週まで警報レベル終息基準値（定点当たり報告数2人）以上の報告が続いた。全国では第36週の定点当たり報告数3.77人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の42.7%と最も多く、2歳が25.0%、6ヶ月以上12ヶ月未満が12.2%と続いた。

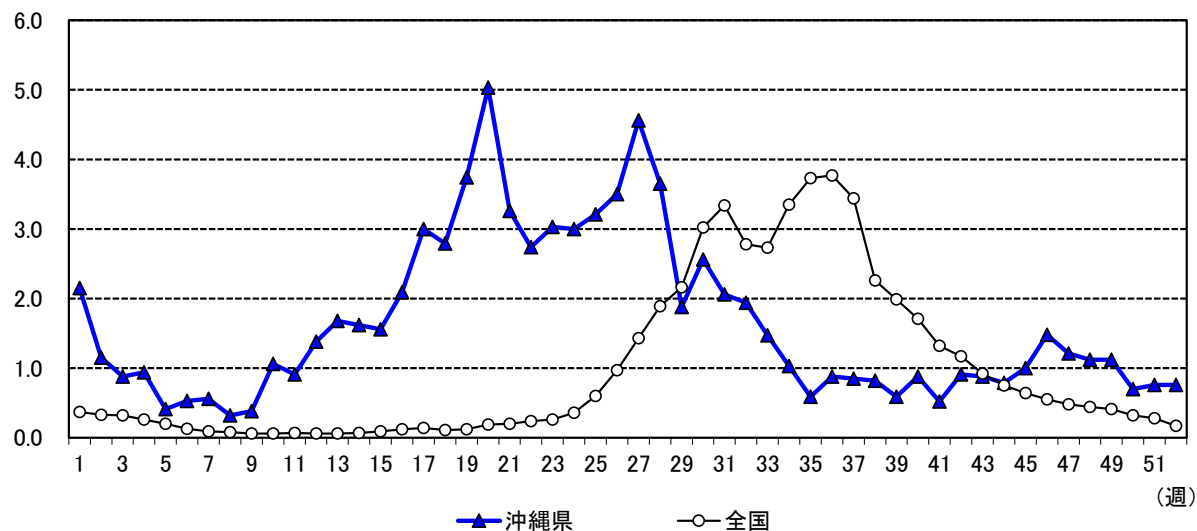


年別の報告数合計：手足口病

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1,933	2,810	2,409	809	729	2,909

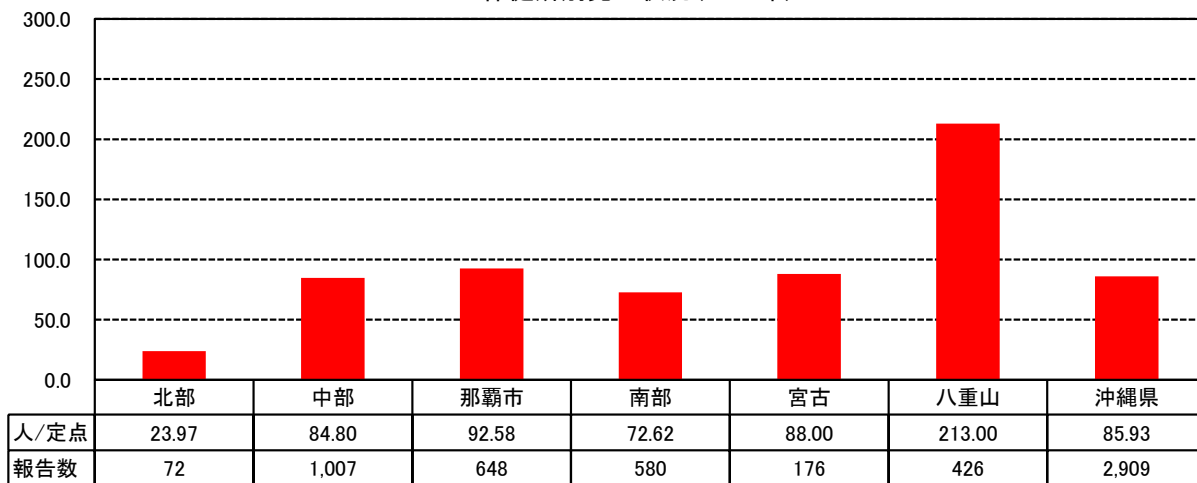
(人/定点)

手足口病 定点当たり報告数(2022年)

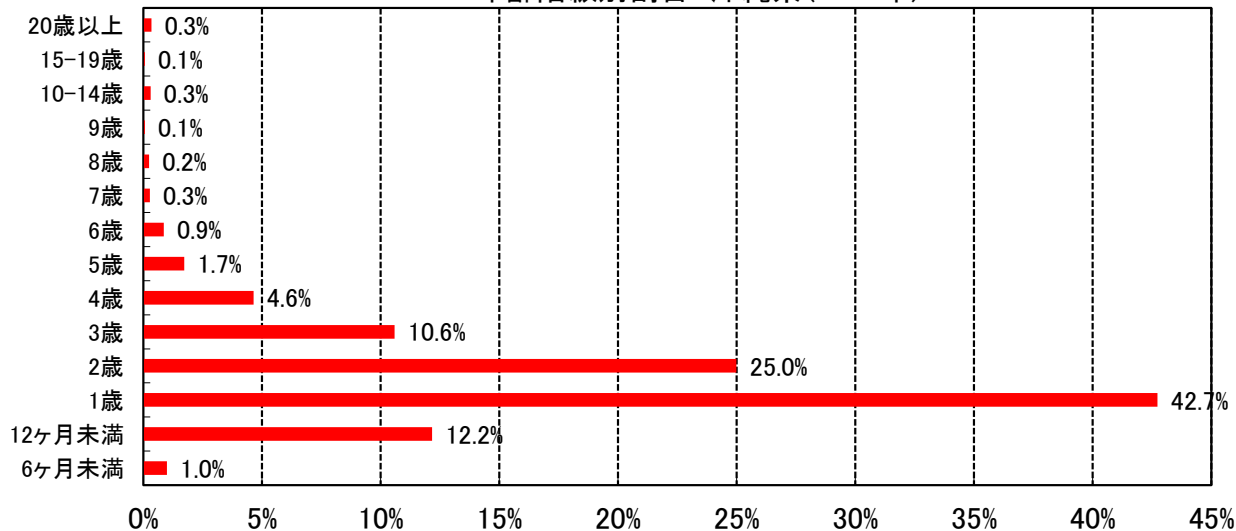


(人/定点)

保健所別発生状況(2022年)



年齢階級別割合 沖縄県(2022年)

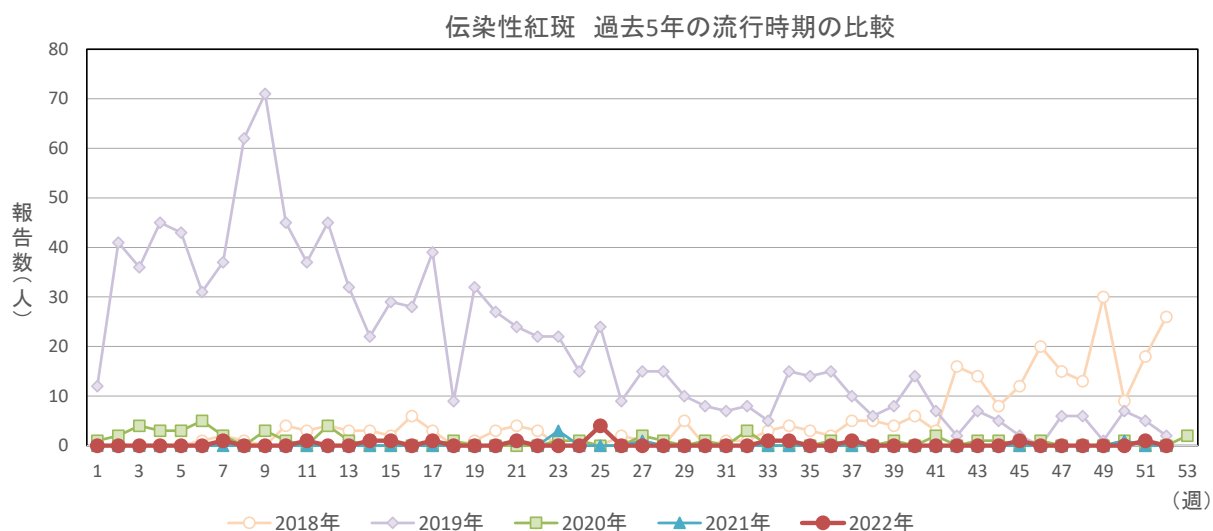


●伝染性紅斑

2022年、沖縄県内の報告数は15人、定点当たり報告数は0.45人であり、2021年に比べ増加した。

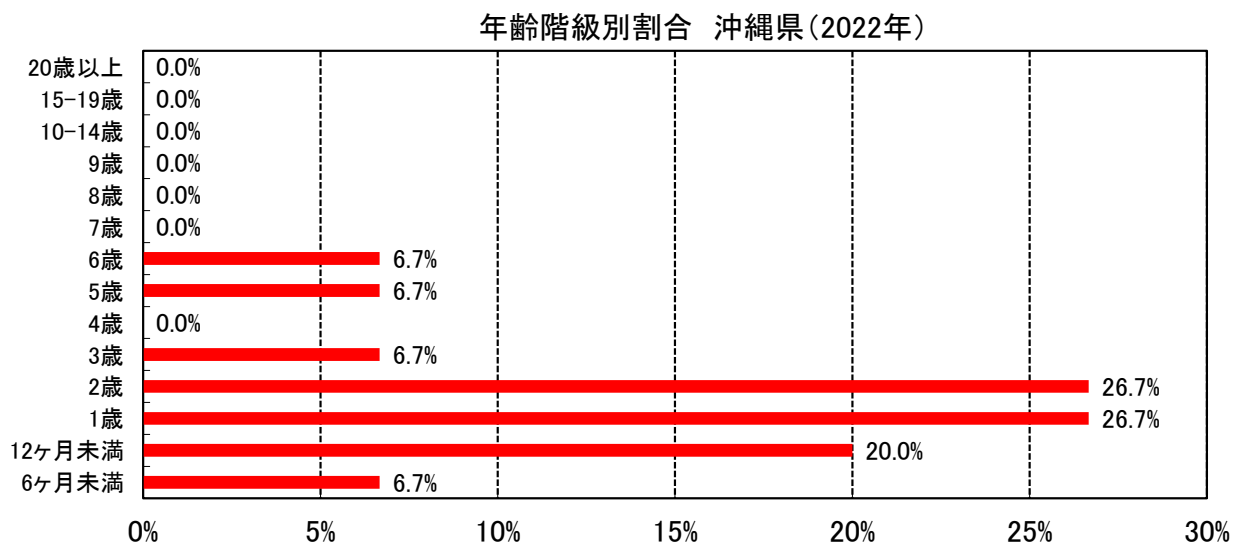
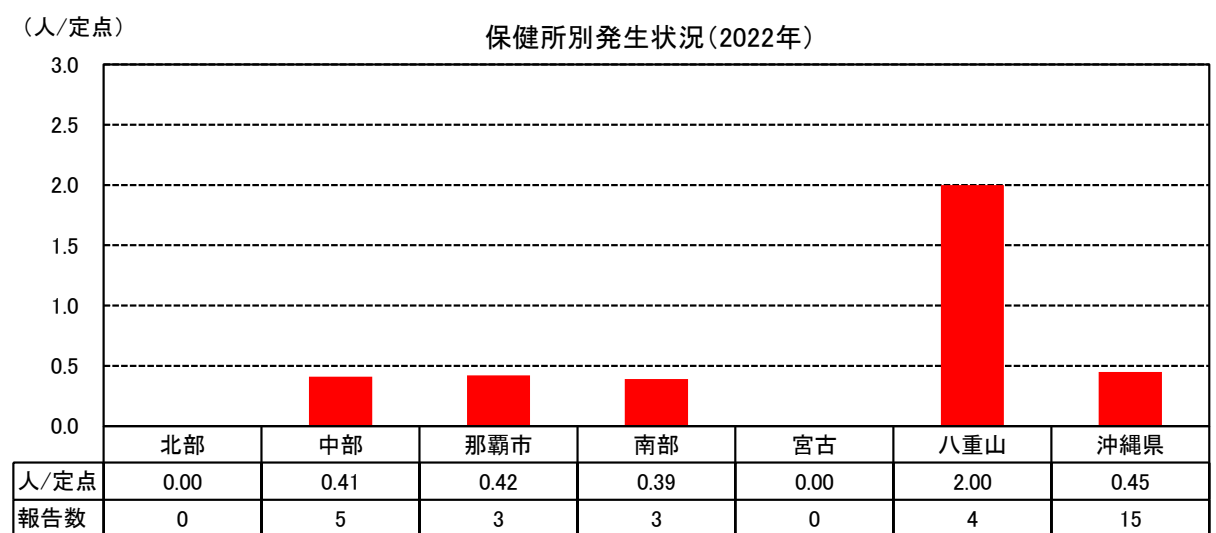
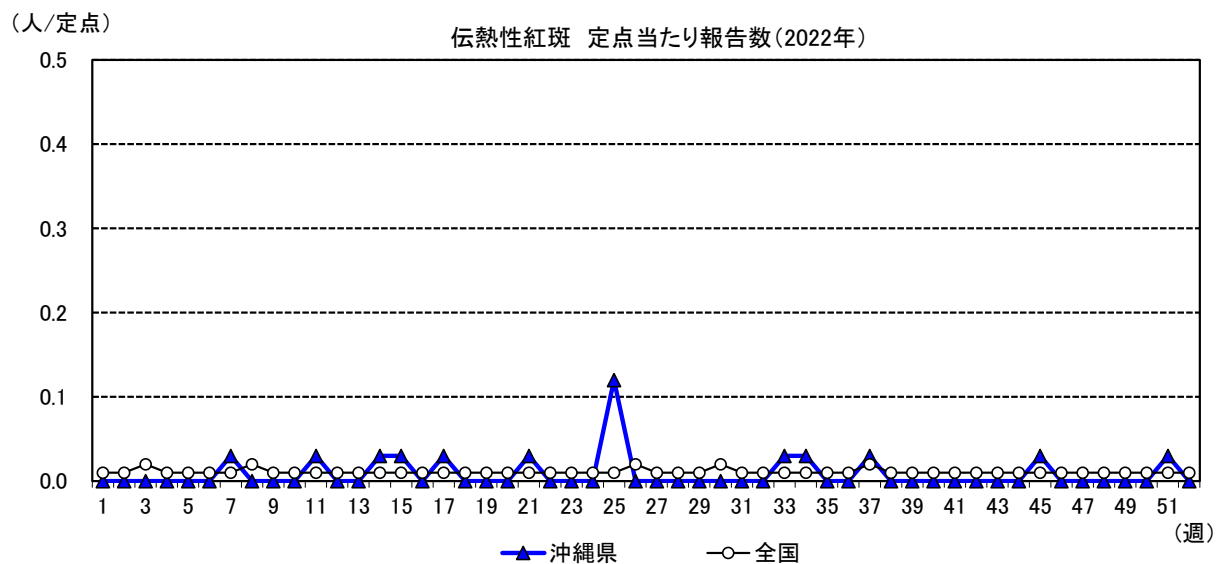
沖縄県、全国ともに警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数2人）以上の週はなく、沖縄県では第25週の定点当たり報告数0.12人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.02人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳と2歳がそれぞれ全体の26.7%と最も多く、6ヶ月以上12ヶ月未満が20.0%と続いた。



年別の報告数合計：伝染性紅斑

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
276	269	1,039	49	6	15

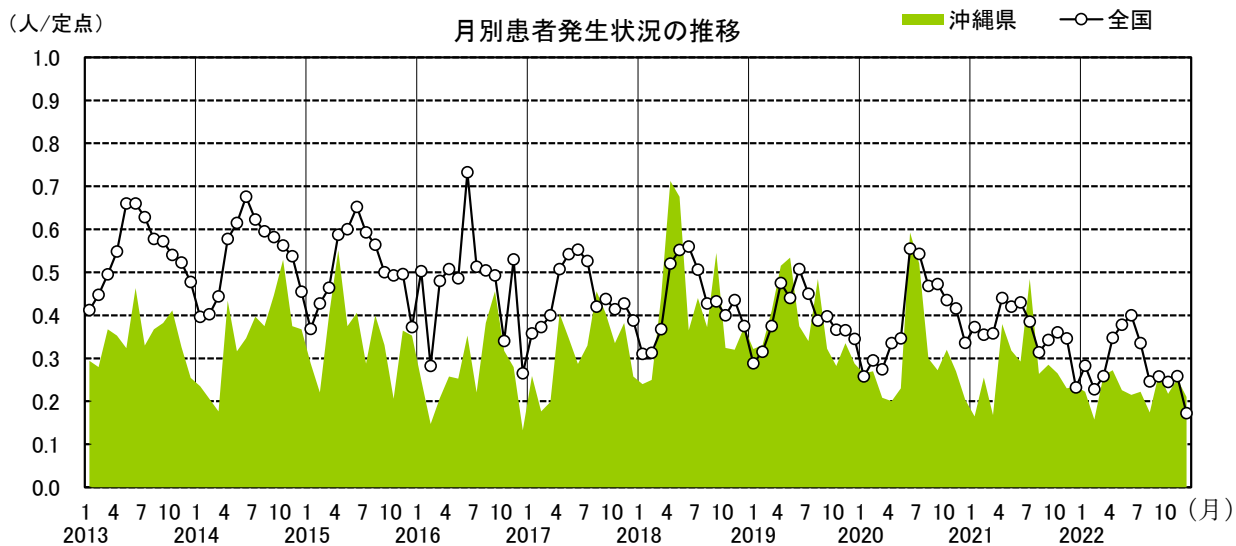
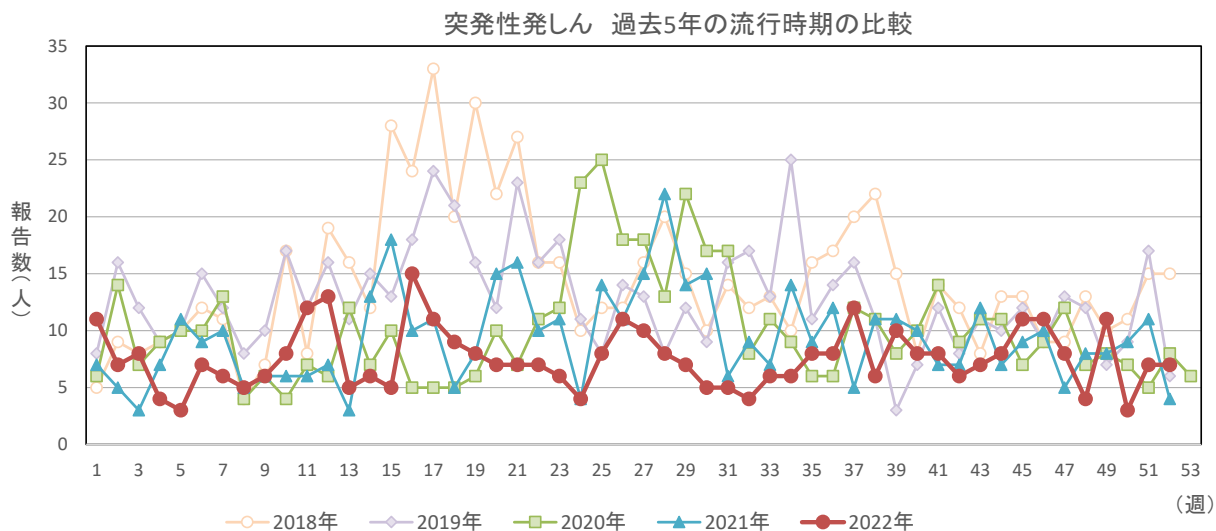


●突発性発しん

2022年、沖縄県内の報告数は393人、定点当たり報告数は11.69人であり、過去5年で最も少ない報告数だった。

沖縄県では第16週の定点当たり報告数0.44人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.41人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳が全体の54.5%と最も多く、6ヶ月以上12ヶ月未満が30.0%、2歳が10.7%と続いた。

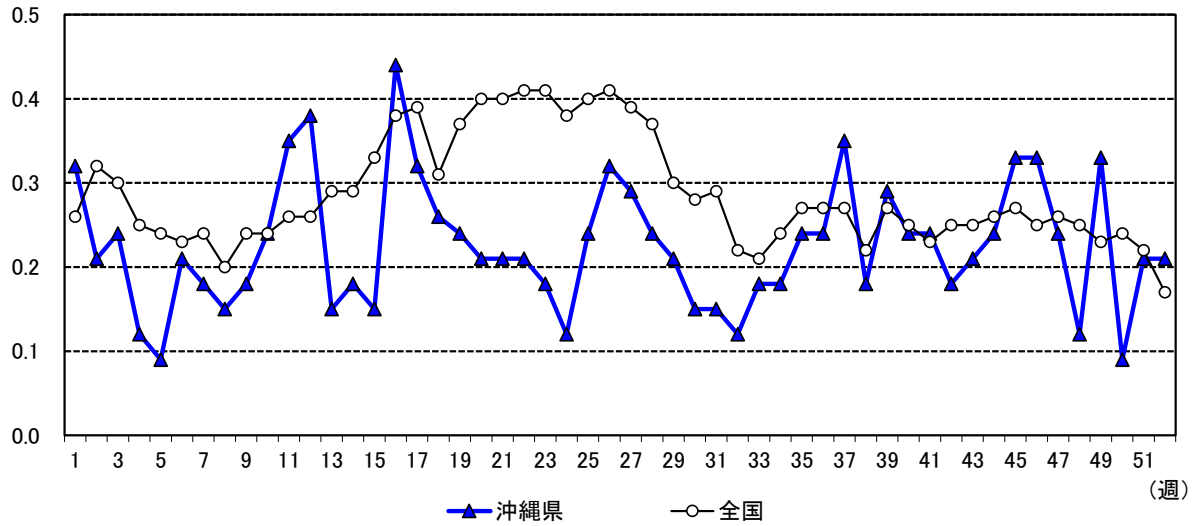


年別の報告数合計：突発性発しん

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
566	747	666	534	488	393

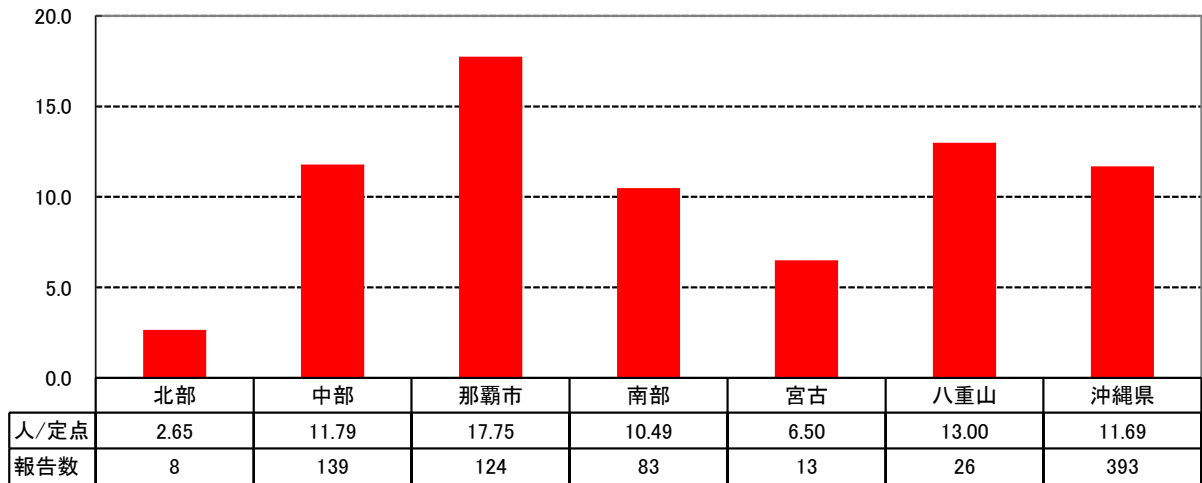
(人/定点)

突発性発しん 定点当たり報告数(2022年)

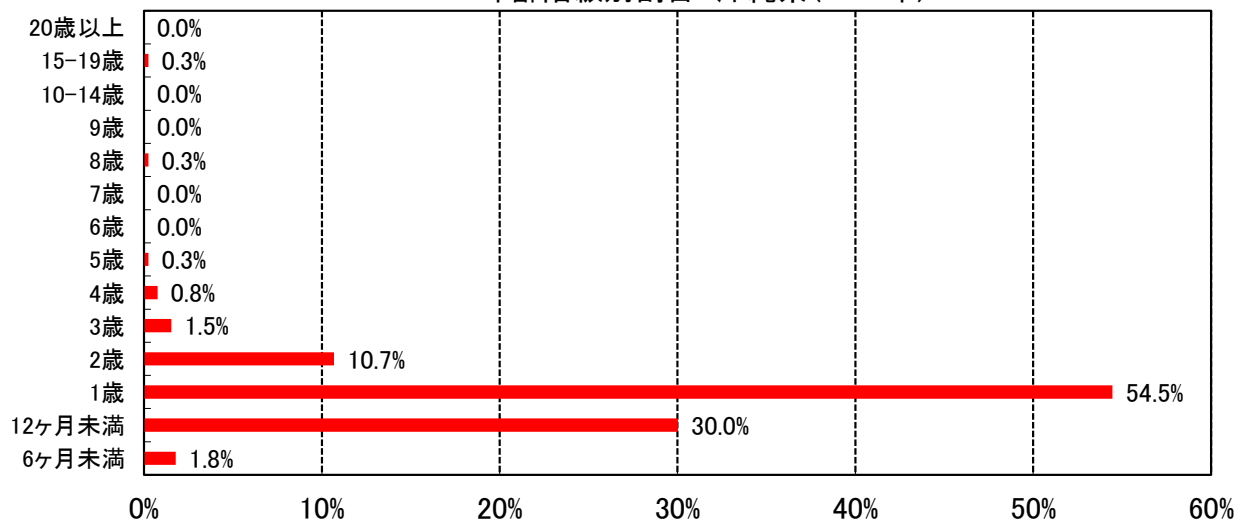


(人/定点)

保健所別発生状況(2022年)

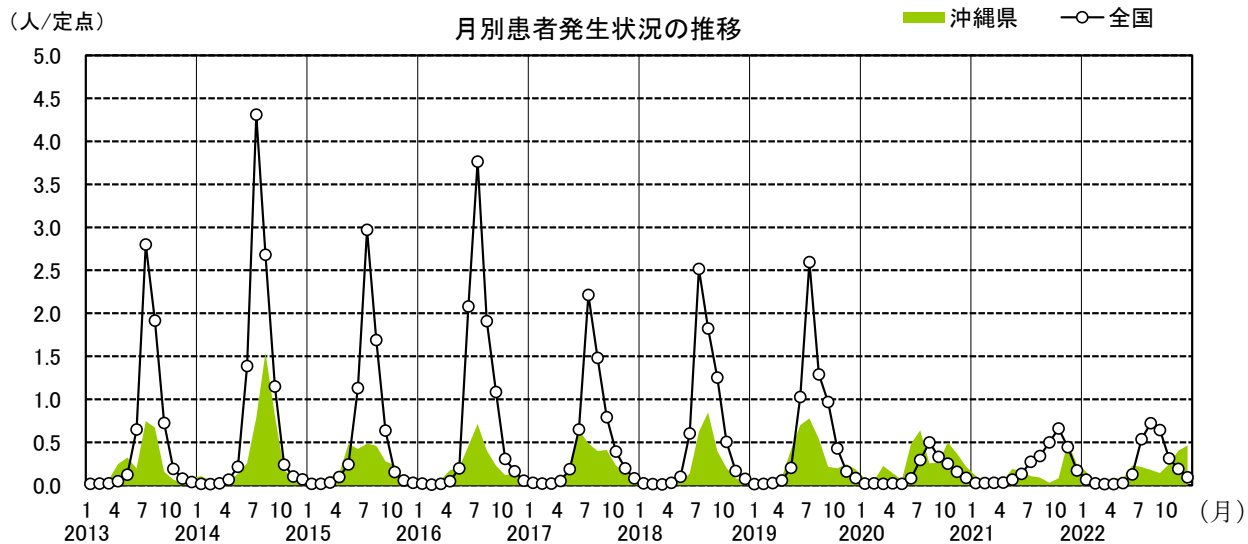
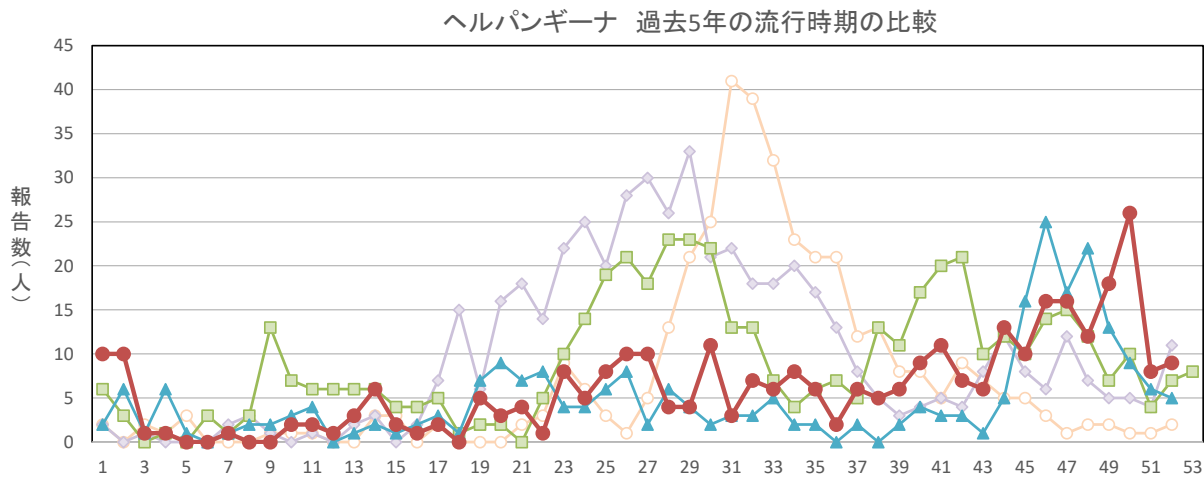


年齢階級別割合 沖縄県(2022年)



2022年、沖縄県内の報告数は325人、定点当たり報告数は9.72人であり、2021年に比べ増加した。

年齢階級別（沖縄県）では、1歳の報告数が最も多く全体の37.5%、次いで2歳が18.8%、6ヶ月以上12ヶ月未満が16.0%と続いた。

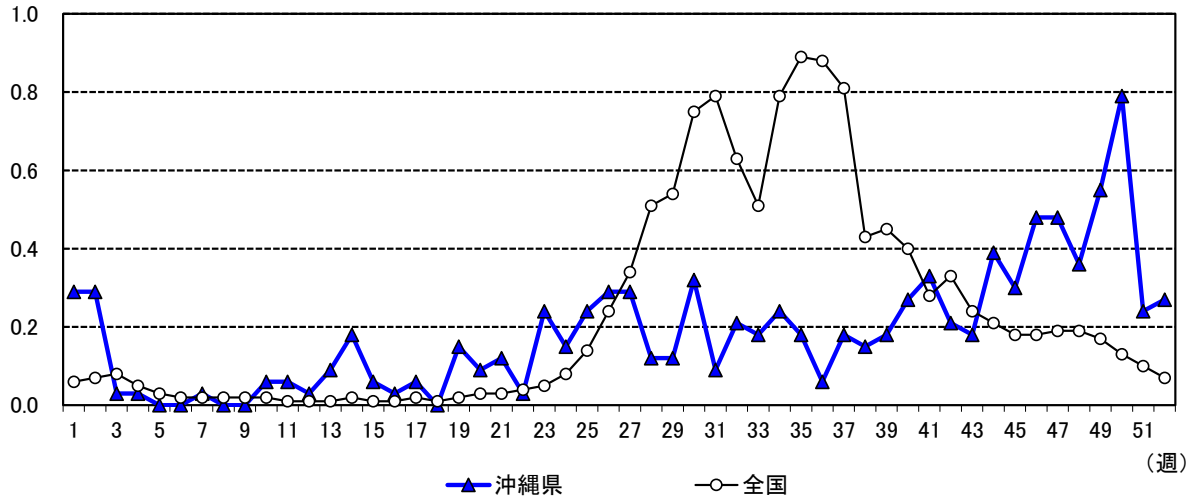


平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
388	368	513	480	253	325

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
388	368	513	480	253	325

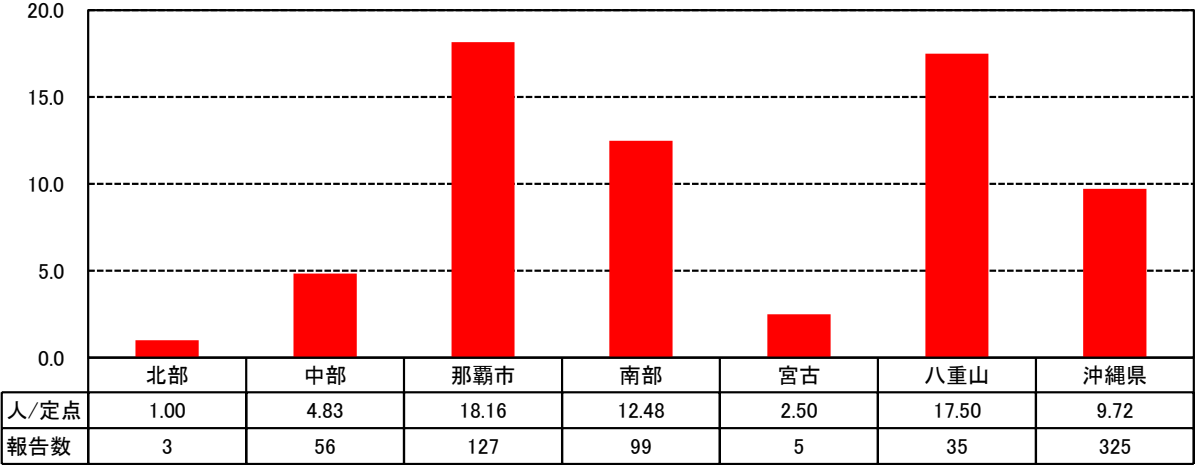
(人/定点)

ヘルパンギーナ 定点当たり報告数(2022年)

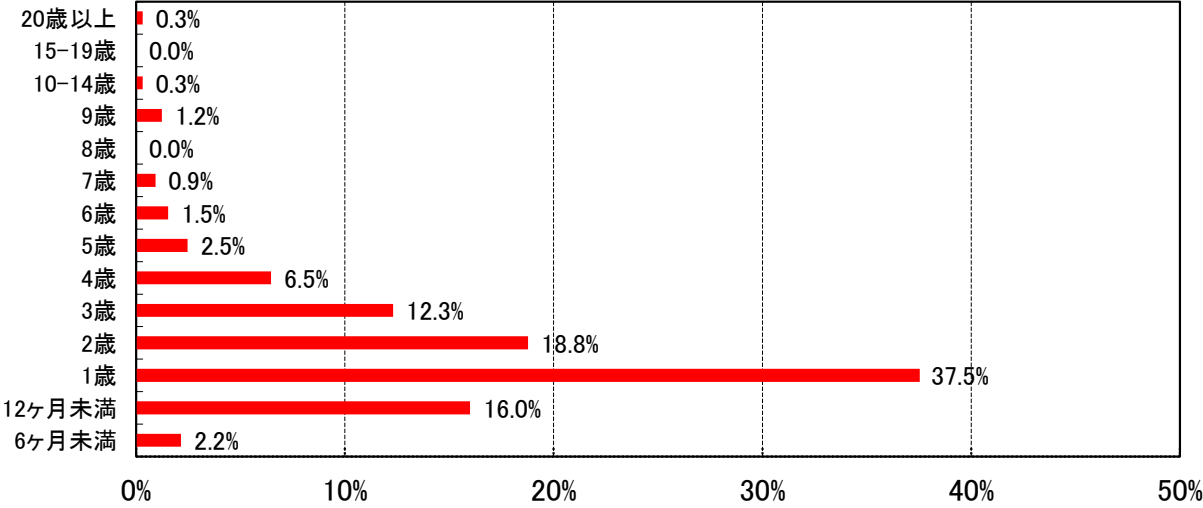


(人/定点)

保健所別発生状況(2022年)



年齢階級別割合 沖縄県(2022年)

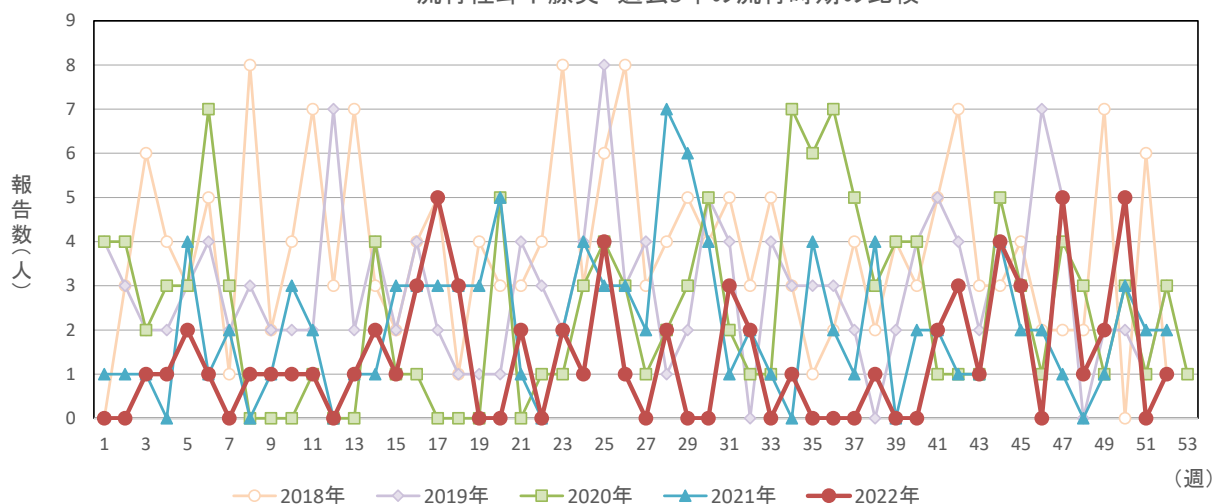


2022年、沖縄県内の報告数は70人、定点当たり報告数は2.10人で、過去5年で最も少ない報告数であった。

沖縄県、全国ともに、注意報レベルの基準値（定点当たり報告数3人）以上の週はなく、沖縄県では複数の週の定点当たり報告数0.15人が、全国では複数の週の定点当たり報告数0.04人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、7歳の報告数が最も多く全体の18.6%、次いで5歳と6歳がそれぞれ14.3%と続いた。

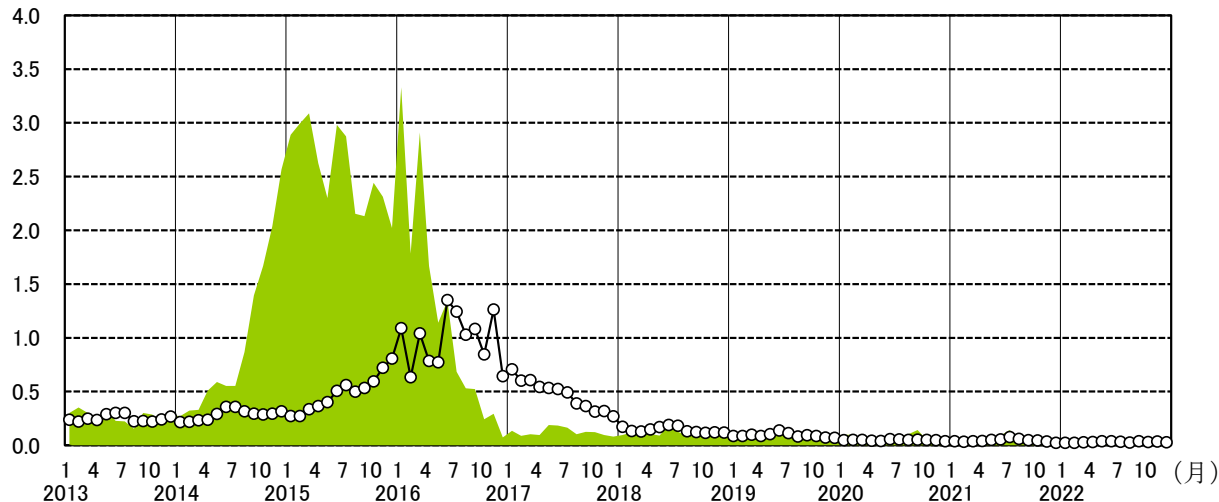
流行性耳下腺炎 過去5年の流行時期の比較



(人/定点)

月別患者発生状況の推移

■ 沖縄県 〇 全国

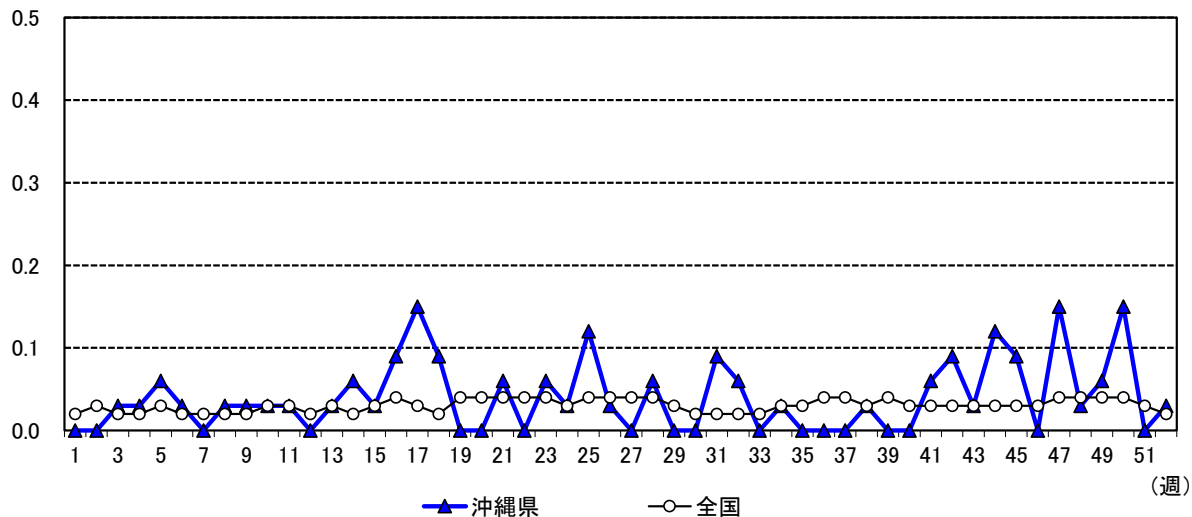


年別の報告数合計：流行性耳下腺炎

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
131	197	152	129	108	70

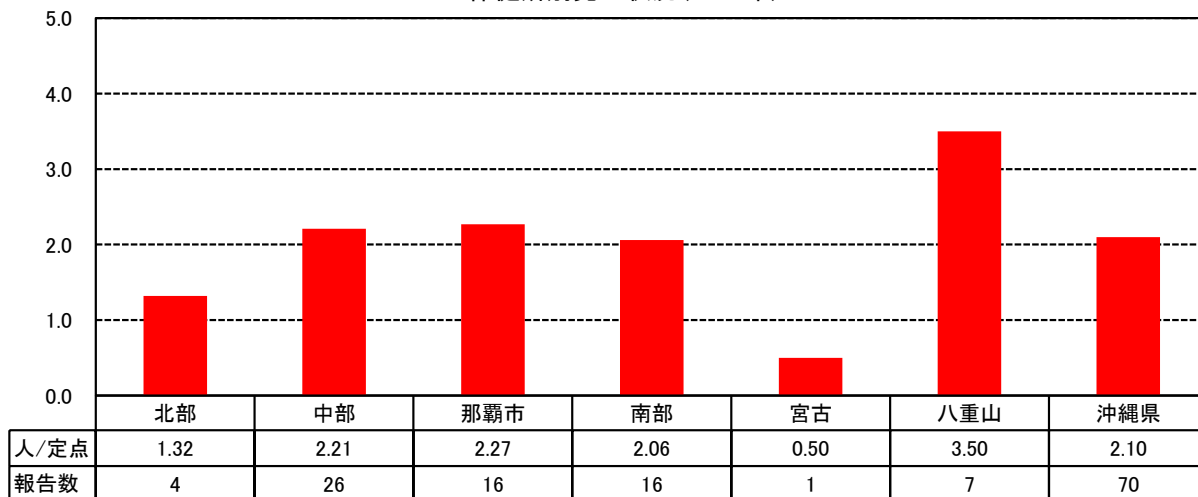
(人/定点)

流行性耳下腺炎 定点当たり報告数(2022年)



(人/定点)

保健所別発生状況(2022年)



年齢階級別割合 沖縄県(2022年)



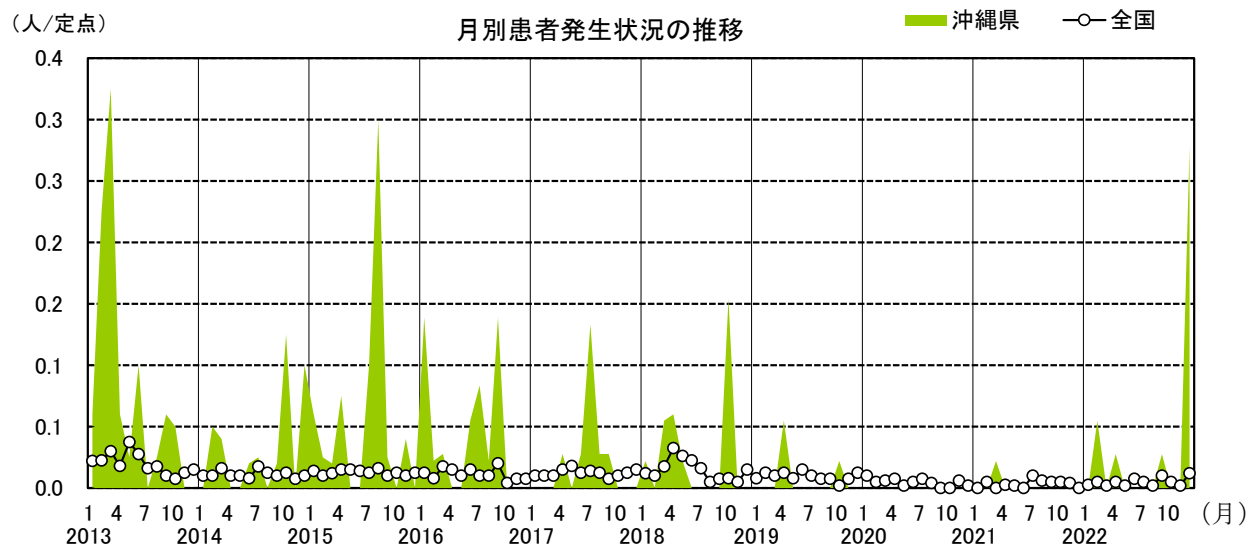
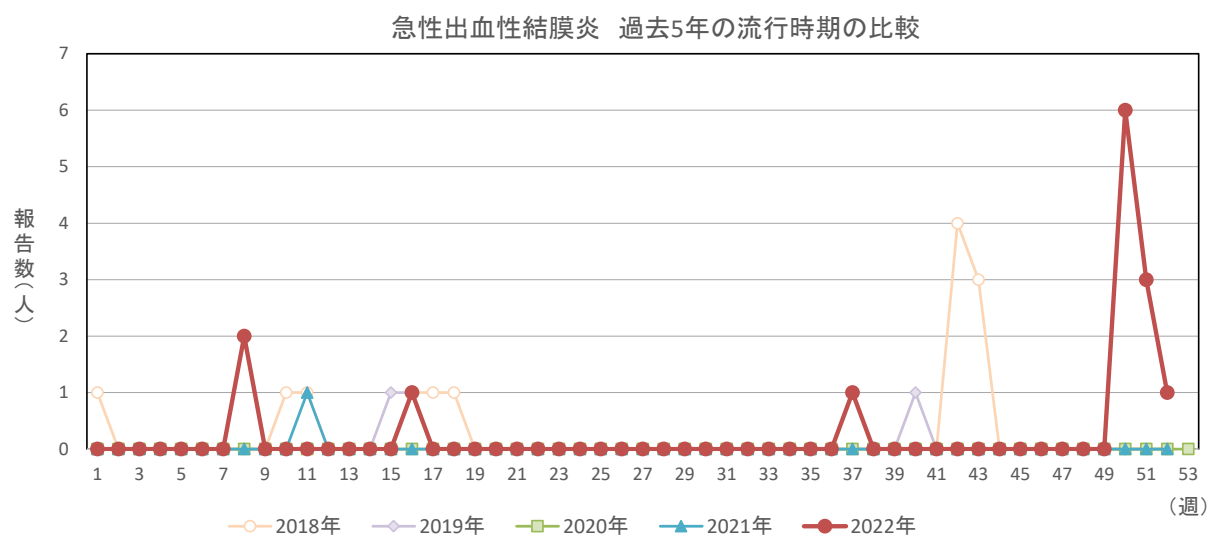
(2) 眼科定点

●急性出血性結膜炎

2022年、沖縄県内の報告数は14人、定点当たり報告数は1.55人であり、2021年よりも増加した。

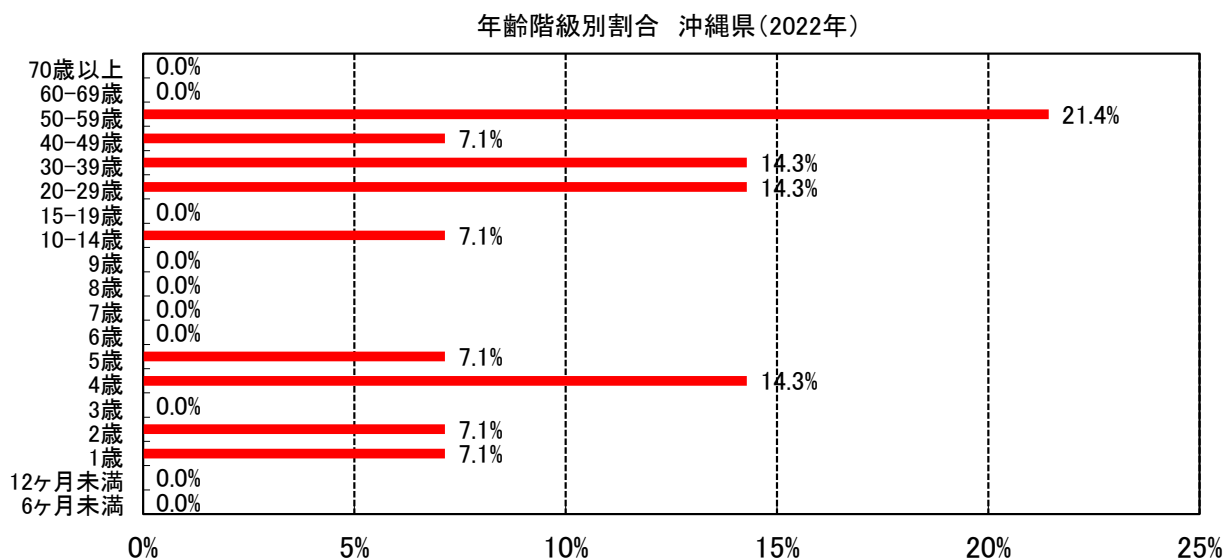
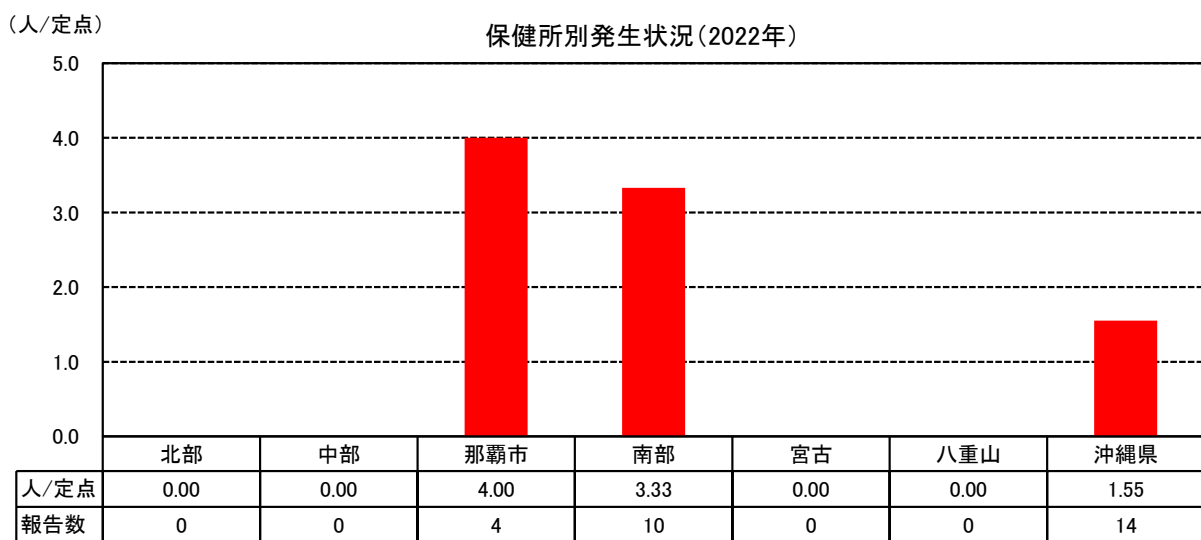
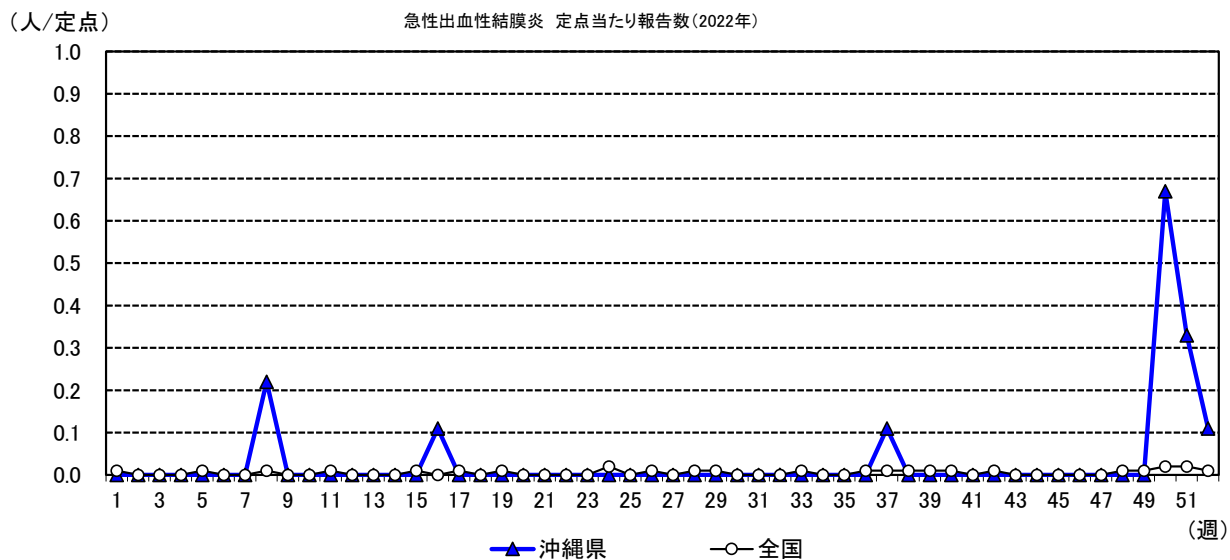
沖縄県、全国ともに、警報レベルの開始基準値（定点当たり報告数1人）以上の週はなく、沖縄県では第50週の定点当たり報告数0.67人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.02人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、50代が21.4%で最も多く、次いで4歳、20代、30代がそれぞれ14.3%と続いた。



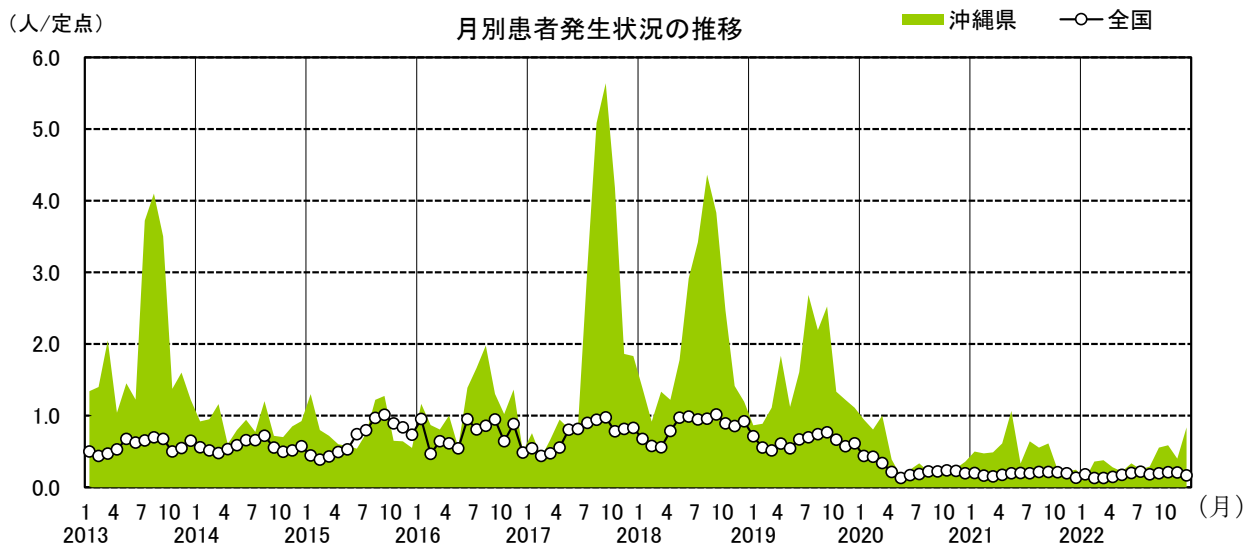
年別の報告数合計：急性出血性結膜炎

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
6	13	3	0	1	14



2022年、沖縄県内の報告数は177人、定点当たり報告数は19.64人であり、過去5年で最も少ない報告数であった。

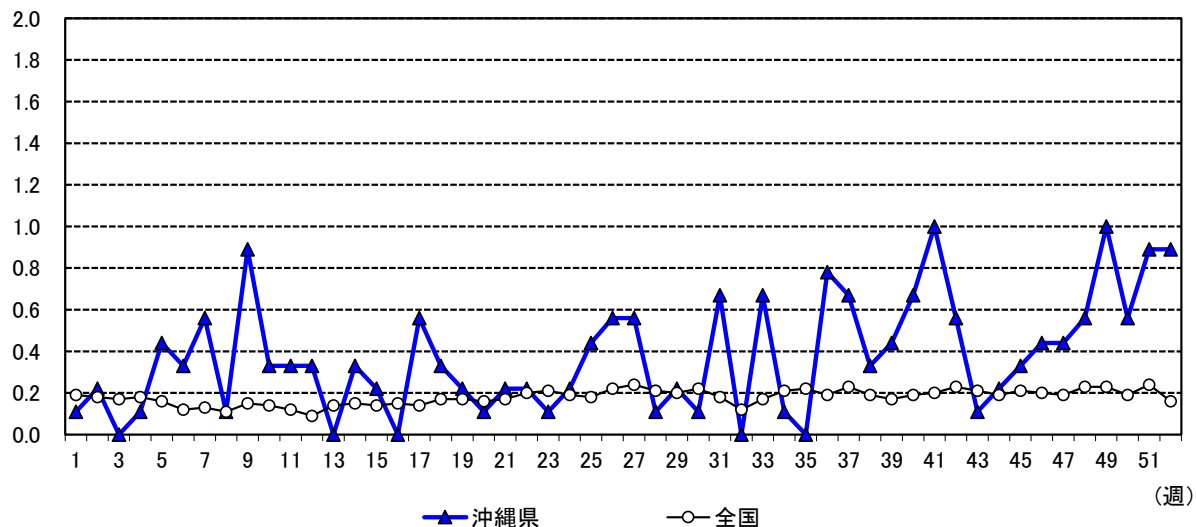
年齢階級別（沖縄県）では、30代の報告数が最も多く全体の19.8%、次いで20代が18.6%、40代が16.9%と続いた。



平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
473	1,024	720	206	237	177

(人/定点)

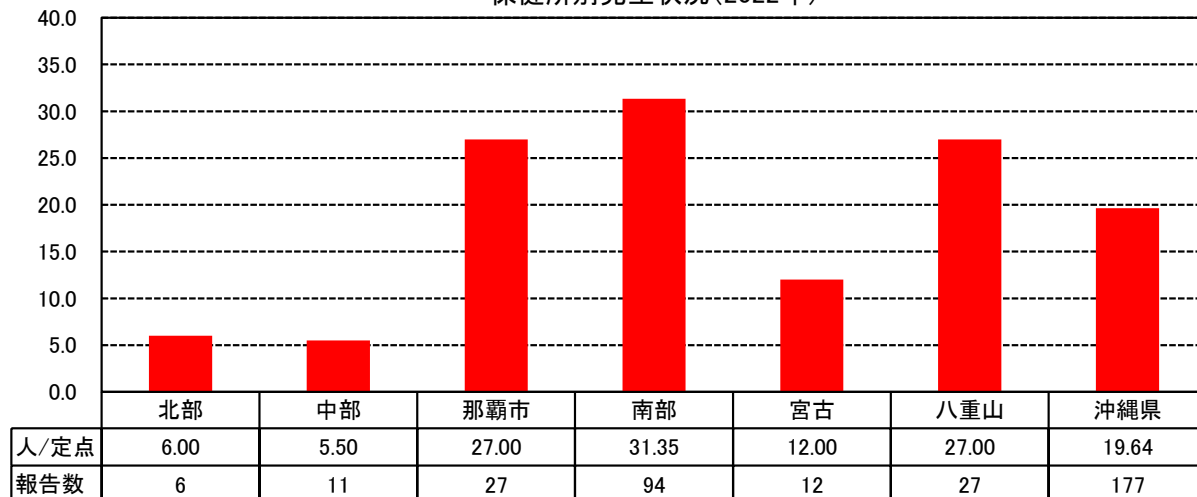
流行性角結膜炎 定点当たり報告数(2022年)



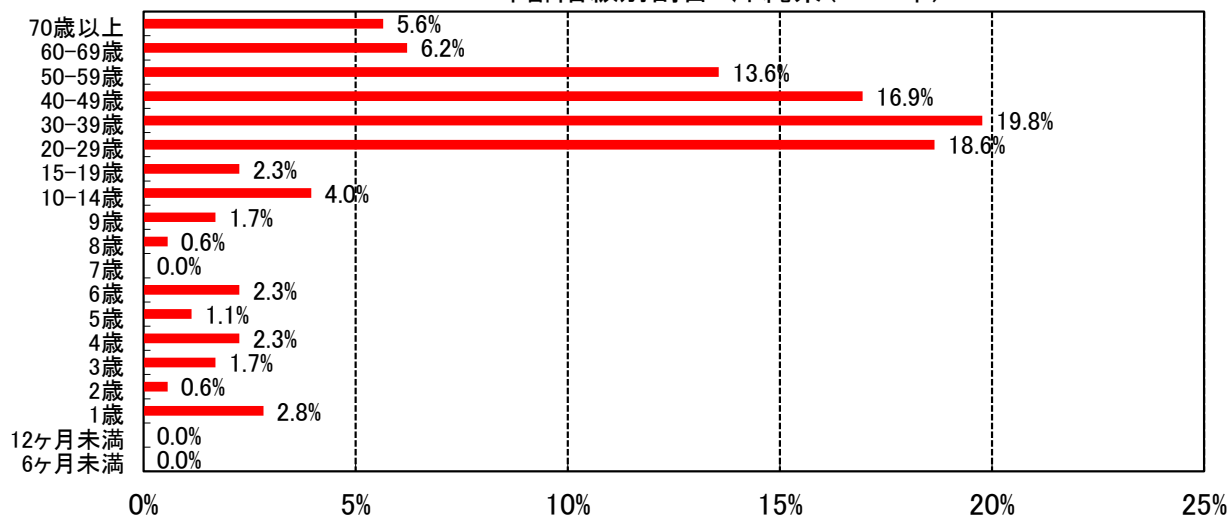
(週)

(人/定点)

保健所別発生状況(2022年)



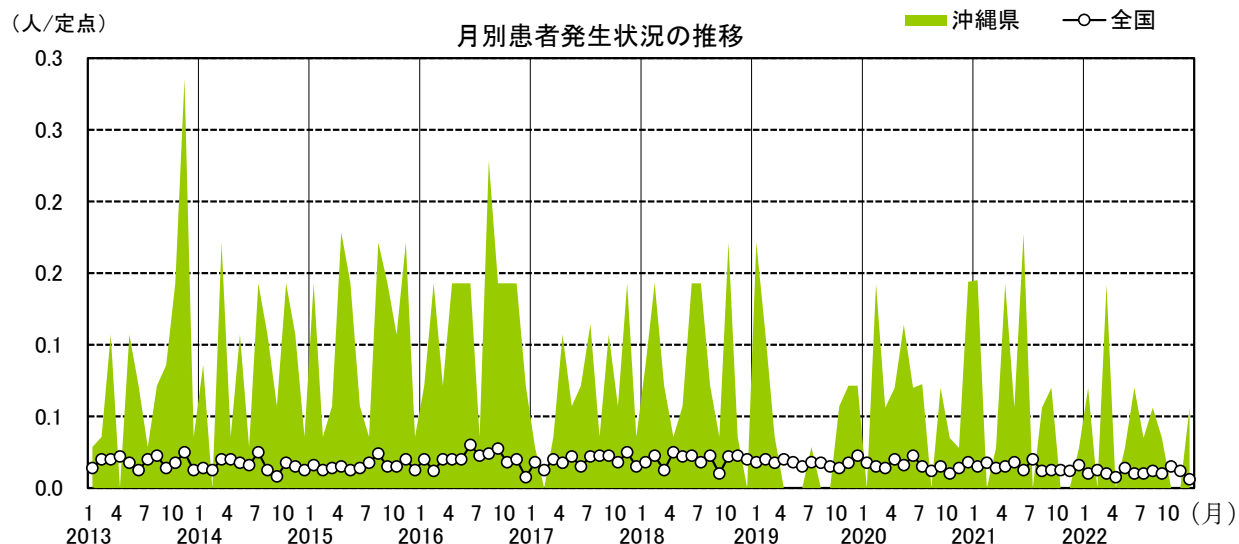
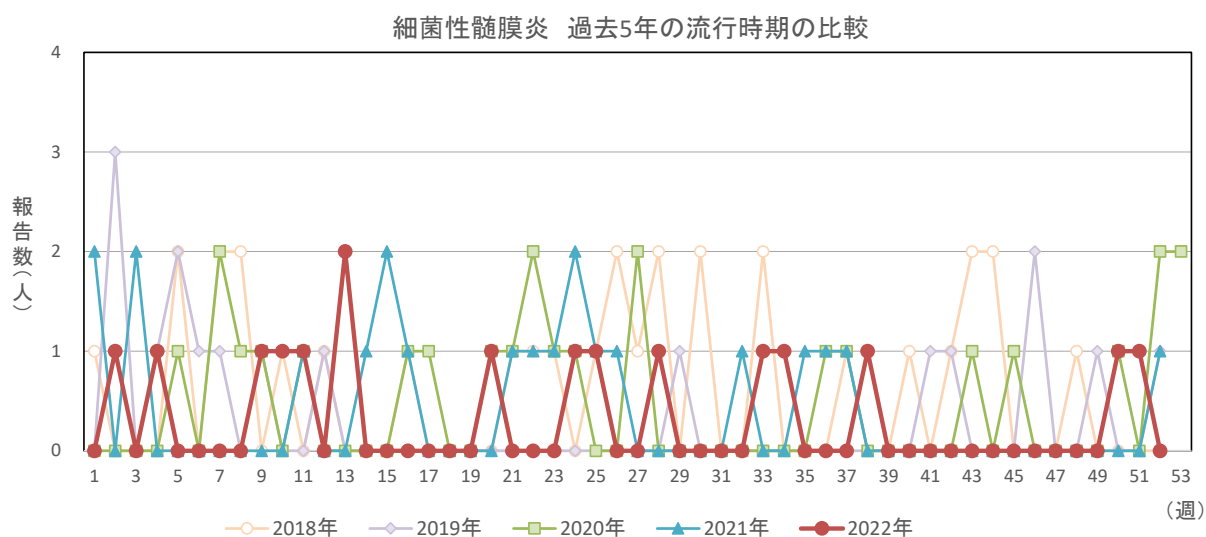
年齢階級別割合 沖縄県(2022年)



●細菌性髄膜炎

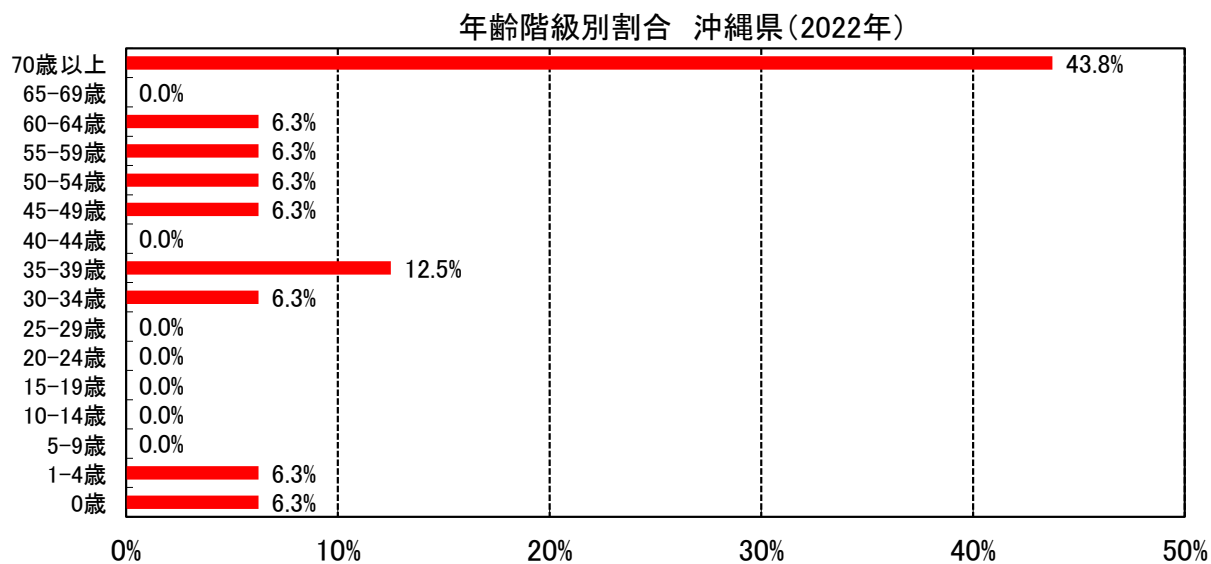
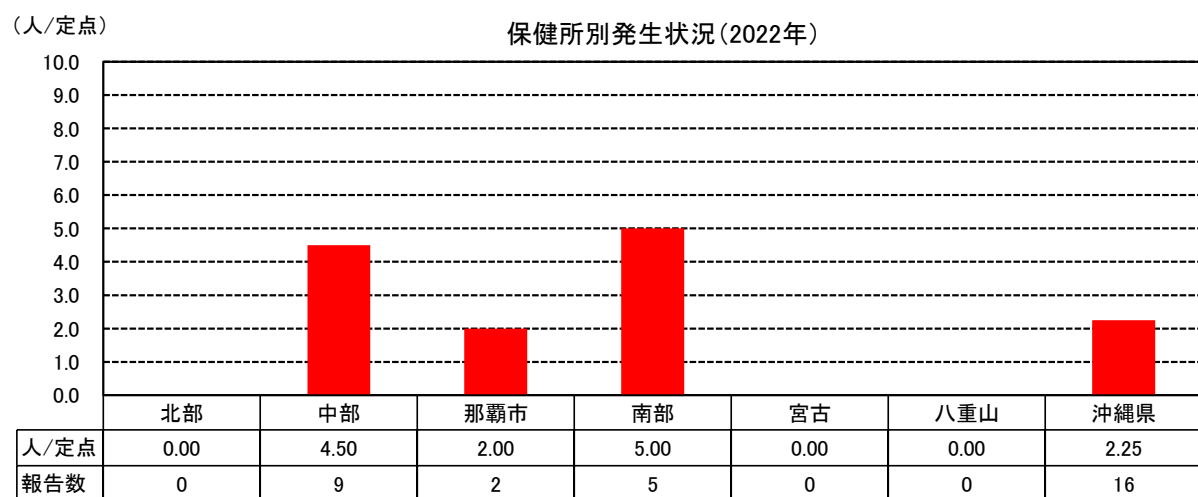
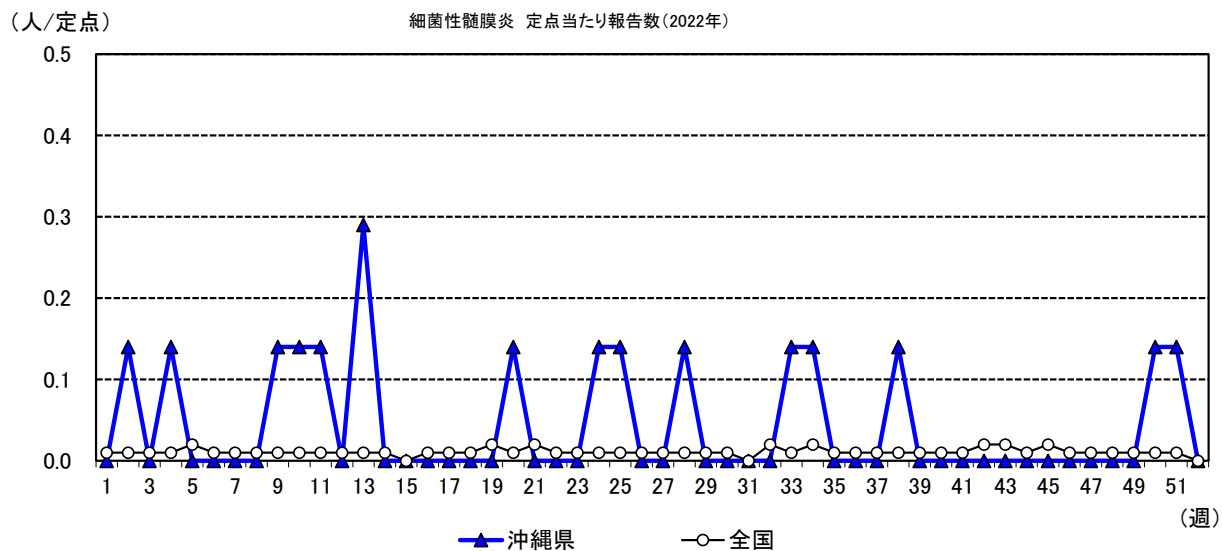
沖縄県では第13週の定点当たり報告数0.29人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.02人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、70歳以上が43.8%と最も多かった。



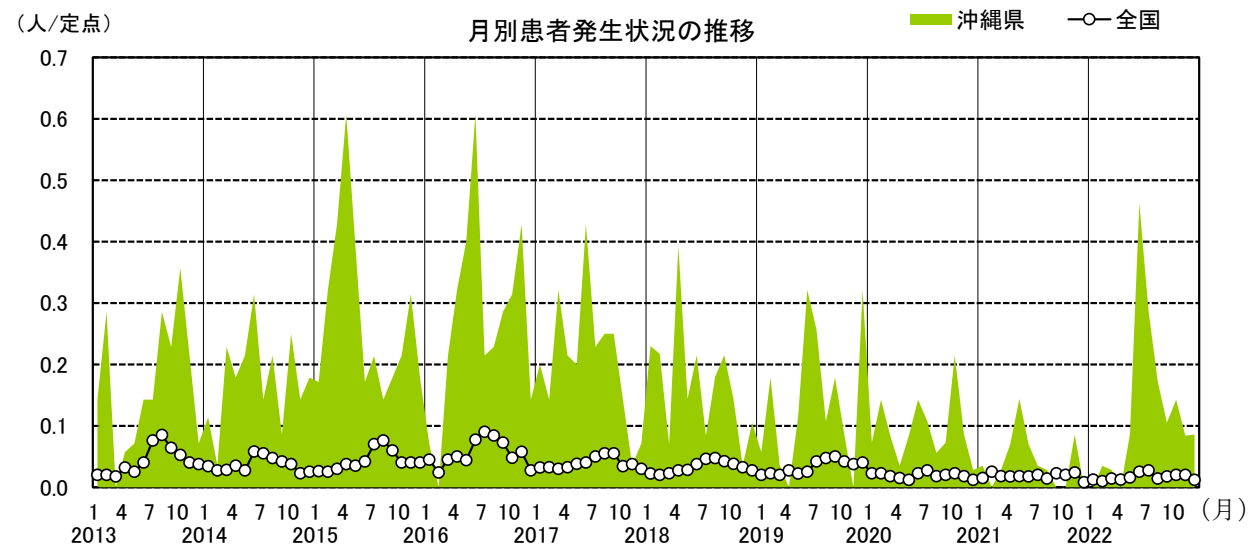
年別の報告数合計：細菌性髄膜炎

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2021年
22	31	17	25	21	16



2022年、沖縄県内の報告数は45人、定点当たり報告数は6.41人であり、2021年よりも増加した。

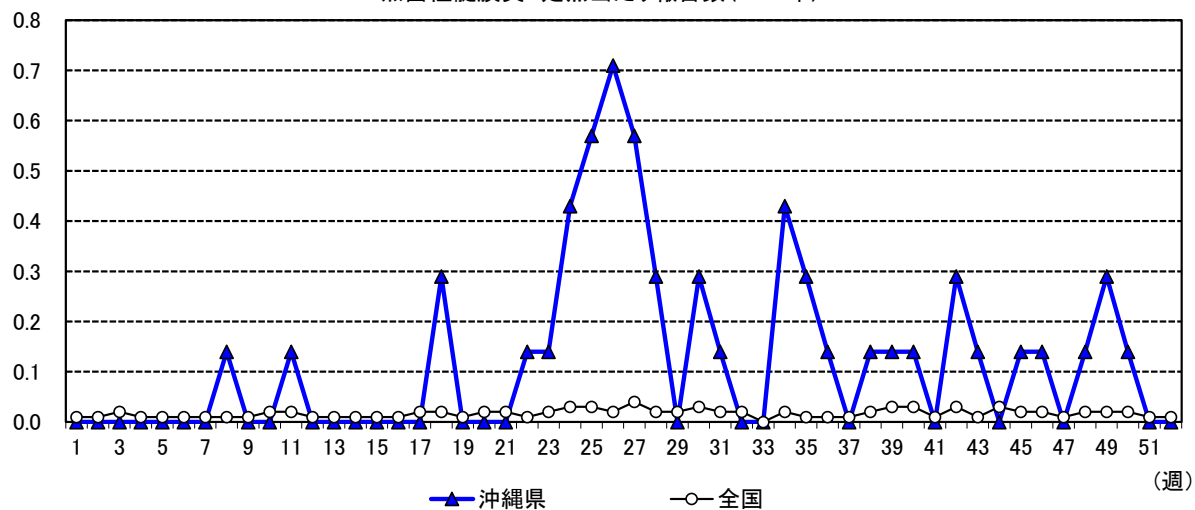
年齢階級別（沖縄県）の患者報告数では、0歳が最も多く全体の55.6%を占めた。



平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
41	61	50	34	16	45

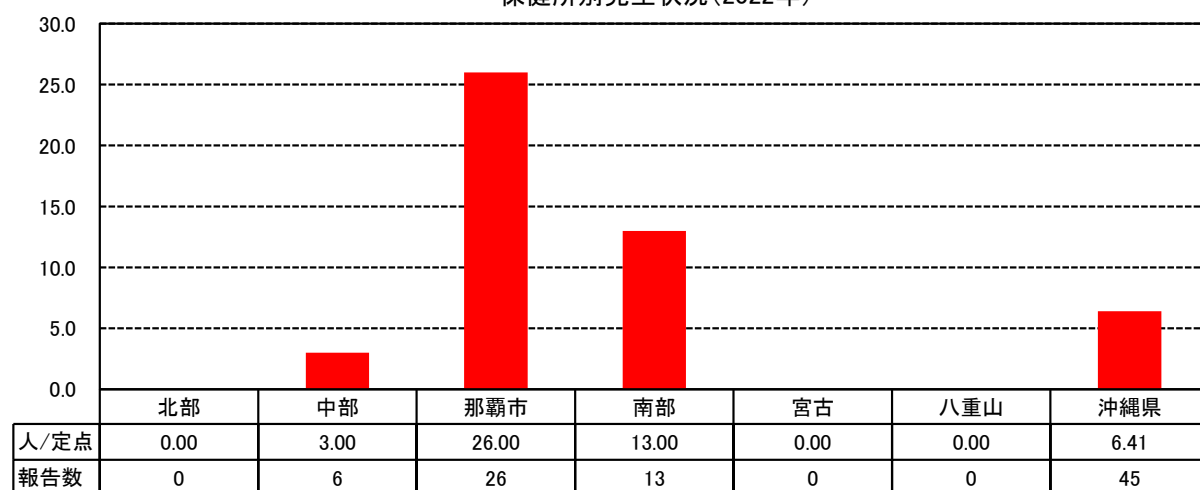
(人/定点)

無菌性髄膜炎 定点当たり報告数(2022年)

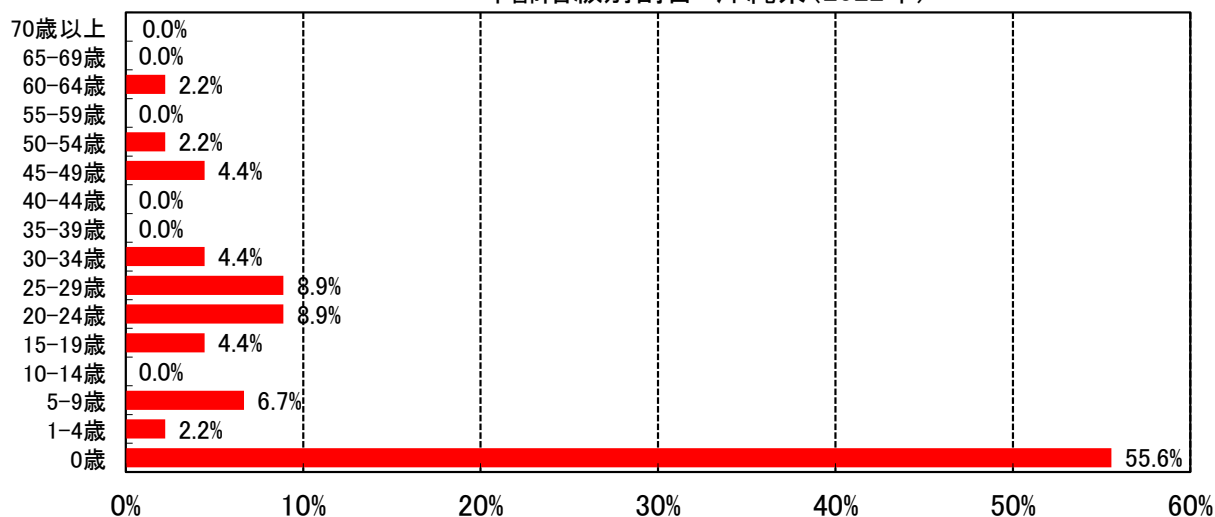


(人/定点)

保健所別発生状況(2022年)



年齢階級別割合 沖縄県(2022年)

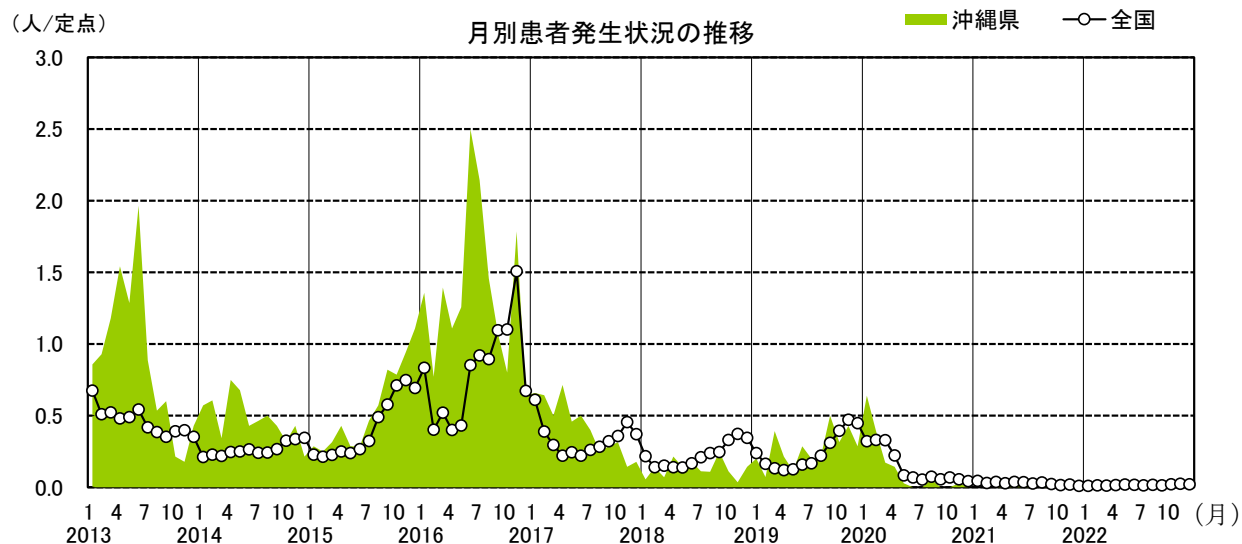
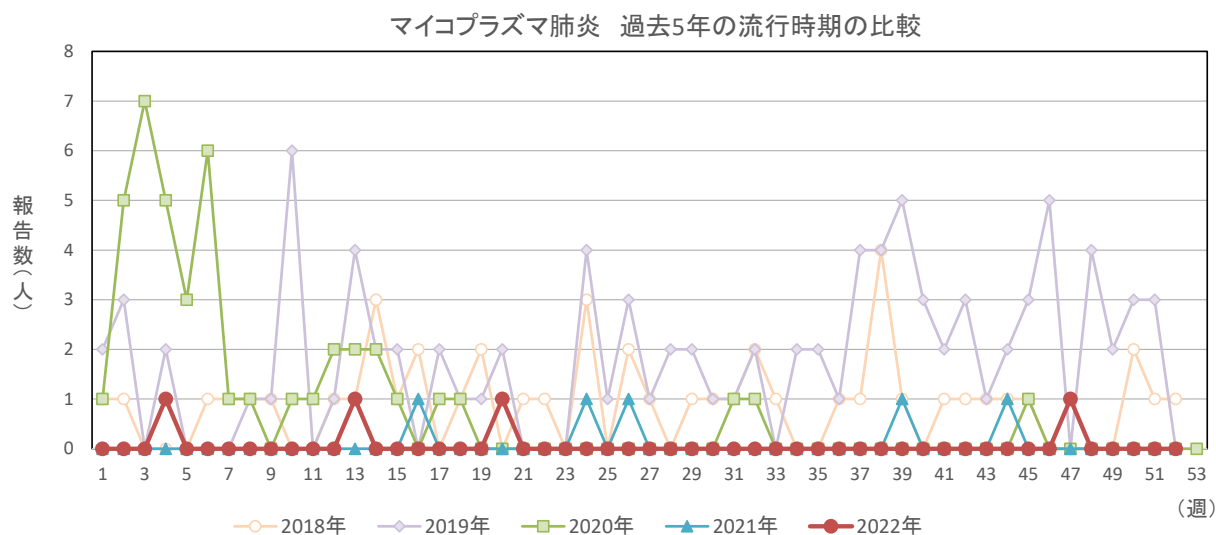


●マイコプラズマ肺炎

2022年、沖縄県内の報告数は4人、定点当たり報告数は0.56人であり、過去5年間で最も少ない報告数だった。

沖縄県では複数の週での定点当たり報告数0.14人が、全国では複数の週での定点当たり報告数0.03人が最多であった。

年齢階級別（沖縄県）では、1-4歳、20-24歳、25-29歳、55-59歳でそれぞれ1人の報告があった。

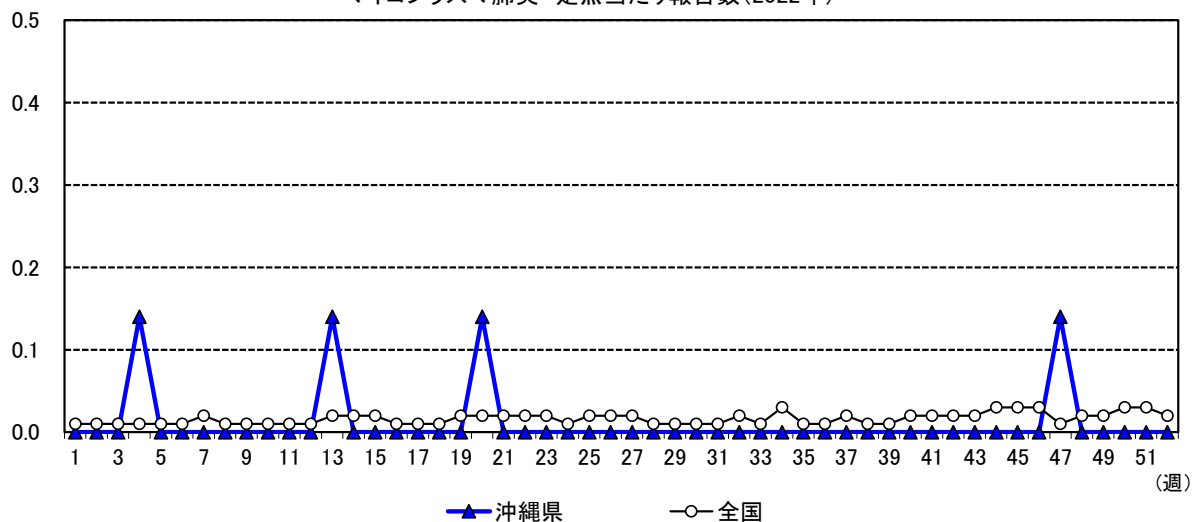


年別の報告数合計：マイコプラズマ肺炎

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
39	47	96	43	5	4

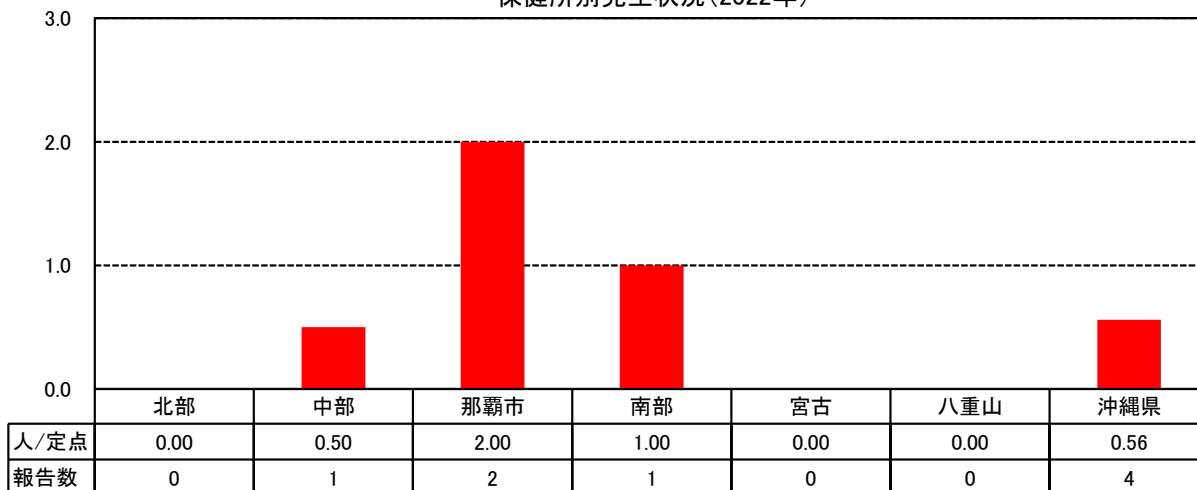
(人/定点)

マイコプラズマ肺炎 定点当たり報告数(2022年)

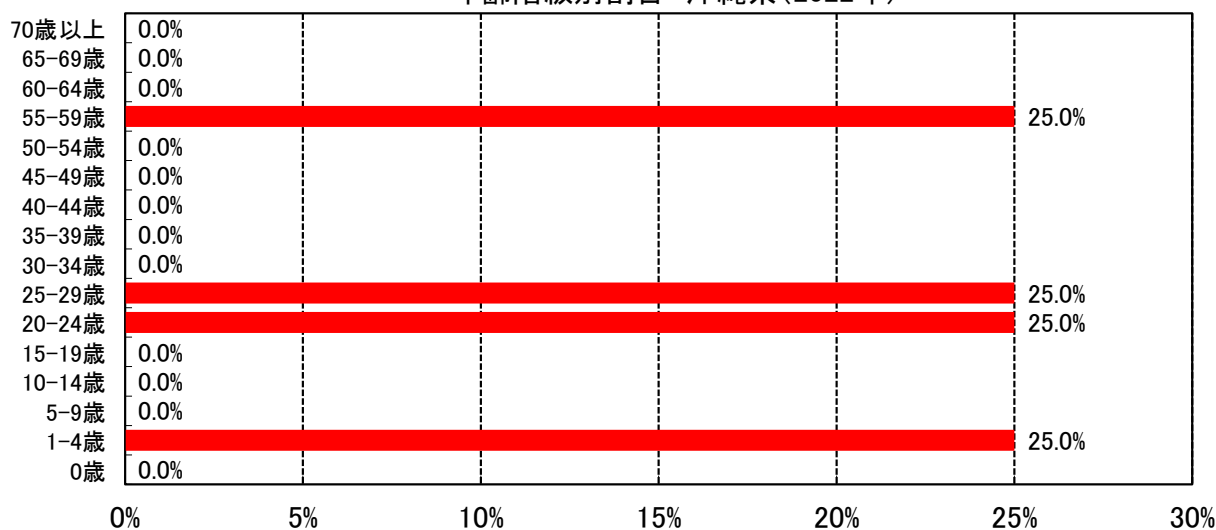


(人/定点)

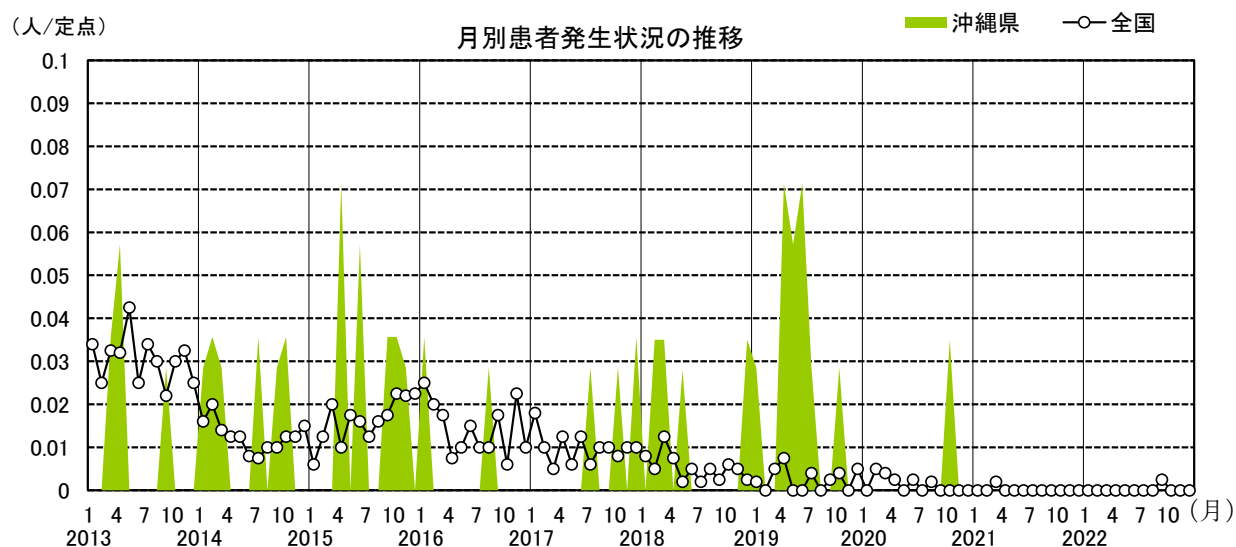
保健所別発生状況(2022年)



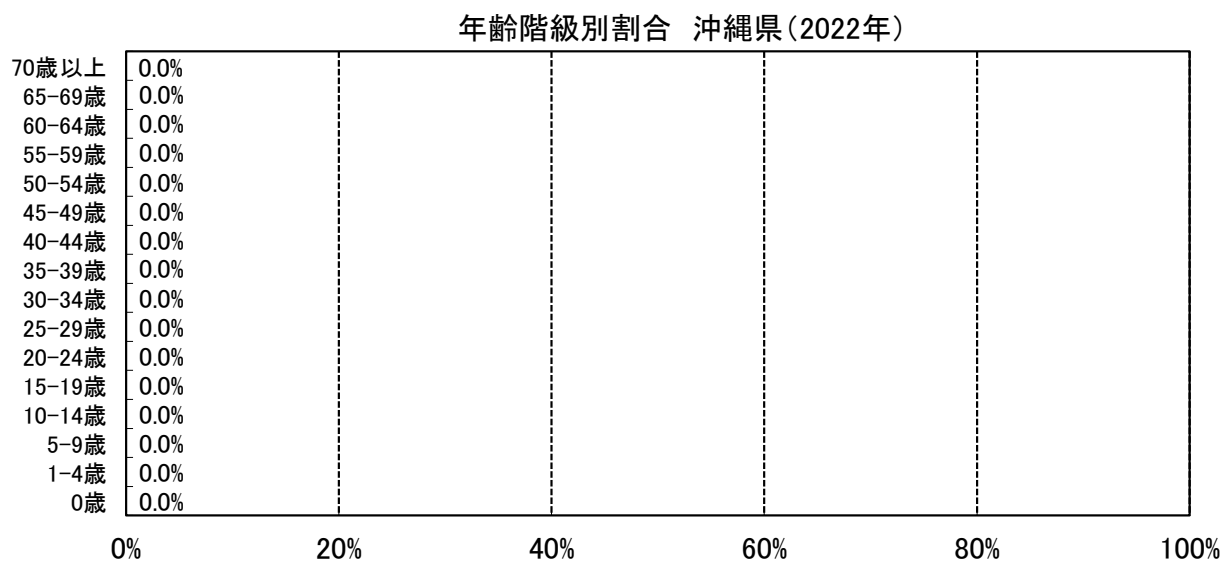
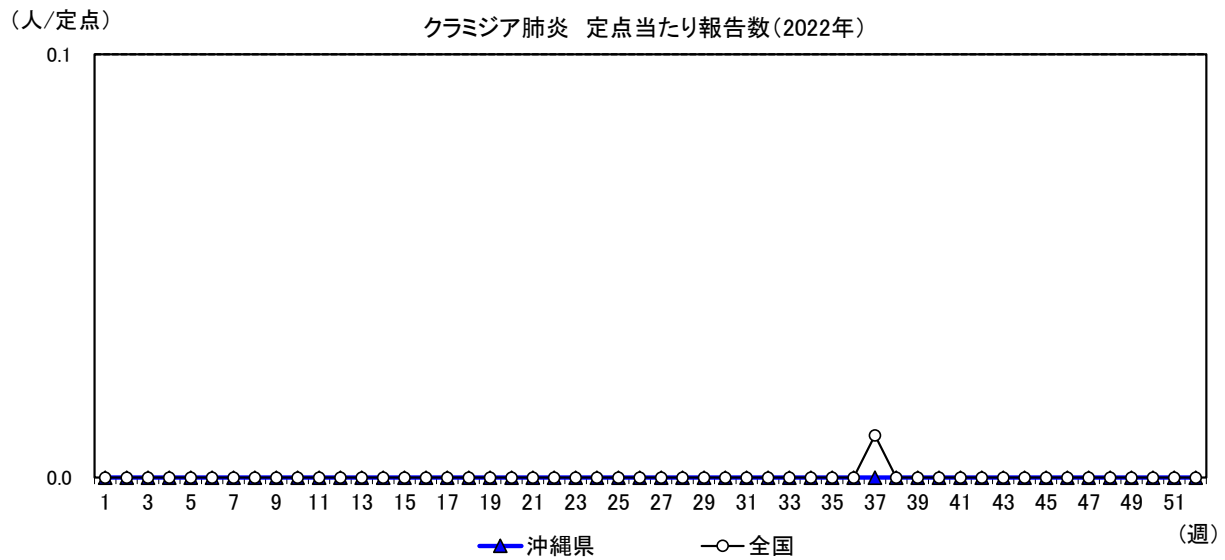
年齢階級別割合 沖縄県(2022年)



2022年、沖縄県内の報告数は0人で2021年と同数であった。
全国での報告数は32人、定点当たり報告数は0.07人で2021年の定点当たり報告数0.05人よりも増加した。

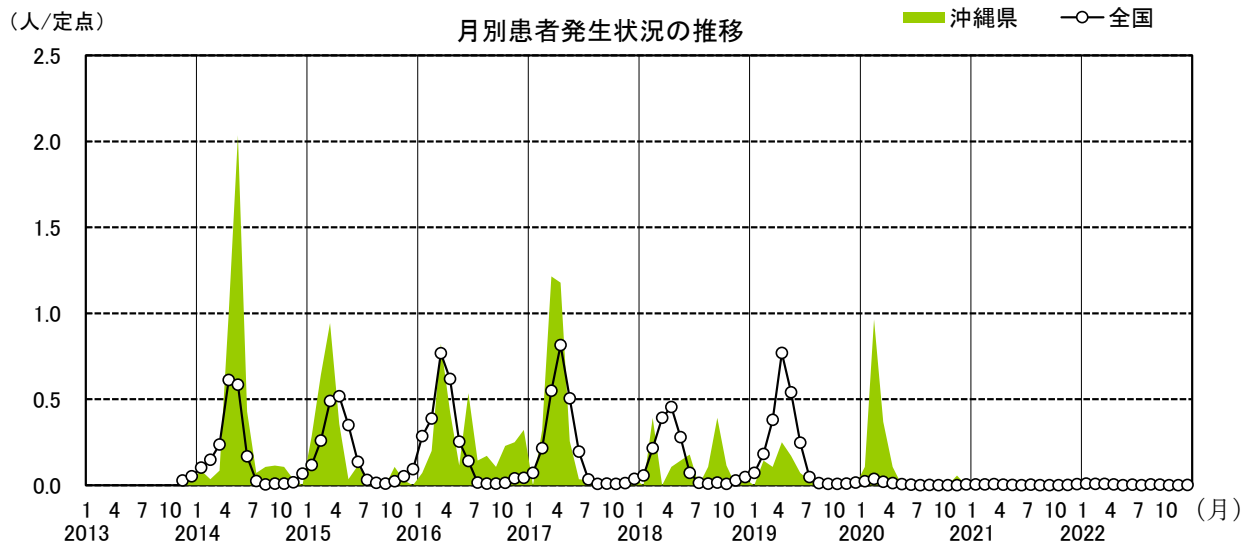
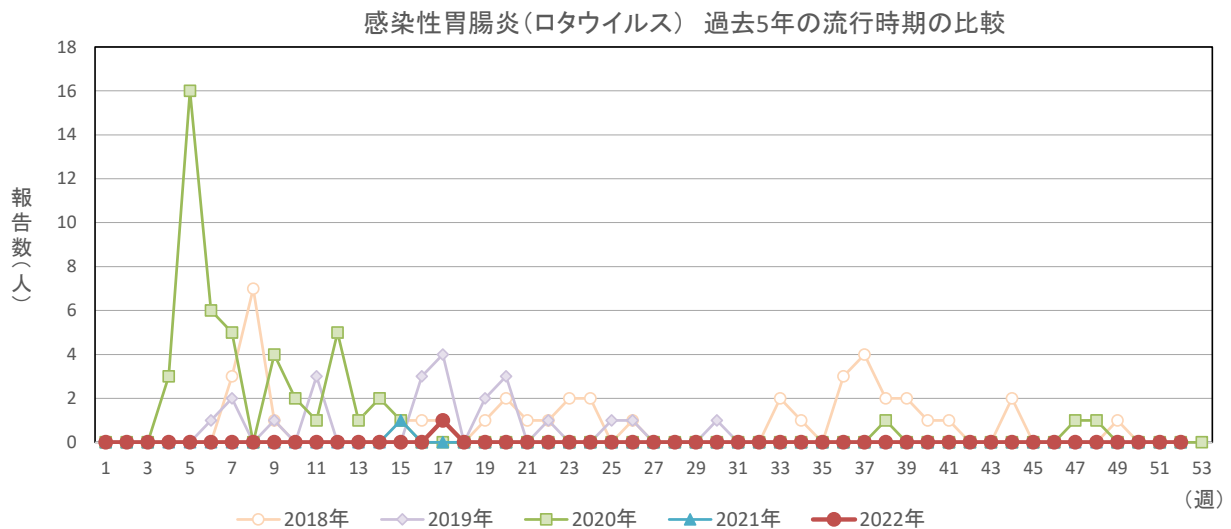


平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
3	4	9	1	0	0



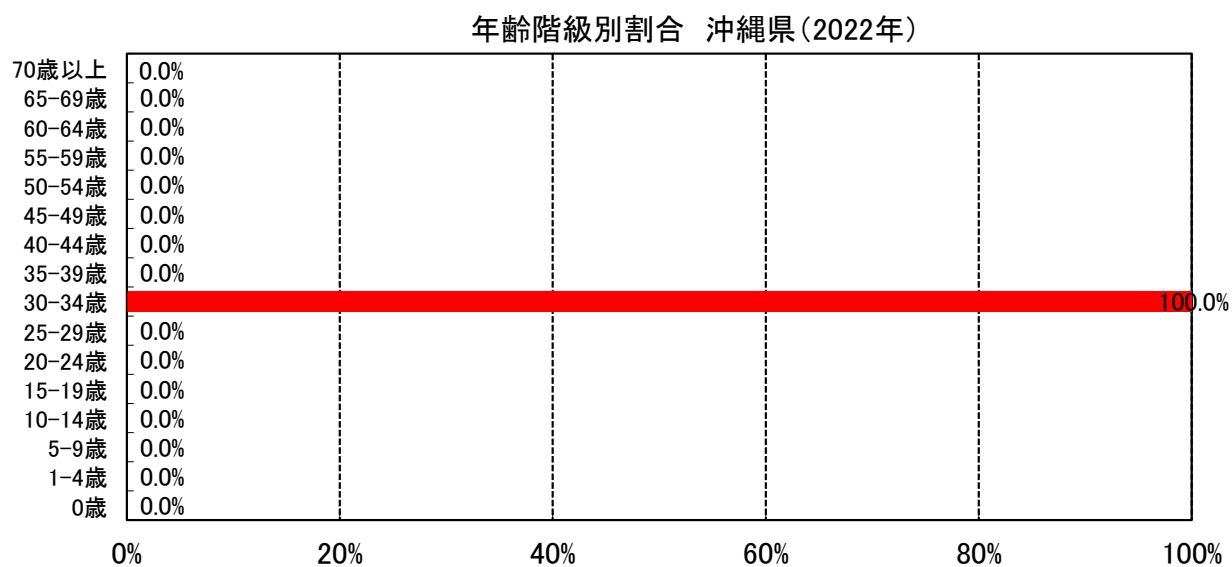
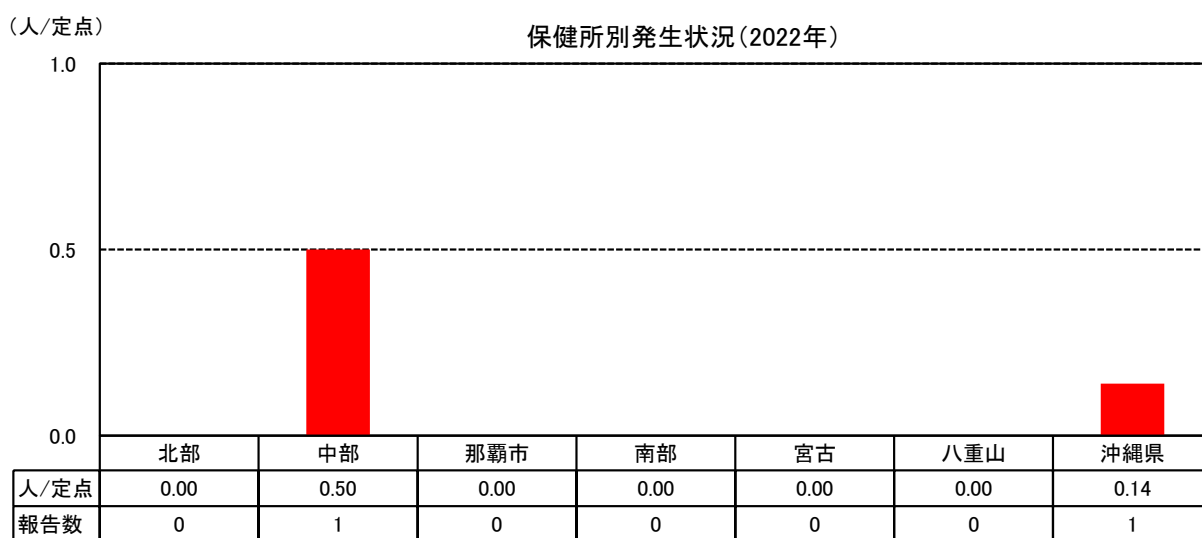
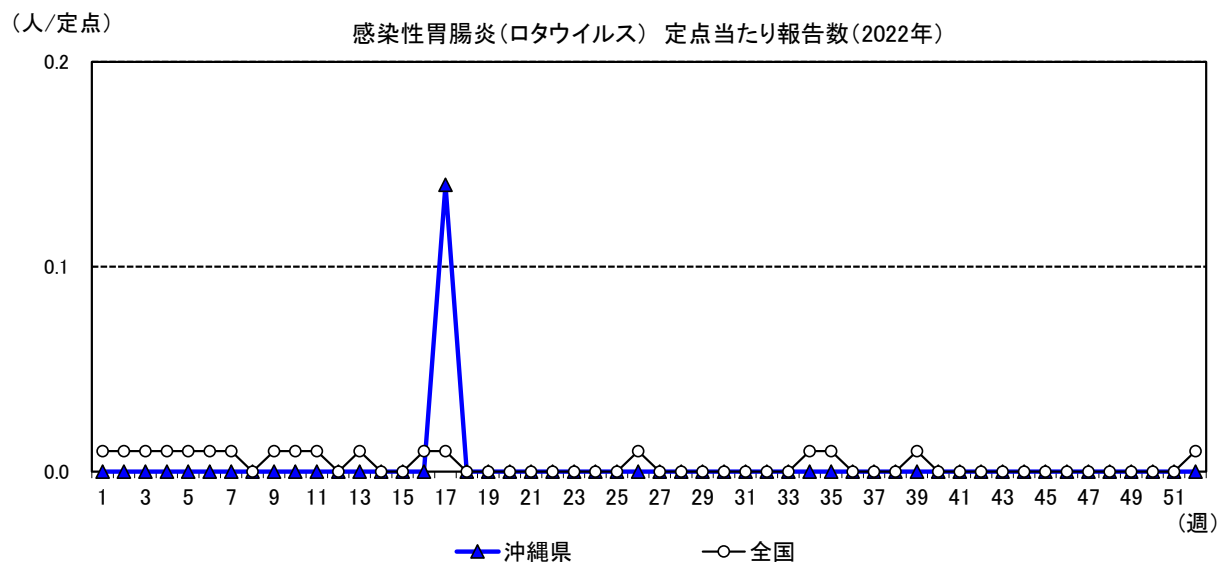
● 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

2022年、沖縄県内の報告数は1人、定点あたり報告数は0.14人で2021年と同数であった。
 全国での報告数は99人、定点あたり報告数は0.21人で、2021年の定点あたり報告数0.19人よりも増加した。



年別の報告数合計：感染性胃腸炎（ロタウイルス）

平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
23	43	23	49	1	1



MEMO

2 月報

(1) 性感染症 (STD) 定点

(※宮古および八重山は人口規模が小さいため、性感染症の定点医療機関は設置されていない。)

●性器クラミジア感染症

2022 年の沖縄県の報告数は 385 人（男性 30 人、女性 385 人）だった。年間の定点当たり報告数は 32.08 人で 2021 年（34.10 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：30.66 人）とほぼ同様の水準にあった。性別でみると男性は 2.50 人で 2021 年（3.58 人）に比べかなり減少し、全国（2022 年：15.85 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 29.58 人で 2021 年（30.50 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：14.81 人）に比べ大幅に高い水準にあった。性別年代別でみると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

●性器ヘルペスウイルス感染症

2022 年の沖縄県の報告数は 59 人（男性 6 人、女性 53 人）だった。年間の定点当たり報告数は 4.92 人で 2021 年（5.77 人）に比べやや減少し、全国（2022 年：8.86 人）に比べかなり低い水準にあった。性別でみると男性は 0.48 人で 2021 年（0.16 人）に比べ大幅に増加し、全国（2022 年：3.40 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 4.41 人で 2021 年（5.59 人）に比べやや減少し、全国（2022 年：5.46 人）とやや低い水準にあった。性別年代別でみると男性は 20 代と 30 代で各 2 人、40 代と 50 代で各 1 人の報告があり、女性は 20 代が最も多かった。

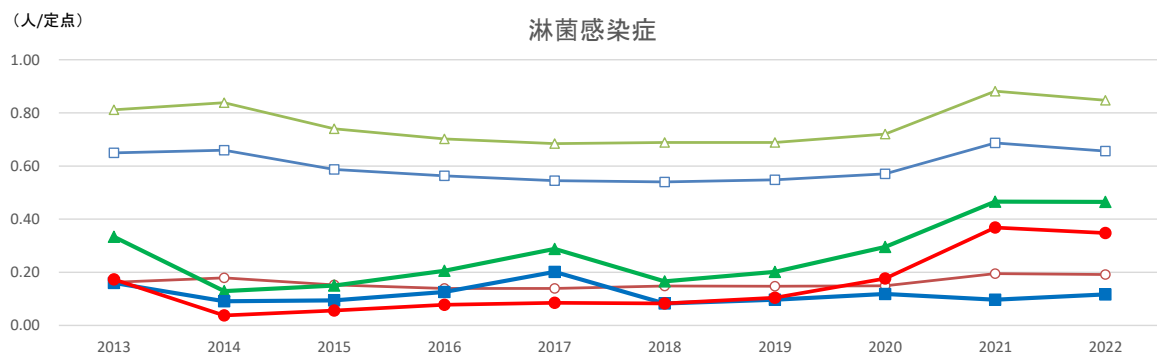
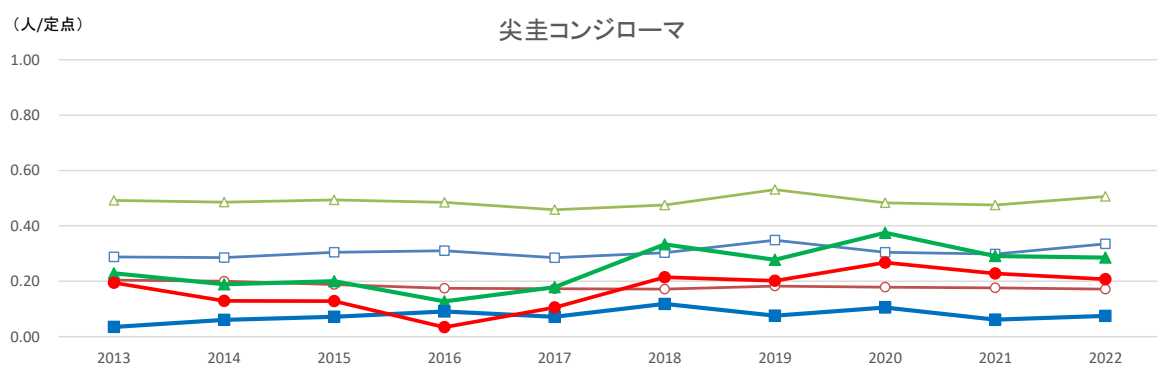
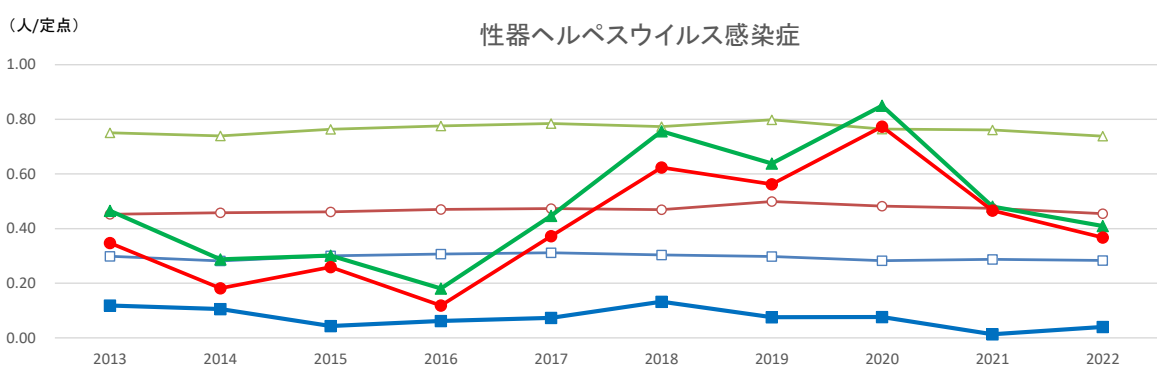
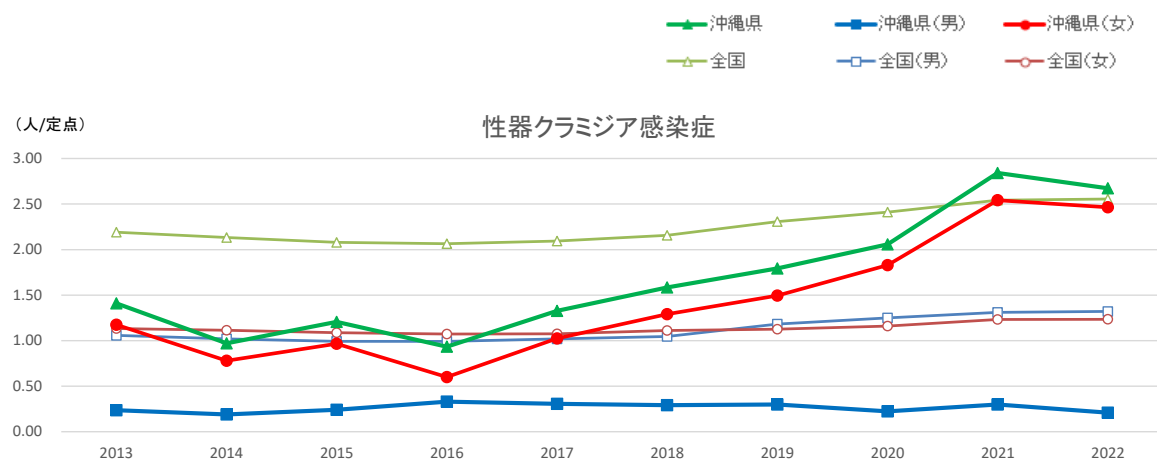
●尖圭コンジローマ

2022 年の沖縄県の報告数は 41 人（男性 11 人、女性 30 人）だった。年間の定点当たり報告数は 3.43 人で 2021 年（3.49 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：6.08 人）に比べかなり低い水準にあった。性別でみると男性は 0.90 人で 2021 年（0.74 人）に比べやや増加し、全国（2022 年：4.02 人）に比べ大幅に低い水準にあった。女性は 2.49 人で 2021 年（2.74 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：2.06 人）に比べやや高い水準にあった。性別年齢別でみると男性は 20 代と 40 代が同数で最も多く、女性は 20 代が最も多かった。

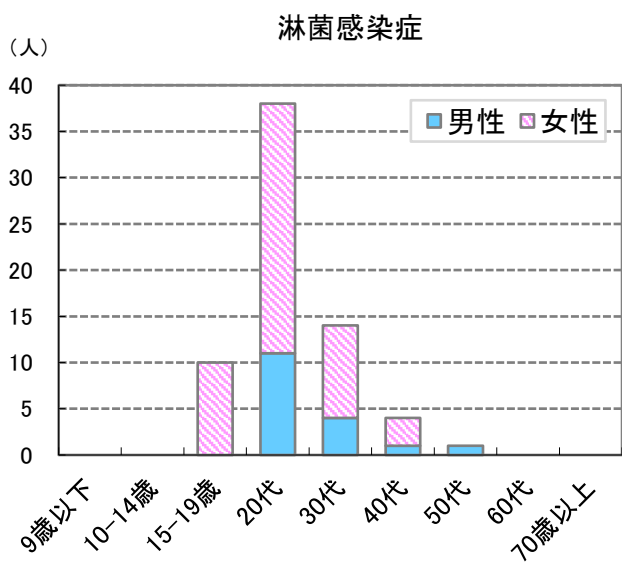
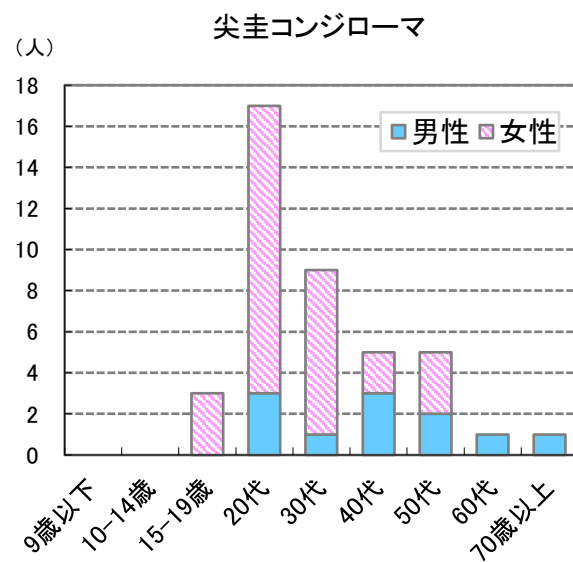
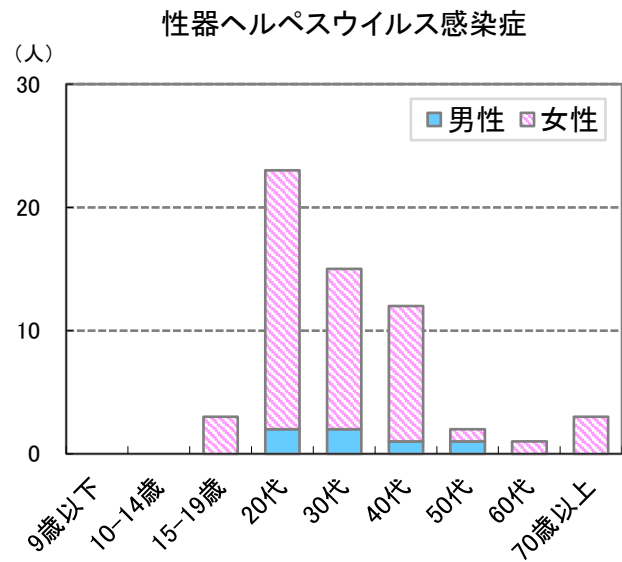
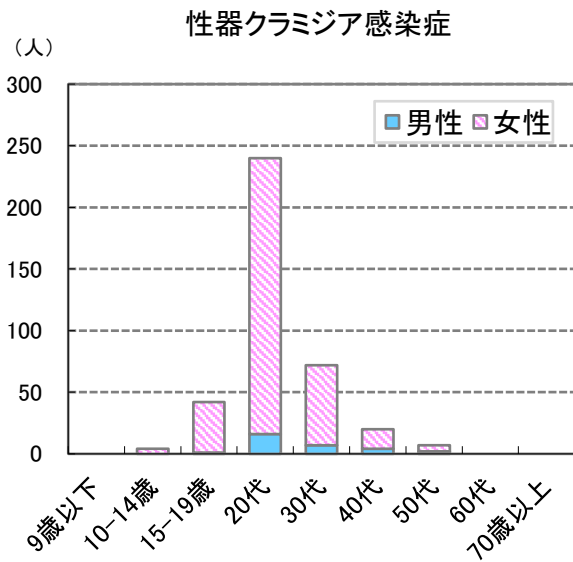
●淋菌感染症

2022 年の沖縄県の報告数は 67 人（男性 17 人、女性 50 人）だった。年間の定点当たり報告数は 5.58 人で 2021 年（5.59 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：10.17 人）に比べかなり低い水準にあった。性別でみると男性は 1.40 人で 2021 年（1.16 人）に比べやや増加し、全国（2022 年：7.87 人）に比べかなり低い水準にあった。女性は 4.17 人で 2021 年（4.42 人）とほぼ同様の水準で、全国（2022 年：2.30 人）に比べ大幅に高い水準にあった。性別年齢別でみると男性は 20 代が最も多く、女性も 20 代が最も多かった。

ア. 疾患別定点当たり報告数（月平均）の年次推移



イ. 性別・年齢別患者報告数（沖縄県：2022年）



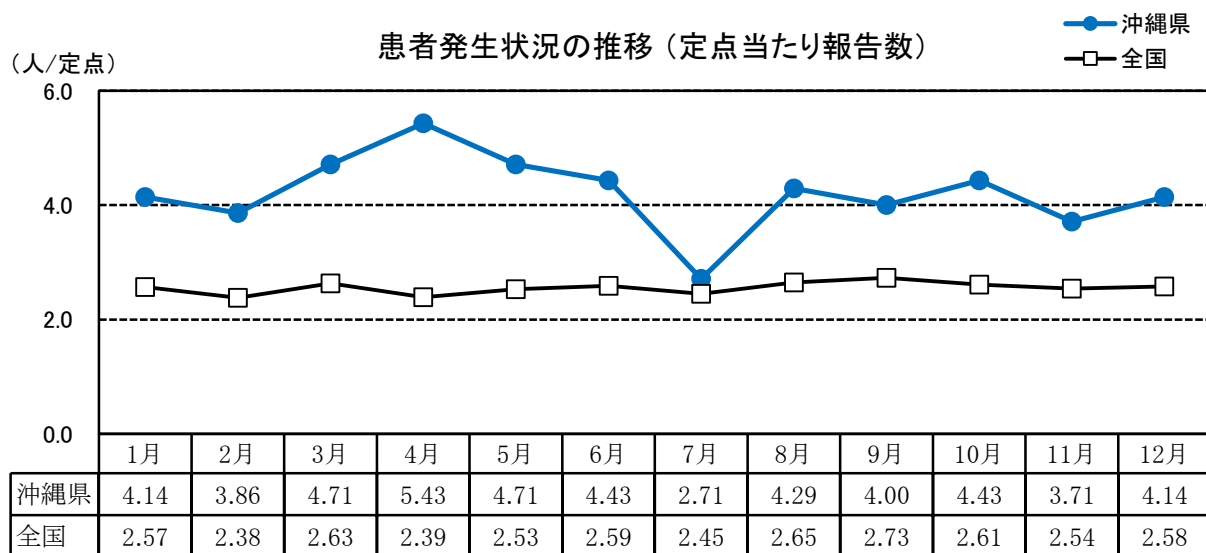
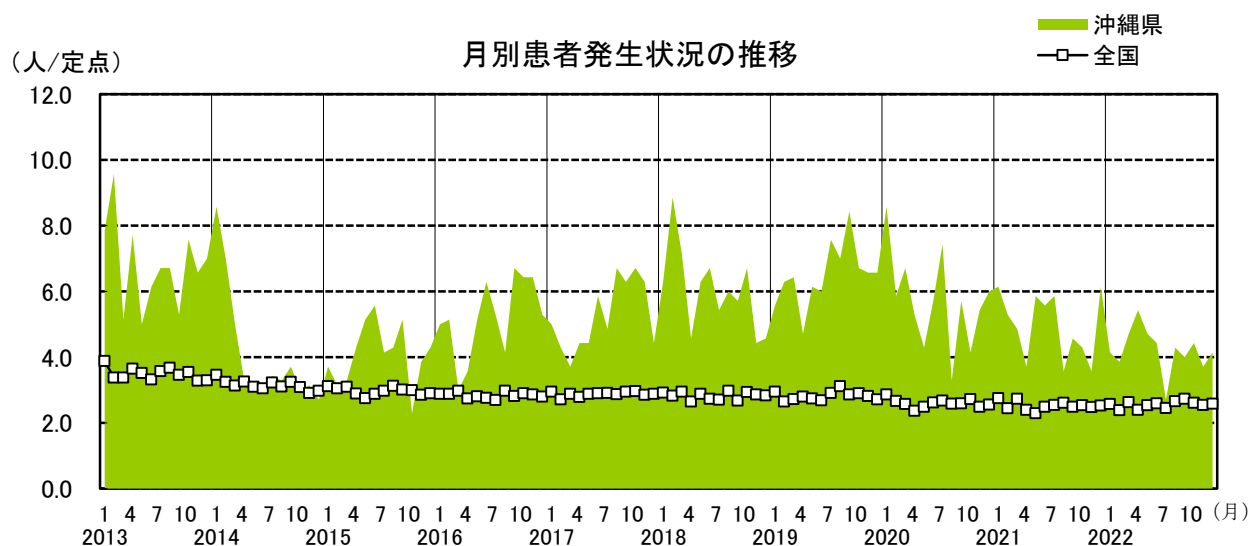
		9歳以下	10-14歳	15-19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	小計	合計
性器クラミジア感染症	男性	0	0	1	16	7	4	2	0	0	30	385
	女性	0	4	41	224	65	16	5	0	0	355	
性器ヘルペスウイルス感染症	男性	0	0	0	2	2	1	1	0	0	6	59
	女性	0	0	3	21	13	11	1	1	3	53	
尖圭コンジローマ	男性	0	0	0	3	1	3	2	1	1	11	41
	女性	0	0	3	14	8	2	3	0	0	30	
淋菌感染症	男性	0	0	0	11	4	1	1	0	0	17	67
	女性	0	0	10	27	10	3	0	0	0	50	

(2) 基幹定点(薬剤耐性菌)

●メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2022年、沖縄県内の報告数は354人だった。年間の定点当たり報告数は50.56人で2021年(59.43人)に比べやや減少し、全国(2022年：30.68人)に比べ大幅に高い水準にあった。

年齢階級別の患者報告数は70歳以上が最も多く、全体の51.7%を占めていた。

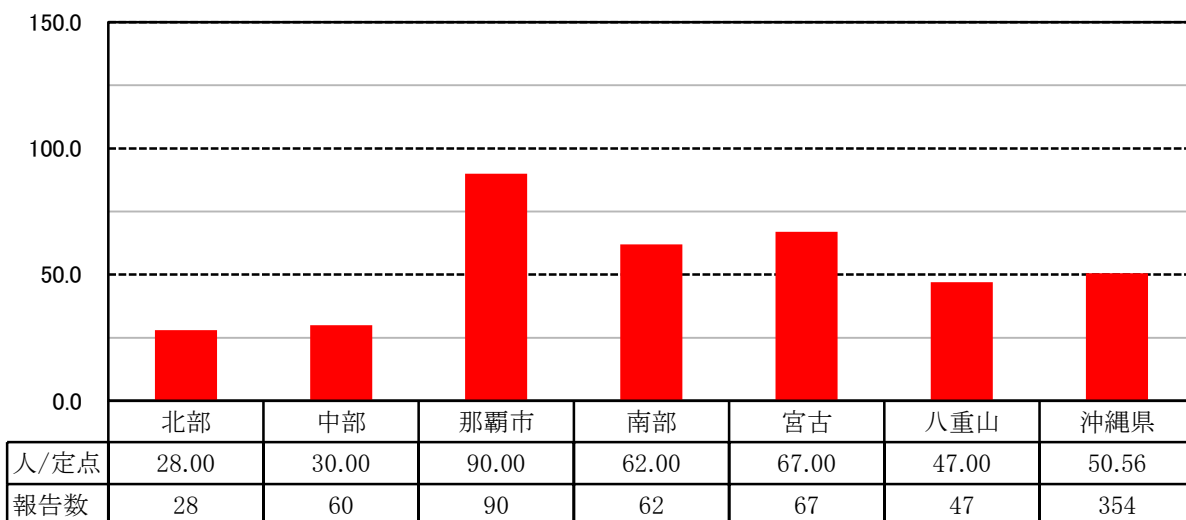


年別の報告数合計：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

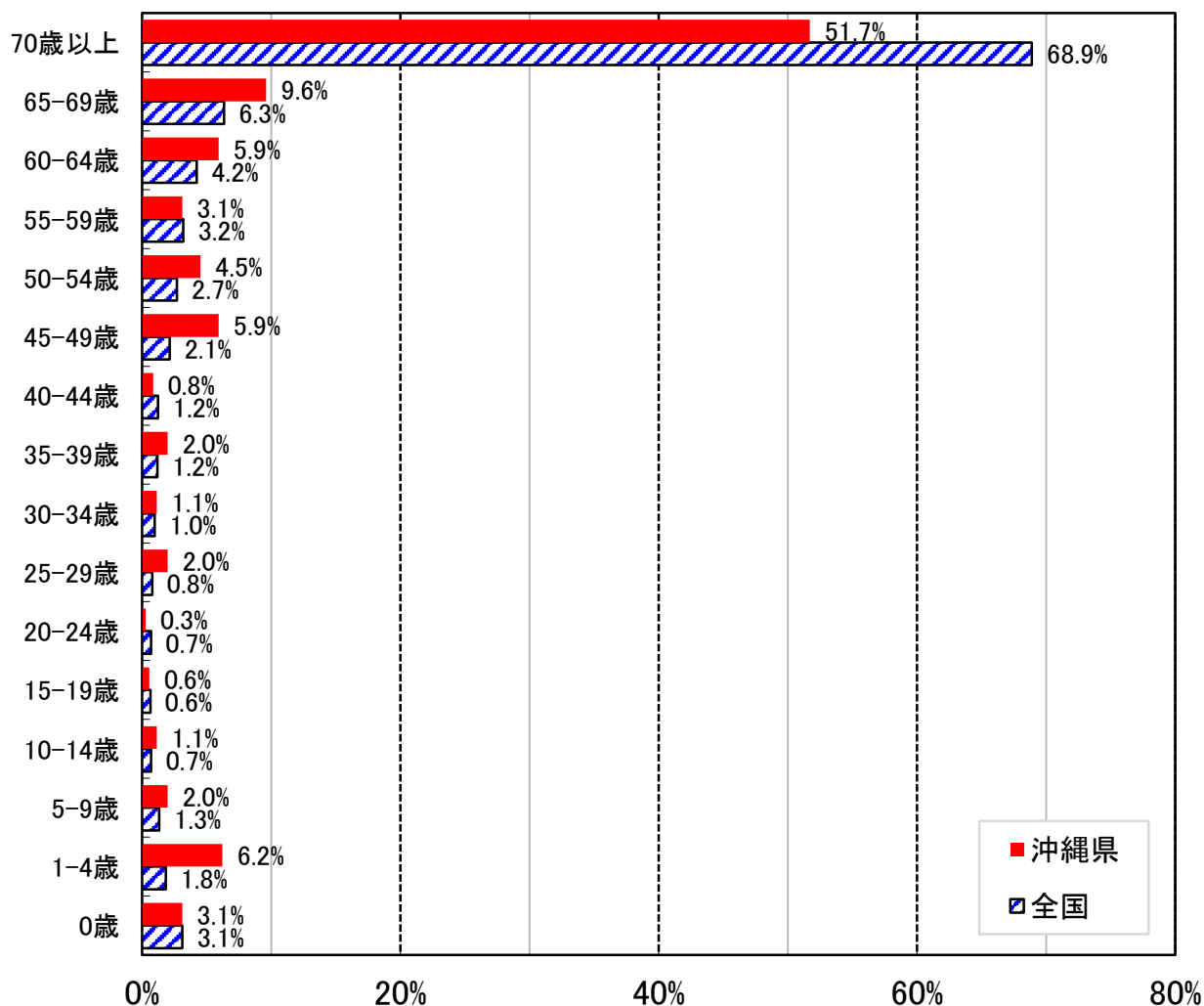
平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
461	509	546	479	416	354

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



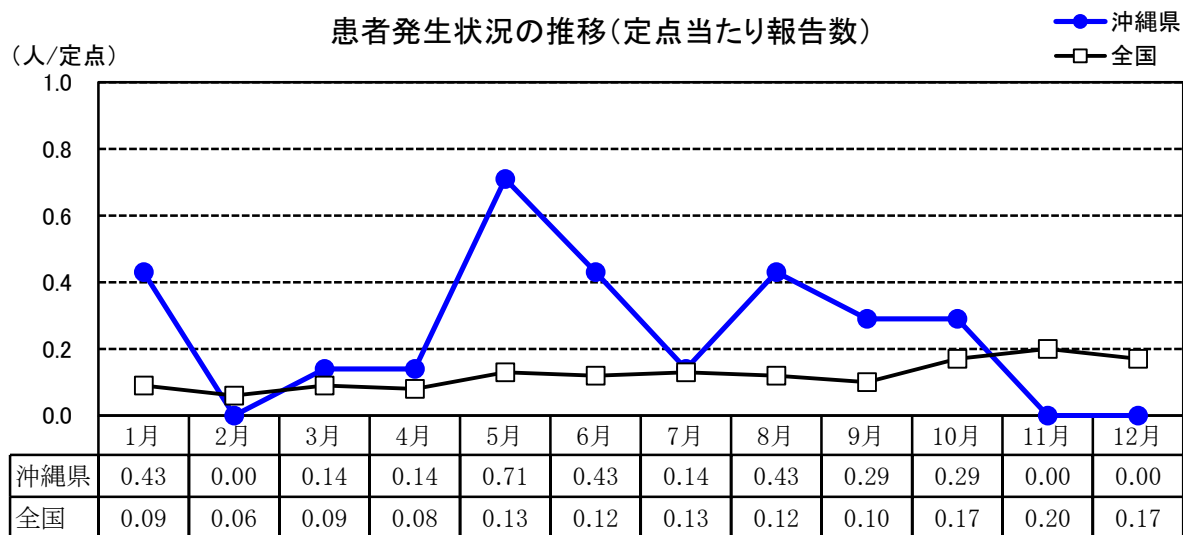
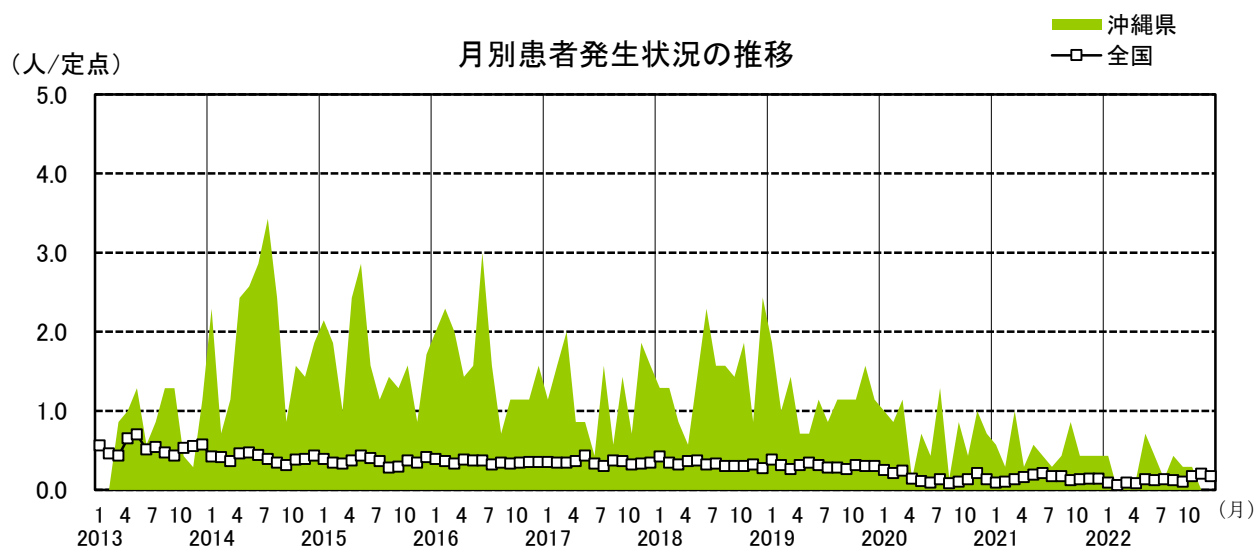
年齢階級別割合



●ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2022年、沖縄県内の報告数は21人だった。定点当たり報告数は3.00人で2021年（6.02人）に比べかなり減少し、全国（2022年：1.46人）に比べ大幅に高い水準であった。

年齢階級別の患者報告数は1-4歳が最も多く、全体の23.8%を占めていた。

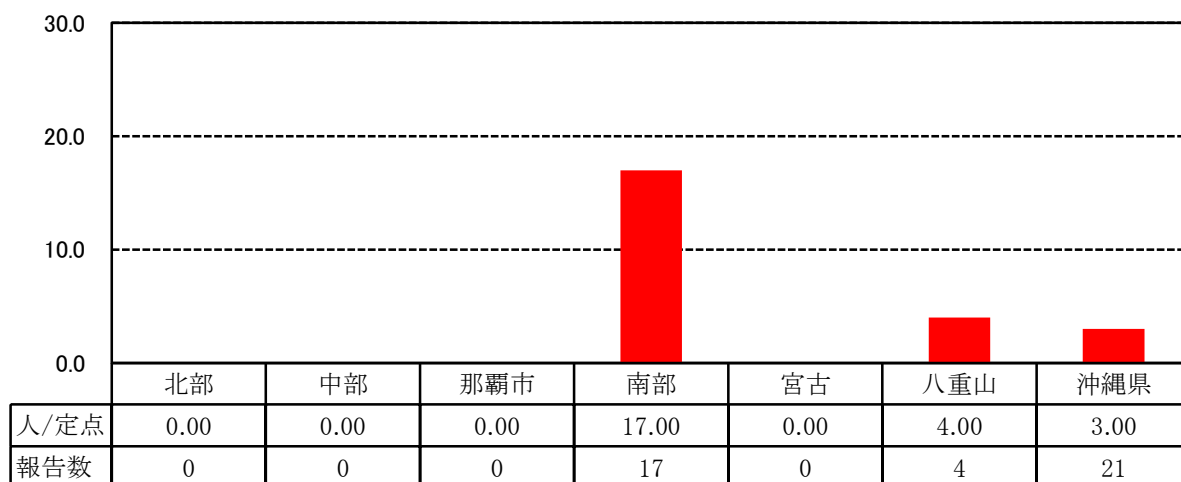


年別の報告数合計： ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

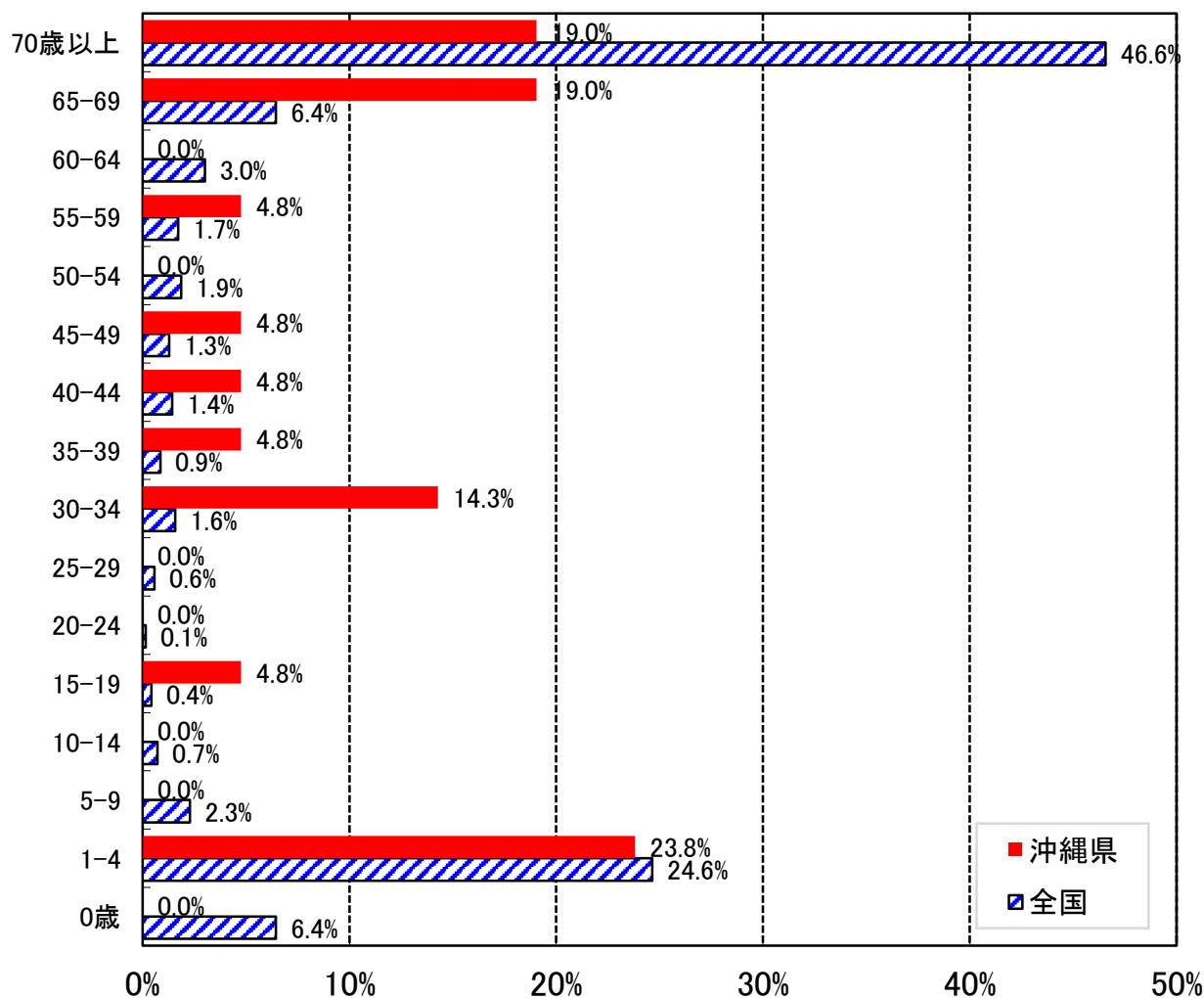
平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
69	122	97	61	42	21

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



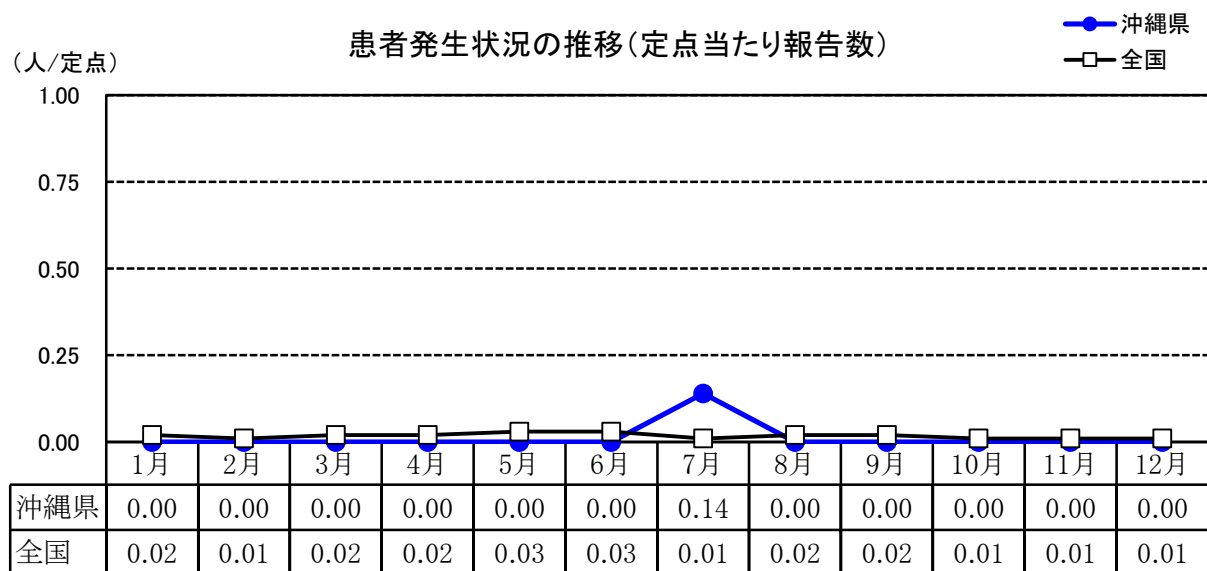
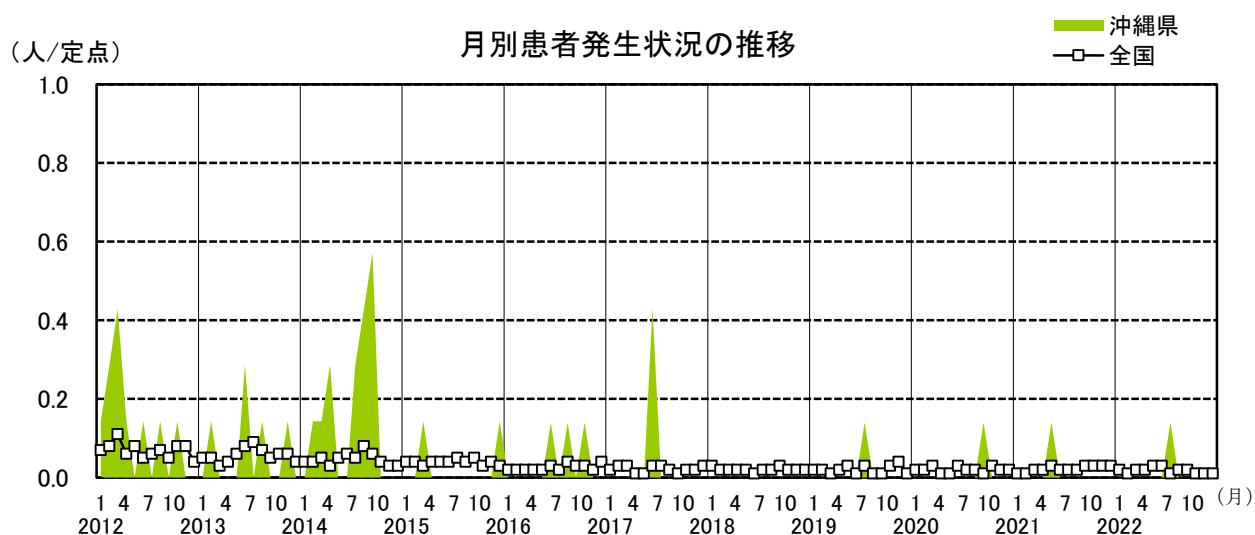
年齢階級別割合



●薬剤耐性緑膿菌感染症

2022年、沖縄県内の報告数は1人だった。定点当たり報告数は0.14人で2021年（0.14人）と同数で、全国（2022年：0.22人）に比べかなり低い水準にあった。

報告例は那覇市保健所管内の70歳以上であった。

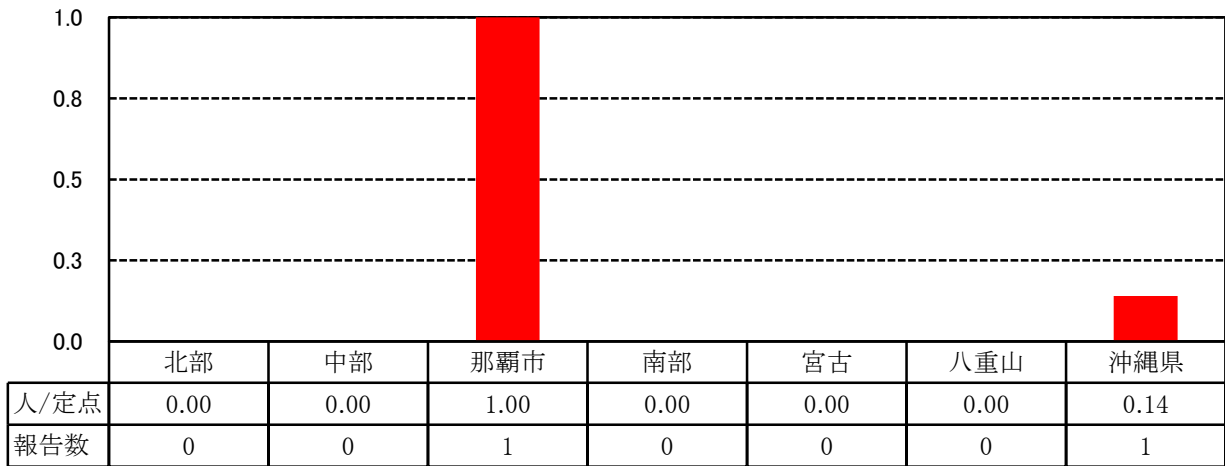


シーズン別の報告数合計： 薬剤耐性緑膿菌感染症

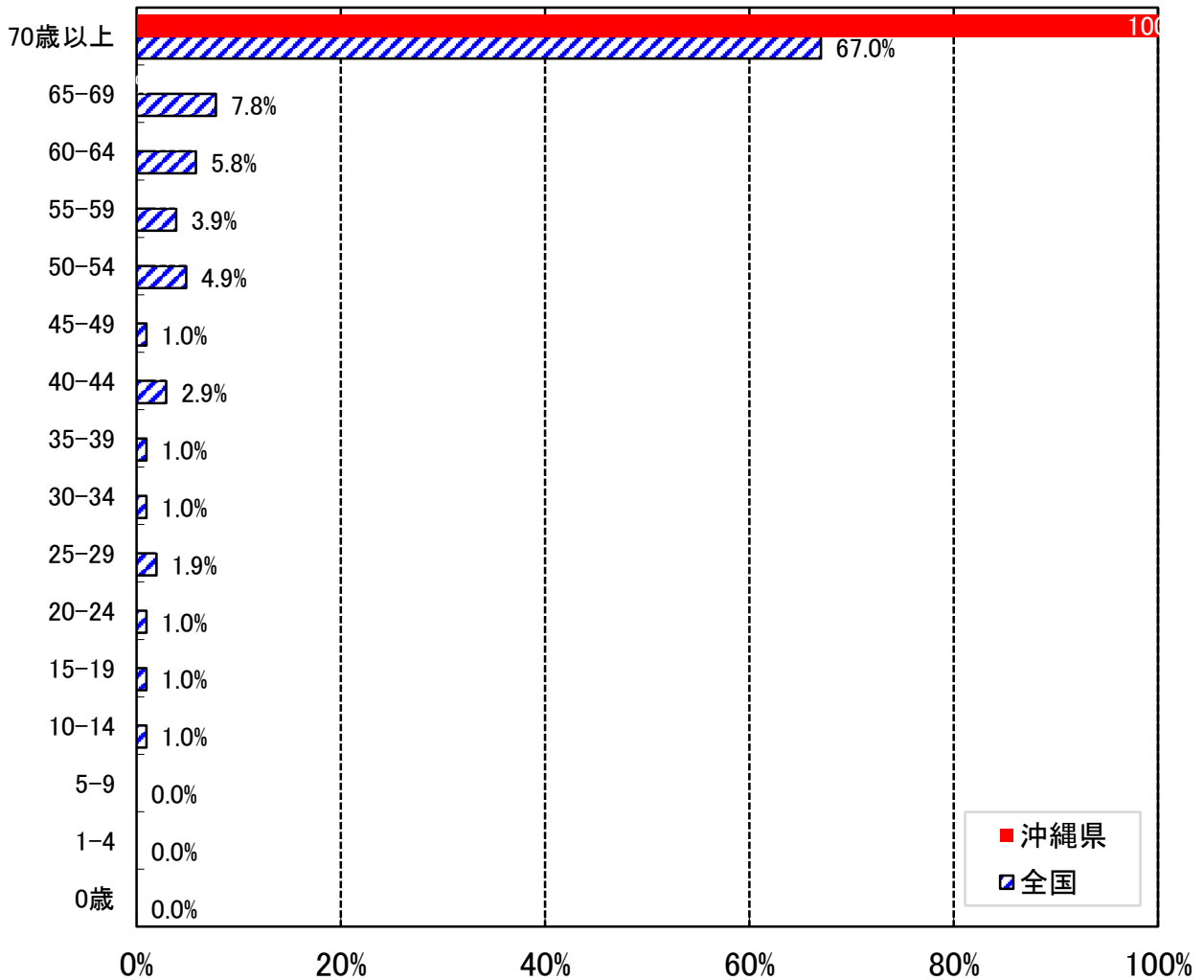
平均報告数	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
1	0	1	1	1	1

薬剤耐性緑膿菌感染症 保健所別発生状況

(人/定点)



年齢階級別割合



MEMO